

北野病院紀要

2020 年度



文献略号
北野紀要

☎530-8480 大阪市北区扇町 2-4-20
公益財団法人 田附興風会 医学研究所

令和 3 年 12 月 吉日

令和3年9月吉日

ご挨拶

総長・病院長 吉村 長久
医学研究所所長 武藤 誠

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。この度、令和2（2020）年度の医学研究所紀要を取りまとめましたので、お送りします。本紀要は平成21年度まで冊子体で発行していましたが、諸般の都合でその後中止しておりました。令和元年度より、電子版として発行することとしました。

令和2年度には新館が竣工し、西館にあった研究所企画室と実験室を新館7階に移転しました。最新の設備を整えた研究施設が医局と同じ建物に完成し、利便性も向上しました。また、研究所業務の統括に関しまして従来は病院長が研究所長を併任していましたが、令和元年度より専任職とし、研究運営体制の強化を図っております。さらに、令和元年度より新たに『北野カデット』制度を開始しました。これは、研究意欲旺盛な若手医師を毎年若干名採用し、臨床経験を積む場と研究を継続できる環境を提供し、次世代の医学を担う優れた医学研究者の育成を目指す3年間任期のプログラムで、京都大学医学研究科との連携・協力のもと実施しています。加えて、京都大学医学研究科の連携大学院として令和元年度より、卓越大学院プログラムも始まり、大学院生を受け入れるプログラムも充実を図っています。今後とも当研究所の活動にご理解ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

なお、本紀要の編纂に当たり、研究所事務の西田宗一氏をはじめ関係の諸氏の多大なご尽力に感謝します。本誌についての礼状等のお気遣いをご放念ください。本誌の送付先変更などのご連絡は、恐れ入りますが下記までご連絡下さい。今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

紀要編集委員会；

黄 政龍（腫瘍研究部）
濱崎 暁洋（内分泌・代謝・腎臓研究部）
戸田 弘紀（神経・再生研究部）
尾上 雅英（病態生理・薬理研究部）猪子 森明（呼吸・循環研究部）
井村 嘉孝（免疫・炎症研究部）
塩田 光孝（発達・再生研究部）
寺井 美峰子（保健・健康研究部）

〒530-8480 大阪市北区扇町2丁目4番20号

公益財団法人田附興風会 医学研究所 北野病院 研究所事務局 運営企画室

電話 06-6131-2792 E-mail: lab-mp@kitano-hp.or.jp

各研究部 概要

腫瘍研究部門

腫瘍研究部では、消化器系、呼吸器系、泌尿生殖器系、女性生殖器系、乳腺などの悪性腫瘍に関して研究しています。臨床では、ガイドラインだけでなく、科学的根拠に基づく研究を実施し、更ながん治療の向上を目指し、分子生物学による基礎研究や臨床への応用研究も取り組んでいます。

呼吸・循環研究部門

当研究部では、生命維持に不可欠な呼吸と循環を担う心臓、血管、肺の疾患、呼吸・循環の調節システムの生理機能およびその障害に関する研究を実施しています。また、呼吸・循環障害の際に生命維持に必要な医療機器の研究も行っています。

内分泌・代謝・腎臓研究部門

当研究部では、糖尿病などの代謝疾患や多様な内分泌疾患の病態解明、さらに個別化医療を目指した基礎、臨床研究を実施しています。また、腎疾患および腎生検データベースを活用した臨床研究や糸球体疾患の基礎研究に加え、多様な疾患の病態や治療経過を改善する栄養と食のあり方などを研究しています。

炎症・免疫研究部門

炎症は傷害に対する生体反応であり、本来病原体や異物を排除する仕組みである免疫でも引き起こされます。当研究部では、自己または非自己抗原に対する自然免疫および獲得免疫や、その炎症反応を研究し、感染症や免疫疾患の病態解明と治療や予防法の確立を目指しています。

神経・感覚運動器研究部門

当研究部では、視覚、聴覚および表在、固有感覚など外界の情報を脳で統合判断し、中枢および末梢神経を介して筋肉、骨、関節の随意運動に繋げるシステムに生じる病態について研究しています。たとえば、鼓膜の再生療法は長年の研究が実り、保険診療として承認されました。また脊髄損傷についての再生医療も研究しています。

発達・再生研究部門

当研究部では、小児科と小児外科領域の免疫やアレルギー、血液、神経、代謝や内分泌、新生児と未熟児等の各専門分野における臨床研究を実施しています。病態解明や治療に結びつくような症例報告や臨床研究の成果を発信し、同時に京都大学と協力して研究医の育成に注力しています。

病態生理・薬理研究部門

病態生理・薬理部門では、麻酔科、集中治療部、救急部での手術や敗血症に代表される急性の重症疾患における生体の侵襲反応の病態生理や、それを制御する薬理学の研究を実施しています。また、薬剤部では薬物療法の有効性と安全性の向上を目指した臨床研究を実施しています。

保健・健康研究部門

保健・健康部門では、主に疾病予防や健康増進に関する部門独自の研究や他の研究部門との共同研究を行っています。放射線に対する腫瘍、生体の反応や機器と薬剤の安全性をはじめ、生活習慣と疾病の予防法を研究しています。さらに検査や輸血の安全性に加え、医療情報の管理とデータマイニング研究、看護の質向上を目指す臨床研究やリハビリテーションによる身体機能の改善を目指す研究、口腔周囲疾患の発生や予防の研究を実施しています。

北野病院紀要 2020年度 目次

1. 優秀論文最優秀論文受章者記念講演	1
・ 瘰石に対する内視鏡ラージバルーン拡張術 岩野 光佑 (消化器内科)	
・ 肝臓外科手術における虚血再灌流障害の抑制には短期食事制限 (絶食) が有効である 内田 洋一郎 (客員研究員)	
2. 研究所セミナー	4
第96回研究所セミナー	
・ 局所進行非小細胞肺癌に対する根治的放射線療法後の Durvalumab 使用の初期経験 熱田智子、高木雄久(放射線科)、白石祐介、山田翔、菊池悠次郎、前谷知毅、林優介、 宇山倫弘、白田全弘、伊元孝光、北島尚昌、片山優子、井上大生、丸毛聡、福井基成 (呼吸器内科)、西村貴文(腫瘍内科)	
・ 臨床に役立つ検体検査情報の提供 ～外来検体検査進捗状況の見える化～ 土肥 慎哉 (検査部)	
第97回研究所セミナー	
・ 当院における大腿骨近位部骨折の術後30日死亡率の検討 足立 健彦 (麻酔科)	
・ 医師・コメディカルと連携した業務改善の取り組み ～その後のアンケート結果を分析して～ 槇尾 瞳 (看護部)	
第98回研究所セミナー	
・ 地磁気位置測位システムを用いた院内患者等誘導システム開発の試み 安喜 弘二郎 (客員研究員)	
・ 心不全患者における基本チェックリストと運動耐容能との関連 鶴本 一寿 (リハビリテーション科)	
3. 北野カデット第1期、第2期生研究進捗	11
第1期生 住友 亮太 (呼吸器外科)	
第1期生 井口 広太 (消化器外科)	
第1期生 稲野将二郎 (血液内科)	
第1期生 三輪 徹 (耳鼻咽喉科)	
第2期生 奥知 慶久 (消化器外科)	
第2期生 福田 弘毅 (循環器内科)	
第2期生 森田 敏広 (消化器内科)	

4. 京都大学大学院医学研究科連携大学院	19
5. 事業報告	20
主たる医学研究	22
論文	58
出版	71

年間優秀論文表彰 最優秀賞受賞記念講演

症例部門 第1研究部 岩野 光佑 (消化器内科)

レトロトランスポゾン Alu による MEN1 遺伝子全欠損とヘテロ接合性の消失を認めた多発性内分泌腫瘍症 1 型の一例

原著部門 第1研究部 内田 洋一郎 (客員研究員)

トロンボモジュリンのレクチン様ドメインはマウス肝虚血再灌流障害に対する予防及び治療薬の候補となり得る

膵石に対する内視鏡的ラージバルーン拡張術

岩野 光佑 (消化器内科)

Endoscopic papillary large balloon dilatation for pancreatic duct stone

公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院 消化器内科

○岩野 光佑 栗田 亮 八隅 秀二郎

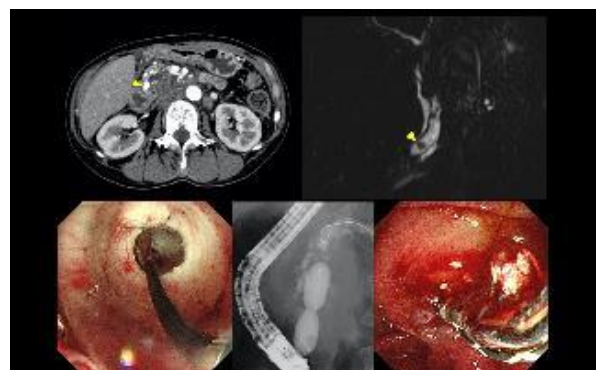
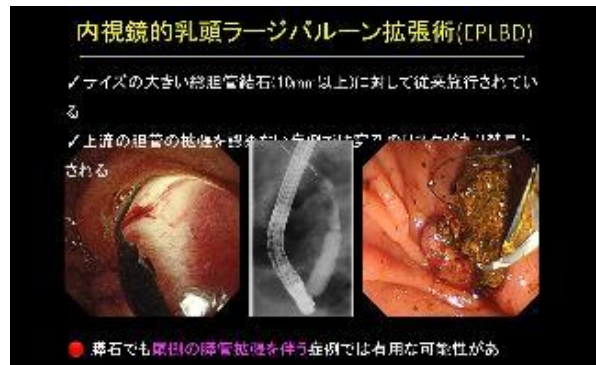
【背景】

膵石症は慢性膵炎における重要な合併症のひとつであり、疼痛のある膵石症に対しては「膵石症の内視鏡治療ガイドライン 2014」では内科的治療として体外衝撃波結石破碎術、内視鏡治療が推奨されている。しかし両者の併用でも完全結石消失率は 74.9%と報告されており、依然サイズの大きい膵石の治療では難渋することが多い。今回我々は 10mm 大の膵頭部主膵管内膵石に対し内視鏡的乳頭ラージバルーン拡張術 (EPLBD) を施行し一期的に膵石除去可能であった症例を報告した (Endoscopy 2019) ので、ビデオを用いその有用性について報告する。

【症例】

症例は大酒家の 44 歳女性。総胆管結石に対して内視鏡的乳頭切開術の既往がある。今回慢性膵炎による膵石の治療目的に当科紹介となった。腹部造影 CT 検査では膵頭部の主膵管内に 10mm 大の膵石を認め、尾側膵管の拡張を認めた。内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査を施行し、膵管造影で膵頭部主膵管内に膵石を認めたが膵管狭窄は認めなかった。EPLBD (Giga II. EPLBD Balloon catheter; Century Medical, Tokyo, Japan) を施行し、併発症なく一期的に膵石除去可能であった。

【結語】 EPLBD は膵石に対して有用な治療となる可能性があり、その詳細についてビデオを含め提示する。



「肝臓外科手術における虚血再灌流障害の抑制には短期食事制限（絶食）が有効である」

内田 洋一朗（第1研究部 客員研究員）

Up-regulation of FOXO1 and reduced inflammation by β -hydroxybutyric acid are essential diet restriction benefits against liver injury

内田 洋一朗^{1,2} 宮内 智之¹

1) 公益財団法人 田附興風会医学研究所 第1研究部

2) 京都大学大学院 医学研究科 肝胆膵・移植外科

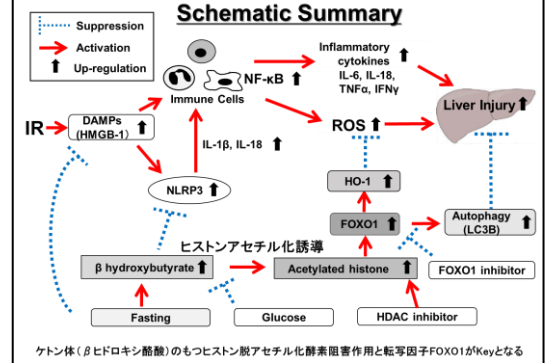
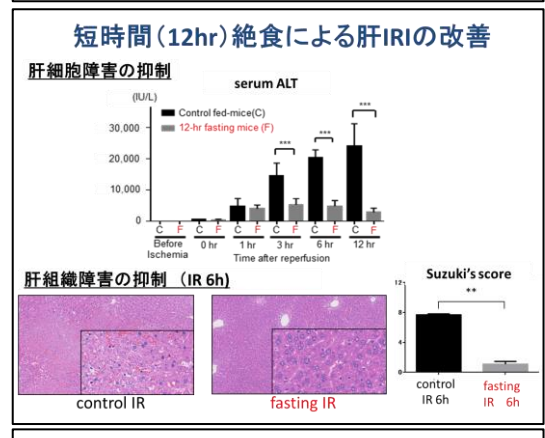
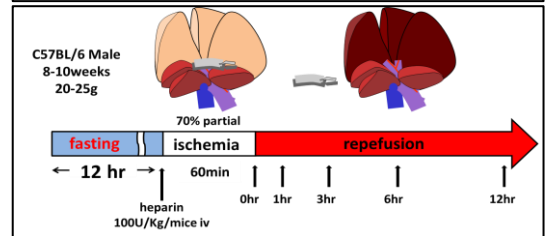
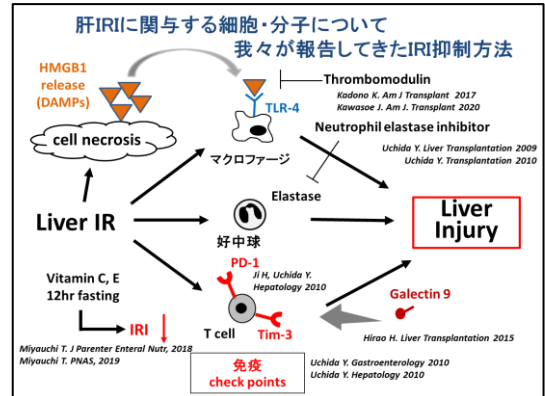
【背景/目的】 肝切除や肝移植など肝臓外科手術における治療成績向上を目的とし、肝虚血再灌流障害(IRI)の克服をテーマとして研究を行っている。IRIに起因する生体制御システムにおける免疫関連細胞間の相互作用の観点から、①免疫炎症反応 (checkpoint 分子: TIM-3/Galectin-9) ②薬剤 (TLR-4/HMGB-1: トロンボモジュリンおよび分画製剤) ③漢方薬 ④抗酸化物質 (Vitamin C/E, Polyphenol) ⑤食物繊維 (Inulin) などの有効性につき、京都大学と連携大学院システムを構築し研究を推進している。今回、短時間の食事制限“fasting”という極めて simple かつ有効な予防抑制法を発見し、術前短期間の食事制限の有効性につき検討した。

【方法】 C57BL/6マウスを用いて肝 IRI モデルを作成し、食事制限なし(コントロール群)と術前 12 時間の短期間食事制限(食事制限群)にて比較検討した。肝 70%部分虚血 60 分を行い再灌流後、血清 ALT 値・炎症性サイトカイン測定、病理学的評価・免疫染色、ウェスタンブロット法などによる解析を行った。

【結果】 食事制限群においては再灌流後の血清 ALT 値の上昇が有意に抑制され、HE 染色と tunel 染色にてネクロシスならびにアポトーシスの抑制を認めた。食事制限群では、ケトン体である血清 β ヒドロキシ酪酸(BHB)の有意な増加、ヒストンアセチル化を介した Forkhead box O(FOXO)1 転写因子の増加を認め、FOXO1 誘導遺伝子である抗酸化酵素 HO-1 増加とオートファジーの亢進を認めた。内因性 Alarmin である HMGB1 の血清中濃度は食事制限群で有意に低く、NF- κ B と NLRP3 インフラマソームの活性化抑制が食事制限群で認められ、炎症性サイトカイン産生が抑制された。コントロール群への BHB の投与もしくはヒストン脱アセチル化酵素阻害剤の投与によって肝 IRI の軽減を認めた。一方、食事制限群への FOXO1 阻害剤の投与では肝 IRI の増悪が認められ、興味深いことにグルコース投与により食事制限による肝 IRI 抑制効果は消失した。

【結論】 短期間の術前の食事制限によって肝 IRI の著明な抑制効果が得られた。機序としては、BHB 増加とヒストンアセチル化の亢進による FOXO1 増加と、FOXO1 による抗酸化酵素の増加ならびにオートファジーの活性化と考えられた。

【今後の展望】 絶食によるケトジェニックな環境は生体のエネルギー恒常性に寄与し、臨床的には外科周術期管理で推奨される術前の絶食期間を短縮させる ERAS(Enhanced Recovery After Surgery) への新たな提言になる可能性がある。本研究成果である「夜間 12 時間の絶食により肝 IRI が 90%抑制された」ことは新知見であり、ケトン体の生体調節機能のみならず、今後は体内時計として知られる circadian rhythm (概日リズム) との関係を解明し、肝臓外科治療に役立つ創薬を目指していきたい。



Proc.NatLAcad.Sci USA, 116:13533-13542,2019
<https://doi.org/10.1073/pnas.1820282116>

研究所セミナー研究発表

第 96 回 研究所セミナー

第 7 研究部 熱田智子

第 8 研究部 土肥慎哉

第 97 回 研究所セミナー

第 9 研究部 足立健彦

第 10 研究部 榎尾 瞳

第 98 回 研究所セミナー

第 11 研究部 安喜弘二郎

第 12 研究部 鶴本一寿

局所進行非小細胞肺癌に対する根治的化学放射線療法後の Durvalumab 使用の初期経験

○熱田智子、高木雄久(放射線科)、白石祐介、山田翔、菊池悠次郎、前谷知毅、林優介、宇山倫弘、白田全弘、伊元孝光、北島尚昌、片山優子、井上大生、丸毛聡、福井基成(呼吸器内科)、西村貴文(腫瘍内科)

【背景】

DurvalumabはヒトIgGモノクローナル抗体で、PD-L1をブロックすることで抗腫瘍免疫活性を増強する。国際共同第III相試験(PACIFIC試験)にて、切除不能局所進行非小細胞肺癌に対する根治的化学放射線療法後の維持療法で、durvalumab群はplacebo群に比し有意に無増悪生存期間、全生存率を改善した。本邦では2018年8月より販売開始となり、「肺癌診療ガイドライン」では2018年版以降、切除不能局所進行非小細胞肺癌に対する根治的化学放射線療法後の維持療法としては、durvalumabが推奨されている。

【目的】

当院にて局所進行非小細胞肺癌に対する根治的化学放射線療法後、durvalumabを投与した症例について適症的に検討すること。

【方法】

対象は2018年4月から2019年4月までに当院にて根治的化学放射線療法を施行した局所進行切除不能非小細胞肺癌のうち維持療法としてdurvalumabを使用した10症例。年齢中央値67.5歳(57-79歳)、男性/女性=9/1例、PS0-1/2=9/1、観察期間中央値24.0ヶ月(20.1-30.0ヶ月)、組織型は腺癌/扁平上皮癌/大細胞神経内分泌癌=4/5/1例、病期はIIB/IIIA/IIIB/IIIC/IVA=1/3/4/1/1例。原発部位は右上葉/左上葉/左下葉=6/2/2例。間質性肺炎合併例はなかった。併用化学療法はCBDCA+PTX/CBDCA+ETP=9/1例。治療計画は3次元原体照射を用い、予防的リンパ節領域を含めて40Gy/20回、その後原発巣と転移リンパ節に照射範囲をしばって20Gy/10回追加、計60Gy/30回を基本とした。有害事象はCommon Terminology Criteria for Adverse Events ver 5.0で評価した。

【結果】

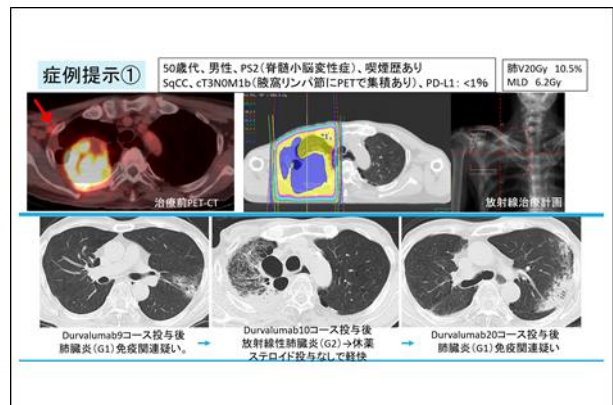
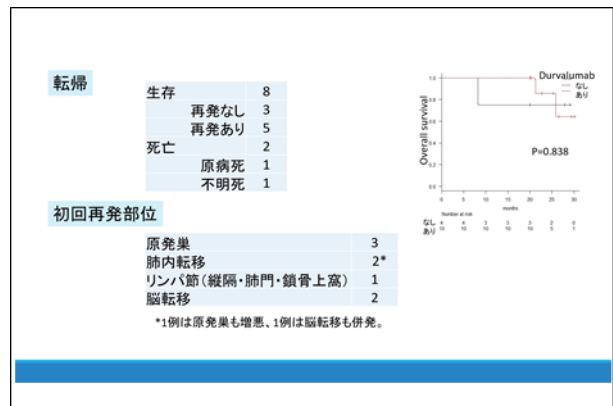
全例で放射線治療を完遂した。肺V20Gyの中央値は17.1%(10.5-26.7%)、平均肺線量の中央値は9.5Gy(6.2-13.4Gy)。照射終了日からdurvalumab導入までの期間の中央値は25日(3-139日)。Durvalumabは12ヶ月の投与期間終了が4例、有害事象のため途中終了が4例(肺臓炎2例、肺臓炎+Cr上昇1例、心筋炎1例)、病勢進行のため途中終了が2例であった。症候性肺臓炎はGrade2が4例(放射線性2例、放射線性/免疫関連2例)、Grade3以上の肺臓炎はなかった。その他Grade3の有害事象は心筋炎が1例、気胸が1例みられた。Grade4以上の有害事象は認められなかった。転帰は無再発生存/担癌生存/死亡=3/5/2例であった。

【結語】

当院でのdurvalumabの初期治療経験を報告した。

対象の内訳		
年齢 中央値(範囲) 67.5歳(57-79歳)	病期	PD-L1発現レベル(%)
性別(男性/女性) 9/1	IIB 1	<1(陰性) 3
Performance status	IIIA 3	5 2
0-1 9	IIIB 4	30 2
2 1	IIIC 1	40 1
	IVA 1	50 1
組織型	原発部位	85 1
Ad 4	右上葉 6	ドライバー遺伝子変異
SqCC 5	右下葉 0	EGFR変異 1
LCNEC 1	左上葉 2	ALK転座 0
	左下葉 2	ROS1転座 0
喫煙歴		*間質性肺炎合併例なし
Never 1		
Former 4	Ad: adenocarcinoma, SqCC: squamous cell carcinoma,	
Current 5	LCNEC: large cell neuroendocrine carcinoma	

【結果】			
Durvalumab投与	n	中止の原因となった有害事象	n
12ヶ月間投与完遂	4	肺臓炎(G2)	2
途中で終了	6	肺臓炎(G2)+Cr上昇(G2)	1
有害事象のため	4	心筋炎(G3)	1
病勢進行のため	2		
* 中止決定時のdurvalumab投与回数:1-20コース(中央値8コース)			
有害事象	G2	G3	G4以上
肺臓炎	4	0	0
気胸	0	1	0
血痰	1	0	0
心筋炎	0	1	0
Cr上昇	1	0	0
尿蛋白	1	0	0
食思不振	1	0	0



臨床に役立つ検体検査情報の提供 ～外来検体検査進捗状況の見える化～

第8研究部 土肥 慎哉 (検査部)

<はじめに>

近年、各施設の検査部においては、TAT(Turn Around Time)がより短くなるよう、機器構成、運用に創意工夫がなされてきている。検体測定開始から報告までの時間は、装置の性能の向上により短くなっているが、医師による依頼発生からや、採血受付時間からでの計算では、患者の動き、その日の採血待ち時間なども加味されるため、日により大きく違いがある。今回、電子カルテでの結果照会画面へ、外来患者の採血受付から結果報告までの検体検査進捗状況の見える化を行ったので報告する。

<患者・検体の流れ>

当院における患者・検体の流れを以下に示す。ポイントについては<方法>を参照。

1. 採血受付 (Point1)
2. 採血 (Point2)
3. 検査室到着 (Point3)
4. 前処理(血清・血漿で測定する検体において、遠心分離などを行うこと)
検体により 5分～15分程度必要
5. 測定装置搬入・測定 (Point4)
測定時間の目安
CBC：約5分
生化学・BNP・薬物濃度など：約15分
感染など：約30分
自己抗体・サイログロブリンなど：約70分
6. 検査結果出力・報告

<方法>

外来緊急検査患者を対象に、検査システム(エイアンドティー社 CLINILAN GL-3)から以下のポイントでその都度、情報を CIS に送り、検査結果欄に検査の進捗状況を表示させることとした。

- Point1：検体検査ラベル発行 → 「検査受付済み」(オーダー単位)
- Point2：採血終了 → 「採血済み」(オーダー単位)
- Point3：検体到着 → 「検体到着済み」(採取管単位)
- Point4：検体吸引 → (結果報告時間表示) ○○時●●分(分析装置単位)

<結果>

外来患者数が多い場合、採血待ちが考慮されず、診療科から結果報告時間の電話での問い合わせが頻繁にあった。また、測定時間の長い免疫項目については、外来患者数に関わらず、再測定結果が報告される時間についての問い合わせも度々あった。現在は、検体がどのような状態にあるのかが可視化出来たことで、問い合わせを省くことができるようになり、負担の軽減につながっている。

<おわりに>

今回、院内検査項目の報告時間表示を開始した事により、臨床側からの結果報告時間の問い合わせの必要がなくなりつつある。但し、再測定の時間計算が現状のシステムでは難しく、大まかな時間を初検報告時間に足すことで表示させている為、若干のずれが生じている。よりリア

ルタイムに近い結果報告時間が反映でき、正確な検体検査情報が提供できるよう、今後のシステム開発に期待したい。また、検体検査搬送システムでも、より TAT 短縮が出来る運用ができる事を期待している。

【検査室の概要と検体の流れ】

- CBC:装置: XN-3000
血液量・凝固の有無を確認し、装置へ投入
スライドの作成・染色を自動で行うことも可能
- 凝固(搬送装置に接続):
血液量・凝固の有無を確認し、
3000rpm × 10分で遠心後搬送装置へ投入
- 生化学・免疫(搬送装置に接続):
至急検体は血漿: 3000rpm × 4分で1回遠心
血清: 3000rpm × 4分で2回遠心
フィブリンが析出していないことを確認し、搬送装置に投入

【Point1】
検体ラベル発行済 = 採血の受付を行った → 「受付済」(オーダー単位)

★電子カルテ検体依頼

日付	時間	種別	入外	STATUS	内容
10-18	10:09	検査	外	中	下身体・甲狀腺抗体
10-17	10:07	検査	外	ラベル発行済	下身体・甲狀腺抗体
10-17	10:07	検査	外	受付済(全部)	検体メイン①下身体-I

★電子カルテ検体結果照会

CBC	その他	受付済
全血		
CBC	受付情報	受付済
RBC(赤血球)		
HGB(血色素)		
HCT(ヘリク分)		

【方法】

- 対象: 外来緊急検査患者(診察前採血・救急・ケモ前など)
- 検査システム(エイアンドティー社 CLINILAN GL-3)から電子カルテ(IBM社・CIS)に進捗状況情報を送信し、検査結果欄に表示
- 送信ポイントと結果画面表示
Point1: 検体検査ラベル発行 → 「受付済」
Point2: 採血終了 → 「採血済」(オーダー単位)
Point3: 検体到着 → 「到着済」(採取管単位)
Point4: 検体吸引 → (結果報告時刻) ○○時●●分(分析装置・項目単位)

【Point4】
検体吸引 → (結果報告時刻) ○○時●●分(分析装置・項目単位)

★電子カルテ検体検査照会

CBC	その他	CBC	その他
全血		RBC(赤血球)	到着済
CBC	生化学①	HGB(血色素)	15
RBC(赤血球)	到着済	HCT(ヘリク分)	44
HGB(血色素)	到着済	MCV(平均赤血球容)	80
HCT(ヘリク分)	到着済	MCH(平均赤血球量)	29
MCH(平均赤血球量)	到着済	MCHC(平均赤血球容)	34
MCHC(平均赤血球容)	到着済	RDW-CV(赤血球分散)	12.0

その他	その他	その他
生化学①	生化学①	生化学①
到着済	到着済	到着済
免疫①	免疫①	免疫①
到着済	到着済	到着済

当院における大腿骨近位部骨折の術後30日死亡率の検討

第9研究部 足立 健彦（麻酔科）

大腿骨近位部骨折は高齢者において極めてポピュラーな手術対象の疾患であるが、麻酔方法によって患者の予後が異なるのではないかという議論が行われている。Neumanらによる56729人を対象にした大規模調査では、術後30日死亡率は全身麻酔5.8%、区域麻酔5.4%で麻酔方法による差は認められなかった。また、Whiteらによる65535人を対象にした調査でも、術後30日死亡率は全身麻酔7.0%、区域麻酔7.5%で麻酔方法による差は認められなかった。いずれの報告でも術後30日死亡率は5-7%とかなり高い印象の数字が報告されている。そこで今回、我々の施設における大腿骨近位部骨折の術後30日死亡率を後ろ向きに調査し、麻酔方法、手術術式、年齢、性との関係を検討した（医の倫理委員会承認 E17-06-009）。対象は2007年6月から2017年9月までに当院で大腿骨近位部骨折（転子部骨折を含む）の手術を受けた65歳以上の患者延べ384名（複数回手術含む）である。術後30日死亡は全体で9名（2.3%）、麻酔法別では全身麻酔3名（1.3%）、区域麻酔6名（3.5%）、術式別では人工骨頭置換術4名（2.4%）、観血的整復固定術5名（2.3%）、年齢別では75歳、80歳、85歳を区切りとしてそれぞれ群分けしてみると75歳未満2名（2.6%）、75歳以上7名（2.3%）、80歳未満4名（2.6%）、80歳以上5名（2.2%）、85歳未満6名（2.3%）、85歳以上3名（2.5%）、性別では男性3名（3.5%）、女性6名（2.0%）で、いずれも群間に有意差は認められなかった（ χ^2 乗検定）。また、海外の文献と比較すると術後30日死亡率が低かった。死因は術前から存在した病態の悪化が多かったが、急性広範腸管壊死や急性心筋梗塞に伴う急死も認められた。

方法

- 2007年6月から2017年9月までに当院で大腿骨近位部骨折の手術を受けた65歳以上の患者延べ384名（複数回手術含む）について診療記録から後ろ向きに30日死亡率を検討した
- 30日以内に転院し、その後の記録がない患者が9名存在したが、転院時の全身状態が良好であったため、生存例としてカウントした
- 麻酔法別では全身麻酔と区域麻酔、術式別では人工骨頭置換術と、観血的整復固定術、年齢別では75歳、80歳、85歳を区切りとしてそれぞれ群分けして群間での30日死亡率についてカイニ乗検定で検討した。

術後30日死亡例のまとめ

年齢	性別	手術日	術式	麻酔法	術後日数	死因
88	男性	2009/4/22	人工骨頭置換術	全身麻酔(吸入)		22 肝細胞癌破裂の疑い
77	女性	2011/11/15	人工骨頭置換術	全身麻酔(吸入)+硬・脊・伝導		25 アミロイド-シスターミナル
71	男性	2013/10/11	観血的整復術	脊髄くも膜下麻酔	18	心不全、元々感染性心内膜炎で入院中に骨折
72	女性	2014/3/10	観血的整復術	脊髄くも膜下麻酔		10 (肺癌) 病的骨折
91	女性	2015/3/18	観血的整復術	脊髄くも膜下麻酔	6	急性広範腸管壊死(腸間膜動脈血栓症疑い)
77	女性	2015/7/2	人工骨頭置換術	脊髄くも膜下麻酔	22	多発性骨髄腫、肺炎、多発性骨髄腫による病的骨折
80	女性	2016/4/8	観血的整復術	脊髄くも膜下麻酔	16	間質性肺炎急性増悪、直腸潰瘍出血、敗血症の疑い等
90	女性	2016/11/28	観血的整復術	脊髄くも膜下麻酔	19	脳梗塞性肺炎、骨髄増殖性疾患
82	男性	2017/8/14	人工骨頭置換術	全身麻酔(吸入)		急性心筋梗塞で死亡 CABG後0.5バイアスピリン6/4から中止して1ヶ月

考察

- 海外のガイドラインでは受傷後48時間以内の手術が勧められている。しかし、当院ではそのような努力は全く行われておらず、入院後手術までは平均6.4日を要していたが、海外の文献と比べると術後30日死亡率は低かった。
- 当院の死因を検討する限りでは手術までの待機時間とはつきり関係するものは少なかった。
- 国内の文献では術後30日の死亡率が3.0%、手術までの待機日数を3.4日から1.8日に減らすことで死亡率を3.9%から1.9%に減らすことが出来たという報告もあり(2008 整形・災害外科 55: 839-46)、単に日本人の術後30日死亡率が海外より低いということだけかもしれない。
- あるいは当院で手術を予定される段階まで何らかのバイアスが入っていて、結果的に30日死亡率が低いのかもかもしれない。

群間の比較

	合計	30日死亡	30日生存	
全身麻酔	212	3	209	0.014151
区域麻酔	172	6	166	0.034884
人工骨頭挿入術	169	4	165	0.023669
観血的整復固定	215	5	210	0.023256
75歳以上	308	7	301	0.022727
75歳未満	76	2	74	0.026316
80歳以上	229	5	224	0.021834
80歳未満	155	4	151	0.025906
85歳以上	118	3	115	0.025424
85歳未満	266	6	260	0.022556
男性	86	3	83	0.034884
女性	298	6	292	0.020134

医師・コメディカルと連携した業務改善の取り組み
 ～その後のアンケート結果を分析して～
 第10研究部 榎尾 瞳 (看護部)

<背景、目的>

整形外科単科であった当病棟は2019年度より混合病棟として運用し始めた。煩雑になった病棟業務の中で、現在の整形外科看護は果たして専門性を保っているのか疑問であった。整形外科における看護の質を向上させるために術後管理の業務改善を行い、リハビリテーション科と連携した新たな取り組みを実践したためここに報告する。

<方法>

①業務改善の取り組み

病棟看護師の意見をもとに、現在の整形外科術後管理における問題点を抽出した。抽出した4点は、術後バイタルサインの計測・術後の清潔・術後血栓予防対策・術後安静解除である。その4点について文献検討を行い、根拠をもとに医師とカンファレンスを重ね、術後管理方法を変更した。1ヶ月後のアンケートでは高評価を得たが、6ヶ月後のアンケートではさらなる改善を求める声があった。その意見をもとに術後管理についてさらに改善を行うこととした。

②週末リハビリテーションの導入

新たな取り組みとして、リハビリテーション科との合同カンファレンスを導入した。対象患者は手術を施行された整形外科患者とし、毎週金曜日に病棟リーダーとリハビリスタッフでカンファレンスを開催した。それぞれの患者が週末に実践可能なリハビリの内容を、理学療法士作成のリハビリメニューをもとに検討し、週末勤務の看護師がリハビリを実践した。

<結果>

①術後バイタルサイン計測は、根拠に基づき実施できるようスタッフに説明した。術後の清潔は、「術後7日目からシャワー浴可能」から「創部確認後、術後4日目よりシャワー浴可能」へ変更となった。術後の血栓予防対策のAVインパルス装着は、「術後7日目まで装着」から「術翌日離床後より除去可能」へ変更となった。術後安静解除は、日勤帯での離床へ変更し、さらに理学療法士との離床を可能とした。

②週末リハビリテーション導入前後の患者のADLを週末と週明けで比較した。ADL維持が70%→48%、ADL向上が30%→52%となった。

<考察>

①医師と看護師が調整・協力することで、円滑に業務改善ができ、患者にとってよりよい術後管理方法の検討ができた。この業務改善後はケアやカンファレンスに充てる時間が確保でき、整形外科患者に対する看護の質が向上するための取り組みができた。

②リハビリテーション科との協働により、看護師が週末に適切なリハビリを実施し、患者のADLを維持、向上させるための仕組みを定着させることができた。またリハビリの状況を踏まえ、患者のADLを把握することで、個別性に応じた看護展開に繋がった。

③これらの取り組みにより整形外科患者に対する看護の質が向上しつつあり、継続してPDCAサイクルを回しな

がらさらなる改善を行っていく必要がある。

<結論>

煩雑な業務を整理することで、患者にとって安全で質の高い看護の提供に繋がることがわかった。それぞれの領域にとらわれて全面的に依存するのではなく医療チームで連携をとりながら協働していく必要性を再認識した。

	術後vs計測のタイミング	術後5W開始時期	術後AVインパルス装着	術後離床タイミング
現状	・頻回な測定は本当に必要？ ・根拠はわからずにただ頻回に測定している	・術後7日目からシャワー浴可能 ・清拭、洗髪などが多く多忙	・術後7日目まで装着 ・患者のストレス多い ・着脱のナースコールが多い	・医師とともに離床 ・手術、外来終了後の夜勤帯での離床が多い
検討内容	術後24時間は状態変化のリスク高くバイタルサインの計測、状態の観察は必要	術後72時間でシャワー浴可能	DVTガイドラインでは十分な歩行が可能となれば除去可能	人数の少ない夜勤帯で急変時や他患者のスムーズな対応が困難
変更点	根拠を持って計測タイミングを考える (必要ケアであると再認識、スタッフへの教育)	医師診察後、術後4日目よりシャワー浴可能(腎臓疾患除く)	術翌日、離床後より除去可能	必ず日勤帯で離床

<患者>

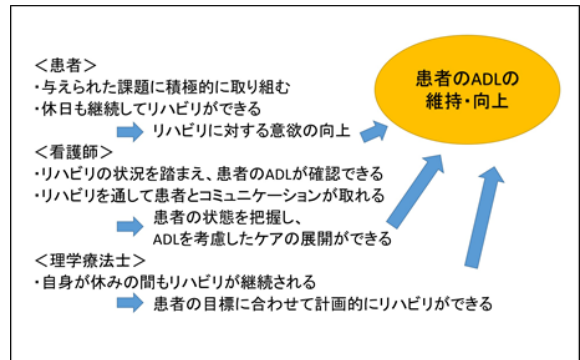
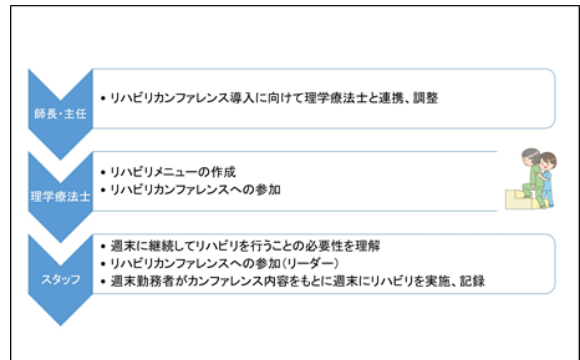
- ・清潔が術後早期から保てるようになった
- ・AVインパルスによる拘束感の軽減により夜間の休息が確保できた

➡ 日中の活動量の増加や、リハビリ意欲の向上につながった可能性

<看護師>

- ・(連日)清拭、洗髪の回数が減少
- ・離床ごとにAVインパルス着脱に要する時間の減少
- ・日勤帯で離床することで患者の安全が確保できる

➡ ナースコールの対応回数が減り、業務中断の頻度が減った
 時間的・精神的に余裕ができ、他のケアに時間を使える
 夜勤帯の業務が滞ることが減った
 異常時に速やかに対応でき、安心やストレス緩和につながった可能性



地磁気位置測位システムを用いた院内患者等誘導システム開発の試み

第11研究部 安喜弘二郎

【背景】

外来患者の受付において、ピーク時には受付窓口および再来受付機に長蛇の列ができることがある。また呼び出しについても同様に待合室が混雑し、院内スタッフがその対応に追われることがある。複数の診察を順次受診される場合に、診察内容や診察室の場所がわからず迷ったり、混乱する患者がいる。

人が密集することにより感染リスクが高まること、疾患や体調不良などで長い時間立って待つことが辛い患者に対する配慮が必要である。位置測位システムを採用することでソリューションシステムを構築することが可能であり、現在これらのシステムは存在する。だが既存システムは初期導入費や更新費、維持費が非常に高額で、導入ハードルが高いのが現状である。

【目的】

外来患者の受付において窓口や再来受付機以外からエントリーできる、呼び出しについて待合室以外の場所からでも患者が呼び出しを確認できる仕組みを導入することで人が密集する状況を回避し、患者の身体的負担を軽減できるようにすること、診察室より患者の位置を確認することで、呼び出し順の最適化を図り、患者の所在を容易に探し当てることができるようにすること、診察内容の確認や診察室までのナビゲーションをスマートフォンで行えるようにすることで患者の混乱を避け、院内スタッフの負担を軽減できるようにすること、システム導入の費用を大幅に軽減し、導入ハードルを下げることを目的とする。

【方法】

既存システムに採用されているビーコン位置測位は、院内随所に工事を伴う専用機器の設置が必要で、導入費用が高額になってしまう原因となっている。対して地磁気位置測位技術を採用することで専用機器を設置することなく、スマートフォン1つで位置測位が行える。地磁気位置測位は建物の構造の鉄筋、鉄骨から発する磁気を読み取り位置測位を行う技術であり、一度サーベイを行えば建物の構造が大きく変わらない限り、半永久的に測位が行える。またスマートフォン用アプリケーションに受付、呼び出し、診察ガイダンス情報表示機能などを実装し、患者はこのスマートフォンを使うことでこれらのサービスを利用することができる。

【結果・結論】

地磁気位置測位は環境に依存する技術で、同じような建造物であっても周囲の環境や、建物内の構造の違いにより測位精度は大きく変わってくる。そのため精度確認の際には建物ごとに事前調査やサーベイが必要になる。ショッピングモール

や物流倉庫、病院などで位置精度検証を行ったが、スチールラックや鉄製の機器が多くある物流倉庫では十分な位置精度が得られなかった。病院では概ね安定した位置精度は得られたが、それでも誤差精度は1m~2m程度で、それ以上の精度が要求される場合には引き続き検証が必要である。今後、位置精度検証を行うと共にアプリケーションの開発を目論んでいる。

地磁気位置測位を用いたスマートフォン 受付・呼出システムのご紹介

地磁気位置測位を用いたスマートフォン 受付・呼出システム

スマートフォンを利用して再来受付や呼出を受けることができるシステムです。スマートフォンは病院からの貸出機は個人でお持ちのものが利用できます。

もう受付窓口や再来受付機、待合室で長時間待つ必要はありません。体調が悪い時、長蛇の列に並んでいてトイレを数回するのは苦痛です。

受付窓口や再来受付機に並び、受付を済ませることができます。

Before

- ・長時間並ぶのはとても疲れる...
- ・ご高齢者や足の悪い方はとてもつらい。
- ・どうしても混雑状況になってしまう。

After

スマートフォンで簡単受付!

病院駐車場や院内のカフェ、近隣施設などから受付を済ませることができます。

院外や、院内の混雑エリアを避け、場所で呼出を受けることができます。

Before

- ・混雑時は立って待たざるを得ないのでつらい。
- ・呼出に気づかないことがある。
- ・密な状況で感染リスクが高まる。

After

待合室以外の場所でも呼出を受けることができます。
※行き先別の場所も呼出を受けることができます。

スマートフォンで次に行われる検査や場所を確認できます。

地磁気位置測位システムのご紹介

スマートフォンに内蔵された磁気センサー・他各種センサーを使用した位置測位技術です。気圧センサーによるフロア判別が可能で、階移動の際には自動的にフロアマップが切り替わります。他システムとのデータ連携、収集した動線データの2次利用も可能です。

加速度センサー ジャイロセンサー 磁気センサー 気圧センサー

磁気読取り用アプリケーションの入ったスマートフォンを持って、決められたルート通りを何度も歩くことでサーベイ設定が完了します。

測位エリアの変更・感度が容易

心不全患者における基本チェックリストと運動耐容能との関連

第12研究部 鶴本 一寿 (リハビリテーション科)

【背景】

運動耐容能とは身体運動負荷に耐えるために必要な、呼吸や心血管系の能力に関する機能と定義されている。心不全患者の運動耐容能は年齢・性別・心不全重症度・歩行速度・膝伸展筋力などにより規定される。運動耐容能の低下は心不全の予後予測因子であることが報告されており、その評価を行うことはガイドラインで強く推奨されている。しかし、近年では心不全患者のフレイルの進行や高齢化により、運動耐容能を評価できない症例を多く経験する。心不全患者におけるフレイル評価の一つに基本チェックリスト(KCL)がある。KCLはフレイルを簡便に評価できる自己式質問票である。質問項目は日常生活活動(No.1~5)、身体機能(No.6~10)、栄養状態(No.11,12)、口腔機能(No.13~15)、閉じこもり(No.16,17)、認知機能(No.18~20)、抑うつ(No.21~25)の全25項目からなる。一方でフレイルを合併した心不全患者は運動耐容能が低下しているが、KCLで評価されたフレイルとの関連は不明である。本研究の目的は心不全患者におけるKCLと運動耐容能との関連を検討することおよび、フレイルの重症度別におけるKCLの下位項目を調査することとした。

【方法】

2018年10月から2020年6月の間で当院に入院した重度認知機能低下症例を除く自立歩行可能な心不全患者とした。測定指標は患者背景では年齢・性別・BMI・基礎疾患・独居の割合、生化学検査はBNP・CRP・Cre・Hb・Alb・心臓超音検査はLVEF、身体機能評価はSPPB、精神機能評価はMMSE、運動耐容能指標は6分間歩行距離、心不全重症度分類はNYHA分類、また、KCL得点0~3点をノンフレイル(NF)群、4~7点をプレフレイル(PF)群、8点以上をフレイル(F)群分類した。統計解析は運動耐容能の関連因子を単回帰分析・重回帰分析を用いて探索的に検討した。次にノンフレイル群、プレフレイル群、フレイル群で背景因子・身体機能・精神心理機能をχ²乗検定、一元配置分散分析、Kruskal Wallis testで比較した。また、ノンフレイル群、プレフレイル群、フレイル群におけるKCLの下位項目をχ²乗検定を用いて調査した。有意水準は5%未満とした。

【結果】

対象者は91例(76.8±13.2歳,男性48例)。重回帰分析の結果、KCL(p<0.001)、NYHA(p<0.001)、SPPB(p<0.001)、Hb(p<0.05)が関連因子として抽出された。KCL得点によるフレイル評価の結果、NF群9例(63.0±17.7歳)、PF群21例(74.9±14.9歳)、F群61例(79.5±10.3歳)。KCL下位項目の運動機能低下(5項目中3項目以上該当)の割合はNF群0%、PF群19.0%、F群63.9%であった。また、有意差は認めなかったがPF群では閉じこもりに該当する割合が強い傾向にみられた(NF群0%、PF群38.1%、F群19.7%)。

【考察】

心不全において自己式質問表であるKCLを用いることで運動耐容能を簡便に評価できる可能性が示唆された。また、運動機能のみではなく社会的背景など多面的な評価が必要であることが考えられた。

目的

意義

自己式質問表であるKCLで運動耐容能が予測できれば臨床においても簡便に評価できる。

↓

- 心不全患者におけるKCLと運動耐容能との関連を検討すること。
- フレイルの重症度別における運動耐容能およびKCLの下位項目を調査すること。

結果

	単回帰分析		重回帰分析			
	結果β	p値	結果β	p値	結果β	p値
KCL	-0.33	<0.001	-0.39	-0.29	-3.96	<0.001
年齢	-0.14	0.14	-0.12	-0.10	-1.14	0.25
男性	-0.10	0.18	-0.16	-0.09	-1.51	0.13
NYHA	-0.13	0.05	-0.23	-0.14	-2.20	0.03
BMI	-0.02	0.77				
EF	0.00	0.92				
DCM/DOCM	-0.01	0.87				
高血圧	0.09	0.20				
糖尿病	-0.04	0.60				
BNP	0.03	0.98				
CRP	-0.86	0.23				
Cre	0.08	0.19	-0.11	-0.08	-1.50	0.15
Hb	0.26	<0.01	0.41	0.28	4.24	<0.001
Alb	-0.09	0.25				
SPPB	0.41	<0.001	0.54	0.43	5.92	<0.001

結果 (KCL下位項目)

	NF群 (n=9)	PF群 (n=21)	F群 (n=61)	p
運動機能[例(%)]	0(0)	4(19.0)	39(63.9)	<0.01
栄養[例(%)]	0(0)	0(0)	6(9.8)	0.20
口腔機能[例(%)]	0(0)	5(23.8)	26(42.6)	0.02
閉じこもり[例(%)]	0(0)	8(38.1)	12(19.7)	0.05
認知機能[例(%)]	2(22.2)	8(38.1)	38(62.3)	0.02
抑うつ[例(%)]	0(0)	6(28.6)	51(83.6)	<0.01

結論

- 心不全患者におけるKCLと運動耐容能との関連を検討し、他のフレイル指標と同様、運動耐容能と関連する結果となった。
- フレイルの進行は運動耐容能が低下するだけでなく、身体・精神機能にも関連するため、その進行を予防することが重要と考えられた。
- 心不全患者において身体機能のみではなく社会的背景を評価する必要が示唆された。

北野カデット 第1期生・第2期生 研究進捗

腫瘍研究部	住友亮太	(1期生)
腫瘍研究部	井口広太	(1期生)
腫瘍研究部	稲野将二郎	(1期生)
神経・感覚運動器研究部	三輪徹	(1期生)
腫瘍研究部	奥知慶久	(2期生)
呼吸・循環研究部	福田弘毅	(2期生)
腫瘍研究部	森田敏広	(2期生)

北野カデット 2 年次研究中間報告書

提出日 09/13/2021

カデット R1-2 住友 亮太

メンター 黄 政龍

計画課題名

非小細胞肺癌における腫瘍関連マクロファージと Wnt に関する臨床的意義の解明と Wnt 抑制癌核酸医療の開発

Study on clinical significance of tumor-associated macrophage and Wnt and development of Wnt-inhibiting cancer gene therapy

全体計画

腫瘍関連マクロファージ(tumor-associated macrophage; TAM)と Wnt シグナルは、腫瘍内微小環境 (tumor micro-environment; TME) の重要な構成因子であり、癌のプログレッションに関与する。非小細胞肺癌における新規癌治療の開発を目指し、TAM と Wnt の発現の臨床的意義を解明する。その中で、TAM は腫瘍抑制的な M1 TAM と腫瘍促進的な M2 TAM があるとされており、まず M2 TAM の役割について主に研究する。さらに、癌促進的に作用する Wnt メンバーの抑制ベクターを用いて、癌核酸医療の開発も模索する。

- [1] 非小細胞肺癌における M2 TAM の発現分布とその臨床的意義
- [2] 非小細胞肺癌における腫瘍内 Wnt 発現と M2 TAM との関連の検討
- [3] Wnt 抑制ベクターによる癌核酸医療の開発

年次計画

- 1 年次 [1] 非小細胞肺癌における M2 TAM の発現分布とその臨床的意義
検討項目：病理病期、腫瘍増殖能、炎症反応、PD-L1 など
- 2 年次 [2] 非小細胞肺癌における腫瘍内 Wnt 発現と M2TAM との関連の検討
[3] Wnt 抑制ベクターによる癌核酸医療の開発 (*in vitro* 実験)
- 3 年次 [3] Wnt 抑制ベクターによる癌核酸医療の開発 (*in vitro* から *in vivo* へ)

研究計画の進捗と達成度

1 年次に計画していた研究は終了し、2 本の論文を作成することができた。

Sumitomo R, Huang C, et al. M2 tumor-associated macrophage promote tumor progression in non-small-cell lung cancer. *Experimental and Therapeutic Medicine* 18:4490-4498, 2019

Sumitomo R, Huang C, et al. PD-L1 expression on tumor-infiltrating immune cells is highly associated with M2 TAM and aggressive malignant potential in patients with resected non-small cell lung cancer. *Lung Cancer* 136: 136-144, 2019

2 年次は、M2TAM と Wnt メンバーとの関連についての実験を行い、終了した。現在、結果を評価中である。また、Wnt 抑制ベクターによる癌核酸医療の開発に関して *in vitro* 実験を行い、抑制実験に使用する tumor cell line (H520, LUDLU1) と抑制ターゲットとする複数の Wnt メンバーを決定した。

現在は *in vitro* で Wnt 抑制実験を終了しており、各 Wnt 発現の抑制が確認できている。年内にも抗腫瘍効果を評価する *in vitro* 実験を終了する予定である。そして、*in vivo* への導入を準備中である。

決算報告

- 1 年次 免疫組織化学法 (ベンタナ関連試薬と各種一次抗体), 論文投稿費
- 2 年次 RNA 抽出試薬, cDNA 作成試薬, PCR 試薬, 細胞培養に必要な培地や血清, siRNA 購入

北野カデット 2年次研究中間報告書

提出日 05/31/2021

カデット R1-2 井口 公太
メンター 上田 修吾

計画課題名

① ブタ NASH 関連肝癌モデルにおける肝臓 *proteomic mass imaging*

(Biomarker discovery of NASH-associated liver cancer in pigs using proteomic mass imaging)

② 糞便解析と栄養学的指標から検討した膵切除後脂肪肝の治療戦略

(In depth analysis of gut microbiome and energy metabolism in NAFLD patients after pancreatectomy)

全体計画

肥満およびメタボリック症候群に関連する非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) が近年増加傾向にある。NASH は脂肪肝を背景とした慢性的な炎症により、肝線維化、肝硬変、そして肝細胞癌の発生へと進行性の経過を辿ることが問題となるが、NASH による発癌機序は明らかにされていない点が多い。本研究では遺伝学的・解剖生理学的に、よりヒトに近いブタを利用して NASH 関連肝癌モデルを確立し、ヒト研究への橋渡しとして NASH の病態と発癌機序の検証を行う

- [1] ブタ NASH 関連肝癌モデルの作成
- [2] NASH 関連肝癌のマーカー候補の抽出
- [3] マーカートンパクの同定

年次計画

- 1年次 ブタ飼育と試料のサンプリングとイメージング質量分析
- 2年次 イメージング質量分析とショットガン解析の導入

研究計画の進捗と達成度

ブタ NASH 肝癌の肝臓切片を、timsTOF Pro(Bruker 社)を利用したショットガン解析に供した。健常な肝臓切片より 222 個のタンパク質が annotate された。一方、癌を含む NASH 肝臓切片 (背景肝も含む) からは 194 個のタンパク質が annotate された。そのうち、癌を含む切片より特異的に同定されたタンパク質は 74 個検出された。今後の計画として、癌領域に特異的なタンパク質を、昨年度に実施したイメージング質量分析にて得られたペプチド・タンパク質と比較し、有意なものを抽出する。そして可能であれば連続切片により免疫染色等による他の手法にて validation を行う。(2年次は COVID-19 感染蔓延による他施設での研究制限により、当初予定していた進捗が得られなかった。よって、新たな計画課題②を立ち上げ、当院内で完結する臨床研究を実施している。本課題においても 3年次を利用し、成果を発表する。)

決算報告 (1年次からの繰り越し金あり)

2年次 質量分析にかかる消耗品：計 20 万、糞便採取キット等の臨床試験にかかる消耗品：26 万 残 329 万：来年度に繰り越し

北野カデット 2年次研究中間報告書 提出日 9/9/2021

カデット R1-2 稲野将二郎

メンター 北野俊行

計画課題名

エクソソームを介した膵癌におけるKRAS標的治療法の開発
Development of KRAS-targeted therapy in pancreatic cancer via exosome

全体計画

本研究の目的は新しい分子標的治療薬のプラットフォームを創出することである。具体的にはエクソソームに移行し、任意の蛋白を分解する人工蛋白を骨格とした治療応用を目指す。まずはKRASを標的として、有効な治療法が存在しない膵癌における新規治療を作り出すことを目指す。

[1] KRASを分解する人工蛋白の作成

[2] エクソソームの移行性、取り込みなどの評価、改善

[3] マウスモデルにおける検証

年次計画

1年次 KRASを活性化型特異的に分解する人工蛋白を作成

2年次 エクソソームの移行性、取り込みなどの評価、改善

3年次 マウスモデルにおける検証、特許申請および論文投稿

研究計画の進捗と達成度

研究そのものは順調に推移している。現在までの成果として、

1) KRAS分解蛋白の構築

2) エクソソーム表面CD9の改変による取り込み促進

3) 膵癌細胞の、KRAS阻害下におけるBH3 mimeticsへの感受性亢進

を達成した。2)を論文投稿し、1)については特許申請を目指し、そのため論文投稿はその後となる予定である。3)についてはさらにその後、マウスモデルを中心とした検証を行っていく。

決算報告

特記事項はありません。

北野カデット 2年次研究中間報告書

提出日 09/09/2021

カデット R1 三輪 徹
メンター 金丸 真一

計画課題名

長寿遺伝子 Sirtuins の発現調整による加齢性難聴発症予防の基礎的研究
Prevention of age-related hearing loss via Sirtuins expression modification

全体計画

加齢性難聴は加齢に伴い進行する両側性の感音難聴である。脱アセチル化酵素である Sirtuin1(Sirt1)は、細胞の老化及び加齢関連疾患において重要な役割を担っている。その発現において、MNAM(N1-methylnicotinamide)を介する Sirt1 タンパクの安定化が加齢関連疾患を抑制することが報告されている。本研究は、このメカニズムを介する加齢性難聴の治療法開発の可能性を探る研究である。

- [1] 聴覚評価システムの確立
- [2] Sirt1 タンパク発現量と加齢性難聴の関連性
- [3] 加齢性難聴発症抑制のメカニズム解明

年次計画

2年次 Sirt1 タンパク発現量評価

研究計画の進捗と達成度

聴力評価、聴覚評価のためのシステムが完成し、現在問題なく運用できている。
Sirt1 タンパクを増加させる薬剤を投与し、すでに投与を終えて蝸牛を摘出しており、組織学的、分子生物学的評価を現在行っている。
今後は、さらに詳細なメカニズムを探るために、Sirt1 周辺の遺伝子発現変化を評価予定である。

決算報告

2年次 論文投稿代 30x2 万円、Sirt1 関連遺伝子発現調査 10 万円、質量分析受託 50 万円

北野カデット 1年次研究中間報告書

提出日 05/31/2021

カデット R2-1 奥知 慶久
メンター 上田 修吾

計画課題名

腫瘍発生の土壌となる遺伝子発現変化を制御することによる新規大腸癌予防薬の開発

Development of a novel colorectal cancer preventive drug by controlling gene expression alterations that are the basement for tumor progression

全体計画

大学院における研究で大腸腫瘍発生の母地を形成する細胞の初期変化を捉え解析することに成功しています。その研究をベースに大腸腫瘍発生の抑制につながる遺伝子を同定し、大腸腫瘍の発生を抑制する薬剤や、大腸癌治療へつながる治療法および予防法を確立することを目指します。

- [1] ヒト大腸癌の臨床検体を用いた遺伝子発現レベルの検討
- [2] マウス由来の腸管オルガノイドを用いた遺伝子発現レベルの変化との相関を検討
- [3] マウスへの薬剤投与による腫瘍数発生が減少するかの検討

年次計画

- 1年次 10例程度の大腸癌臨床検体を用いて候補遺伝子の発現量を定量する。エピジェネティックな変化をRNA seqにより解析する。

研究計画の進捗と達成度

ヒト大腸癌の手術検体を手術前説明の時に同意書を取得して集めてきました。大腸癌組織と正常組織の比較をおこなうため、これまでに進行癌の症例を中心にすでに10例以上の検体を保存しております。

当初自らの手を動かしてqPCR等の実験を行いデータを取得していくという研究計画を予定しておりましたが、実際には臨床と並行して基礎実験を自ら行うことは極めて困難であると考えられました。従って、現在は多くの実験を外注もしくは共同研究という形で進められないか模索している段階です。具体的には上記の年次計画の通り、RNA seqによる遺伝子発現解析およびメチル化解析を予定しております。

1年次は科研費の若手研究に応募し、採択されました。カデット研究費は現状全く手つかずの状況にありますので、若手研究の研究費と合わせる形で研究を進めていく予定にしています。

次年度以降の計画も、可能な範囲で外注検査に置き換える方向で考えています。

決算報告

- 1年次 特になし

北野カデット 1年次研究中間報告書

提出日 07/01/2021

カデット R2 福田弘毅
 メンター 猪子森明

計画課題名

増加する心不全患者の診療を向上させる取り組み

Challenges and solutions in management of heart failure patients

全体計画

心不全患者は高齢化に伴い増加傾向にあり β 遮断薬や ACE 阻害薬による治療は発展しているがその予後は不良である。内服治療以外の予後を改善する取り組みとして心臓リハビリテーションがあげられる。運動療法・患者教育・生活指導の集学的な取り組みにより QOL を維持することが期待される。また新たな治療ターゲットの発見が待たれるが、糖尿病治療薬により心不全の改善が得られるような、併存疾患の治療により心不全の改善をはたせるような発見は意義が大きいと考えられる。

[1] 心臓リハビリテーションによる心不全改善の評価

[2] 心不全の併存疾患をターゲットとした新規治療法の解明

年次計画

1年次 当院での心臓リハビリテーションの現状を後ろ向きに評価する

2年次 心不全患者に併存する COPD に対し治療介入を行い心不全改善効果を検討する前向き研究を遂行する

3年次 早期に心臓リハビリテーションによる介入を行うことで患者満足向上、ADL 改善効果を得られるか介入研究を計画する。

研究計画の進捗と達成度

当院での慢性心不全患者における心臓リハビリテーションの効果を調査しどのような臨床背景の患者が有効であるか、どのような介入が妥当であったかの後ろ向き研究を実施中である。また COPD を有する心不全患者への LABA/LAMA を投与することで心不全改善効果がみられるかの前向き研究について準備中である。

決算報告)

1年次

LaCie 2big RAID 8TB STHJ8000800 1 ¥59,800 HDD

Panasonic CF-SV1 1 ¥371,963 PC

学会参加費 (日本循環器学会、内科学会)

北野カデット 研究中間報告書

提出日 2021/6/21

カデット R2 森田敏広
 メンター 八隅秀二郎

計画課題名

「非アルコール性脂肪肝炎(NASH)における免疫細胞・線維芽細胞の役割に関する研究」
 (Research on the role of immune cells and fibroblasts in nonalcoholic steato-
 hepatitis (NASH))

全体計画

[1] transgenic mouse を用いた、NASH モデルマウスを作成し、肝組織周囲の fibroblast や immune cell の遺伝子発現について解析を行い、NASH の発生原因や線維化のプロセスについて原因究明を行う。

[2] NASH 患者、肝硬変患者の生検組織から fibroblast を抽出し、遺伝子発現についての解析を行い NASH から肝硬変進展への原因究明を行う。

[3] *Cxcr4* KO マウスを用いて NASH モデルマウスを作成し、NASH の線維化における *Cxcr4* の役割について解析を行う。

研究計画の進歩と達成度

1 年次 : CXCR4 flox マウスの作製・搬入および genotyping による Homo flox マウスの作製を行った。京都大学医学部附属病院で transgenic mouse である *Alb-cre* マウスの繁殖を行い搬入可能時期になった時点で当院への搬入を行う。また、コリン欠乏食をマウスに投与し、NASH のモデルマウス作成実験を開始している。

3 か月の時点でマウスの sacrifice を行い肝臓について病理学的な評価を行う。

決算報告書 :

PCR 実験器具	100,000
マウス実験器具	50,000
免疫染色実験器具	100,000
基本実験器具 (ピペットマン、チップ等)	100,000
genotyping 用 primer など	10,000
雑費 (実験ノート、ペン、PC 用品 等)	30,000

京都大学大学院 医学研究科連携大学院

連携大学院講座 客員教授 武藤 誠（研究所長）
先端・国際医学講座 客員教授 寺嶋 宏明（腫瘍研究部）
客員研究員（医学研究科 肝胆膵・移植外科学講座 助教）
北野カデットメンター 内田 洋一郎（腫瘍研究部）

大学院生

宮内 智之（2019年3月博士課程修了：客員研究員）
川添 准矢（2021年3月博士課程修了：客員研究員）
嵯峨 謙一（博士課程3年生）
田中 康介（博士課程1年生）

研究生

川本 浩史（客員研究員）

2020年度論文

1. Kawasoe J, Uchida Y, Miyauchi T, Kadono K, Hirao H, Saga K, Watanabe T, Ueda S, Terajima H, Uemoto S. The lectin-like domain of thrombomodulin is a drug candidate for both prophylaxis and treatment of liver ischemia and reperfusion injury in mice *AmJ Transplant.* 21:540-551,2021

事業報告

2020 年度

2020 年度事業報告概要

2020 年度の科学研究費助成事業は申請 13 課題に対して新規採択 6 課題、継続・分担を含め 21 課題を実施しました。AMED 関連事業では、代表 1 事業（難治性疾患実用化研究事業）、再委託 2 事業を実施しました。これらの研究を核として、研究所全体では 620 件を超える研究課題に取り組み、100 報を超える英文原著論文をはじめ、論文発表、学会発表などの業績を挙げました。なお 8 月に予定していた学術講演会・研究発表会は、COVID-19 の影響で中止をせざるを得ませんでした。優秀論文を原著、症例報告、医師以外の著者の 3 部門について表彰しました。

前年度より発足した『北野カデット』制度は、第 1 期生 4 名に加え 3 名の第 2 期生が参加しました。これは北野病院で臨床医として診療に従事すると同時に、第一線の研究活動を通じてその成果を発信し続ける若手医師を支援、育成する 3 年間のプログラムです。

研究所の実験施設を含めた新館建設が 2020 年 11 月に竣工し、2021 年 1～2 月に各階への移転を完了しました。新館研究施設への移転を期に、2021 年 4 月より研究所組織を再編し、12 あった研究部門を 8 つの分野別名称に統合しました。（下記をご参照ください。）

なお、本院の医学研究に対して多方面から多大の篤志を頂きました。ご寄付を賜った方々には深くお礼申し上げます。これらの寄附金は将来の事業も含めて研究活動に有効に活用させていただきます。

腫瘍
呼吸・循環
内分泌・代謝・腎臓
炎症・免疫
神経・感覚・運動器
発達・再生
病態生理・薬理
保健・健康

ONCOLOGY
RESPIRATORY & CIRCULATORY SYSTEMS
ENDOCRINOLOGY, METABOLISM & NEPHROLOGY
INFLAMMATION & IMMUNITY
NEUROLOGY and SENSORY & LOCOMOTIVE SYSTEMS
DEVELOPMENTAL & REGENERATIVE MEDICINE
PATHOPHYSIOLOGY & PHARMACOLOGY
HEALTH SCIENCES

主たる医学研究

2020年4月1日～2021年3月31日 研究課題

2020年度 文部科学省・日本学術振興会 科学研究費補助事業採択テーマ	(2件)
2020年度 文部科学省・日本学術振興会 科学研究費補助事業継続テーマ	(14件)
2020年度 国立研究開発法人医療研究開発機構 (AMED) 参画テーマ	(3件)

第 1 研究部 (癌研究部)

部長	黄 政龍	(呼吸器 C 呼吸器外科)
研究主幹	岡田 卓也	(泌尿器科)
	宗田 武	(泌尿器科)
	樋口 壽宏	(産婦人科)
	寺嶋 宏明	(消化器 C 消化器外科)
	上田 修吾	(消化器 C 消化器外科)
	八隅 秀二郎	(消化器 C 消化器内科)
	杉之下与志樹	(消化器 C 消化器内科)
	高原 祥子	(乳腺外科)
	西村 貴文	(腫瘍内科)
	梶山 徹	(緩和ケア科)

乳腺外科系

- 閉経後再発乳癌患者を対象とした抗 PD-1/PD-L1 抗体薬と抗 CTLA-4 抗体薬あるいは放射線療法併用の有効性、安全性を探索する医師主導型臨床試験 (臨床第 II 相試験)
(高原祥子、吉本有希子)
- 多施設共同研究臨床試験：【KBCRN-B-003】
手術可能なホルモン感受性 HER2 陰性原発性乳癌の術前療法として、ホルモン療法+パルボシクブとホルモン療法+プラセボを比較する第 III 相ランダム化二重盲検比較試験
(高原祥子、大林亜衣子、藤本優里、吉本有希子)
- トモシンセシス・3D マンモグラフィの石灰化診断における有用性の研究
(大林亜衣子、高原祥子)
- ICG を用いた乳癌腋窩郭清における上肢リンパ管温存に関する研究
(大林亜衣子、吉本有希子、高原祥子)
- 高齢者乳癌の治療選択とその予後について
(大林亜衣子、吉本有希子、高原祥子)
- アロマターゼ阻害薬 (AI) 内服中のホルモン陽性閉経後乳癌患者における骨代謝関連因子とビスホスホネート製剤に対する治療反応性に関する探索研究
(藤本優里、大林亜衣子、高原祥子)
- 乳癌術前化学療法の効果および長期成績からみた臨床的効果予測因子の研究
(高原祥子、大林亜衣子、藤本優里、吉本有希子)
- 家族性乳がん・膵がん患者の膵がん早期発見パイロットプロジェクト
(吉本有希子、小松茅乃、高原祥子、八隅秀二郎)
- 遺伝性乳癌卵巣癌におけるリスク低減手術の適応と効果解析
(吉本有希子、小松茅乃、高原祥子)

- 10 遺伝性乳癌高リスク患者に適した遺伝子パネル検査の探索
(小松茅乃、吉本有希子、高原祥子)
- 11 若年乳癌に対する妊孕性温存と治療方針についての意識調査
(藤本優里、吉本有希子、小松茅乃、高原祥子)
- 12 ゲノム医療にむけた院内体制づくりに関する研究
(小松茅乃、吉本有希子、高原祥子)
- 13 遺伝性乳癌卵巣癌症候群疑い患者に対する BRCA1/2 遺伝子検査関連情報提示後の行動様式とその動機の研究
(吉本有希子、小松茅乃、大林亜衣子、藤本優里、高原祥子)
- 14 トリプルネガティブ乳がんに対するプラチナ製剤の抗腫瘍免疫増強作用に関する観察研究
(高原祥子、藤本優里、吉本有希子)

泌尿器科系

- 1 尿路上皮癌に対する免疫チェックポイント阻害薬治療の多施設共同観察研究
(小池修平、岡田卓也、池内亮介、宗田 武)
- 2 ホルモン感受性転移性前立腺癌の治療実態に関する前向き研究
(池内亮介、小池修平、宗田 武、岡田卓也)
- 3 前立腺肥大症に対する経尿道的レーザー蒸散術 (PVP) の有用性に関する検討
(小池修平、池内亮介、宗田 武、岡田卓也)
- 4 難治性過活動膀胱に対するボツリヌス毒素膀胱内注入療法の有用性の検討
(宗田 武、小池修平、池内亮介、岡田卓也)
- 5 小径腎癌に対するロボット支援腎部分切除術の安全性の検討
(岡田卓也、小池修平、池内亮介、宗田 武)
- 6 前立腺癌に対するロボット支援前立腺全摘術の臨床的有用性の検討
(宗田 武、小池修平、池内亮介、岡田卓也)
- 7 Stage D2 前立腺癌治療に関する他施設共同前向き観察研究
(池内亮介、小池修平、宗田 武、岡田卓也)
- 8 過活動膀胱に対する投薬状況の検討
(宗田 武、小池修平、池内亮介、岡田卓也)

産婦人科系

- 1 全腹腔鏡下広汎子宮全摘術の腫瘍学的予後の検討
(関山健太郎、秦さおり、多賀敦子、山本 彩、河合恵理)
- 2 腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術の手術手技に関する検討
(関山健太郎、吉岡弓子、奥田亜紀子、秦さおり、多賀敦子、大西佑実)
- 3 広汎性子宮頸部摘出術の腔式手術への発展
(吉岡弓子、小藺祐喜、多賀敦子、河合恵理、山本 彩)
- 4 腹腔鏡補助下のセンチネルリンパ節検索の有用性の検討
(吉岡弓子、小藺祐喜、多賀敦子、山本 彩、大西佑実)
- 5 腹腔鏡下子宮全摘術における尿管損傷回避のための術式検討
(関山健太郎、秦さおり、多賀敦子、河合恵理、大西佑実)
- 6 腹腔鏡下子宮筋腫核出時の筋腫細切術の工夫
(秦さおり、関山健太郎、小藺祐喜、山本 彩、大西佑実)
- 7 婦人科癌手術における深部静脈血栓症の発生についての検討
(小藺祐喜、吉岡弓子、奥田亜紀子、河合恵理)
- 8 前置胎盤帝王切開術時の出血量軽減に向けた術式改変
(奥田亜紀子、多賀敦子、秦さおり、大西佑実)

- 9 術後合併症の観点からの子宮頸部 LEEP 手術の術式改変
(奥田亜紀子、多賀敦子、河合恵理、芝本拓巳)

消化器センター 消化器外科系

【食道】

- 1 食道癌術前化学療法無効症例を同定するための血清バイオマーカー探索
(上田修吾)
- 2 下部食道がん 接合部がんに対する腹臥位胸腔鏡下食道胃管吻合法における手技の工夫と治療成績に関する研究
(田中英治)
- 3 腹臥位胸腔鏡下食道切除における左反回神経周囲リンパ節郭清の合理的な手技の考案と短期成績に関する研究
(田中英治)
- 4 下部食道がん・接合部がんに対する腹腔鏡下経裂孔的下縦隔郭清における解剖学的特性に基づいた手技の定型化と有用性に関する研究
(田中英治)
- 5 手術支援ロボット (da Vinci surgical system) を用いた食道手術における安全性、有用性に関する研究
(田中英治)

【胃・十二指腸・小腸】

- 6 根治切除可能な大型 3 型/4 型胃癌に対する術前 TS-1+CDDP 併用化学放射線療法 第 I/II 相臨床試験 (OGSG1205)
(上田修吾)
- 7 Stage III の治癒切除胃癌に対する術後補助化学療法としての TS-1+Docetaxel 併用療法と TS-1 単独療法のランダム化比較第 III 相試験 (JACCRO GC-07 (START-2)) におけるバイオマーカー研究 JACCRO GC-07AR2
(上田修吾)
- 8 Stage III の治癒切除胃癌症例における TS-1 術後補助化学療法の予後予測因子および副作用発現の危険因子についての探索的研究 (JACCRO GC-07 AR)
(上田修吾)
- 9 大型 3 型/4 型胃癌に対する術前 TS-1+CDDP+DTX 併用療法による第 II 相臨床試験 (OGSG1402) (上田修吾)
- 10 フッ化ピリミジン, CDDP, Taxan および CPT-11 に不応・不耐となった切除不能・再発胃癌におけるカペシタビン+オキサリプラチン (XELOX) 療法の第 II 相試験 (OGSG1403)
(上田修吾)
- 11 Ramucirumab 抵抗性進行胃癌に対する Ramucirumab+Irinotecan 併用療法のインターグループランダム化第 III 相試験 (RINDBeRG 試験)
(上田修吾)
- 12 進行度 (病理分類) I、II 期胃癌患者の胃切除後の骨密度に関する前向きコホート研究 (LOHAS study) (上田修吾)
- 13 腹膜播種を伴う胃癌に対する S-1/シスプラチン+パクリタキセル腹腔内投与併用療法の第 II 相臨床試験 (先進医療) (上田修吾)
- 14 経口摂取困難な腹膜播種陽性胃癌症例に対する mFOLFOX6+パクリタキセル腹腔内投与併用療法の探索的臨床試験
(上田修吾)
- 15 胃上部癌、食道胃接合部癌に対する術後 QOL 向上に寄与する胃切除術式、再建法に関する研究
(上田修吾)

- 16 京都大学外科関連多施設における胃癌手術レジストリ
(上田修吾、田中英治)
- 17 4型進行胃癌に対する術後または周術期補助化学療法としての全身・腹腔内併用化学療法と全身化学療法の無作為化比較第Ⅲ相試験(先進医療)
(上田修吾)
- 18 切除不能進行性胃癌症例におけるニボルマブのバイオマーカー探索を含めた観察研究(DELIVER試験)(JACCRO GC-08)
(上田修吾)
- 19 胃癌 Stage III の術後 Docetaxel+S1 (DS) 療法後早期再発症例に対する Ramucirumab+Irinotecan 併用療法第Ⅱ相多施設共同臨床試験(OGSG1901)
(上田修吾)
- 20 胃癌手術症例のバイオバンク構築
(上田修吾、田中英治)
- 21 完全腹腔鏡下胃全摘術におけるリニアステープラーを用いた吻合法の有用性と安全性に関する研究(田中英治)
- 22 手術支援ロボット(da Vinci surgical system)を用いた胃がん手術における安全性 有用性に関する研究(田中英治)
- 23 切除可能胃癌に対する da Vinci surgical system (DVSS) によるロボット支援胃切除術の安全性, 有効性, 経済性に関する多施設共同臨床試験(田中英治)
- 24 腹腔鏡下胃全摘術における食道空腸吻合法に関する多施設共同後ろ向き観察研究
(田中英治)
- 25 2型糖尿病を有する胃癌患者に対する幽門側胃切除術後の消化管再建法の糖尿病経過への影響に関する多施設共同後ろ向き観察研究(田中英治)
- 26 十二指腸癌外科的切除症例の臨床病理学的因子と予後に関する研究
(上村 良)

【大腸】

- 27 治癒切除結腸癌(StageⅢ)を対象としたフッ化ピリミジン系薬剤を用いた術後補助化学療法の個別化治療に関するコホート研究(B-CAST)(福田明輝)
- 28 術後補助化学療法に Oxaliplatin を用いた大腸癌再発症例に対しての FOLFOX、XELOX±BV の再投与の検討(福田明輝)
- 29 直腸癌手術後における生活の質の調査(直腸術後 QOL study)
(福田明輝)
- 30 Fluoropyrimidine, Oxaliplatin, Irinotecan を含む化学療法に不応または不耐の KRAS 野生型進行・再発結腸・直腸癌に対する Regorafenib と Cetuximab の逐次投与と Cetuximab と Regorafenib の逐次投与のランダム化第Ⅱ相試験(福田明輝)
- 31 StageⅢ結腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としての mFOLFOX6 療法または XELOX 療法における 5-FU 系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験(福田明輝)
- 32 切除不能な進行・再発大腸癌に対する初回治療としての FOLFOXIRI+ベバシズマブ療法多施設共同第Ⅱ相試験(福田明輝)
- 33 切除不能な進行・再発大腸癌に対する 2次治療としての XELIRI with/without Bevacizumab 療法と FOLFIRI with/without Bevacizumab 療法の国際共同第Ⅲ相ランダム化比較試験
(福田明輝)
- 34 治癒切除不能進行・再発大腸癌に対する一次治療としてのカペシタビン/LV5FU2+ベバシズマブ療法後の XELOX/FOLFOX+ベバシズマブ逐次療法と XELOX/FOLFOX+ベバシズマブ併用療法の多施設共同ランダム化第Ⅲ相臨床試験(福田明輝)
- 35 再発危険因子を有するハイリスク StageⅡ結腸がん治癒切除例に対する術後補助化学療法としての

mFOLFOX6 療法または XELOX 療法の至適投与 期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験 (福田明輝)

- 36 RAS 遺伝子 (KRAS/NRAS 遺伝子) 野生型で化学療法未治療の切除不能進行再発大腸癌患者に対する mFOLFOX6+ベバシズマブ併用療法と mFOLFOX6+パニツムマブ併用療法の有効性及び安全性を比較する第Ⅲ相無作為化比較試験 (PARADIGM 試験) (福田明輝)
- 37 RAS 野生型進行大腸癌患者における FOLFOXIRI+セツキシマブと FOLFOXIRI+ベバシズマブの最大腫瘍縮小率 (DpR) を検討する無作為化第Ⅱ相臨床試験 (福田明輝)
- 38 大腸癌肝転移治癒切除後の患者に対する術後補助化学療法として、L-OHP ベース化学療法に FT/LV 療法の逐次療法を行うことの安全性と有用性の検討 (福田明輝)
- 39 局所進行下部直腸癌に対する術前補助化学療法の有効性と忍容性の研究 (Estneo 研究) の長期予後調査研究 (福田明輝)

【肝臓、肝切除、基礎研究】

- 40 食事制限による肝虚血再還流障害の制御機構の解明
(学術研究助成基金助成金 H30-R2 年度 基盤研究 C 継続)
(寺嶋宏明、内田洋一朗、川添准矢)
- 41 ブタ非アルコール性脂肪肝炎関連肝癌 (NASH-HCC) モデルにおける血液・肝臓プロテオミクス
(学術研究助成基金助成金 2019-2021 年度 基盤研究 C) (井口公太)
- 42 肝細胞癌における癌幹細胞の転移メカニズム解明と新規治療標的の同定に関する研究 (学術研究助成基金助成金 2018-2020 年度 若手研究) (河合隆之)
- 43 癌幹細胞の観点から見た肝癌におけるゲノム不均一性の解明
(学術研究助成基金助成金 2019-2021 年度 基盤研究 C 分担研究者)
(河合隆之)
- 44 生体由来 3 次元スキャフォールドを用いた再生肝臓による生存率改善と ECM 解析
(学術研究助成基金助成金 2019-2021 年度 基盤研究 C 分担研究者) (河合隆之)
- 45 肝細胞癌における keratin 19 陽性癌幹細胞を標的とした新規治療戦略構築に関する研究 (公益財団法人 がん研究振興財団 がん研究助成金) (河合隆之)
- 46 肝虚血再灌流障害におけるリコモジュリン分画製剤の抗炎症作用の機序解明
(旭化成ファーマ共同研究助成費) (寺嶋宏明、川添准矢)
- 47 大建中湯における肝虚血再灌流障害に対する保護効果に関する基礎研究
(ツムラ受託研究助成費) (寺嶋宏明)
- 48 C 型肝炎関連肝細胞癌切除後インターフェロン補助療法の臨床的意義に関する研究
(KHBO1203) (寺嶋宏明)
- 49 高度脈管侵襲を伴う進行肝細胞癌に対する肝切除術と術後肝動注化学療法の有用性に関する臨床研究 (KHBO1207) (寺嶋宏明)
- 50 同時性切除不能大腸癌肝転移に対する肝先行切除または原発先行切除の有用性および安全性の検討 (寺嶋宏明)
- 51 大腸癌肝転移治癒切除後の患者に対する術後補助化学療法として、L-OHP ベース化学療法に UFT/LV 療法の逐次療法を行うことの安全性と有用性の検討 (寺嶋宏明)
- 52 大腸癌肝転移に対する肝切除法と予後に関する研究
(京都大学外科関連施設共同後ろ向き研究) (河合隆之、寺嶋宏明)
- 53 肝切除後肝再生・肝不全における脂質代謝ネットワークを探る
(井口公太)
- 54 水溶性植物繊維による肝保護効果とメカニズムの解明
(宮内智之)

【胆道】

- 55 FDG-PET 陽性リンパ節転移を伴う切除可能胆道癌に対する術前ゲムシタビン/シスプラチン/S-1 併用術前化学療法 (GCS 療法) の有効性・安全性試験 (KHBO1201) (寺嶋宏明)

- 56 肝葉切除を伴わない胆道癌切除例を対象としたゲムシタビン/シスプラチン (GC) 併用療法とゲムシタビン/S-1 (GS) 併用療法の術後補助化学療法のランダム化第Ⅱ相試験 (KHBO1901) (上村 良)
- 57 GEM/CDDP/S-1 (GCS) 療法不応または不耐後の切除不能胆道癌に対する二次治療の有効性に関する多施設共同後ろ向き観察研究 : KHBO1401-3A (当院承認研究 P14-07-013 の付随研究) (寺嶋宏明)
- 58 KHBO1401 附随研究 : 切除不能胆道癌肺転移に対する GEM/CDDP/S-1 と GEM/CDDP の有用性の比較検討 (KHBO1401-3B) (寺嶋宏明)
- 59 全国胆道癌の後方視的観察研究 (寺嶋宏明)

【膵臓、膵切除】

- 60 膵・消化管および肺・気管支・胸腺神経内分泌腫瘍の患者悉皆登録研究 (上村 良)
- 61 膵頭十二指腸切除術後残膵管拡張の臨床的意義とそのリスクファクターの同定 : 多施設共同前方視的コホート研究 (DAIMONJI-Study) (上村 良)
- 62 切除不能・再発膵がんを対象とした相同組み換え修復関連遺伝子変異を含む遺伝子検査を用いたコホート研究 (寺嶋宏明)

【その他】

- 63 Multi-gene Panel を用いた遺伝学的検査の遺伝カウンセリングモデルに関する研究 (寺嶋宏明)
- 64 抗血栓薬 (抗血小板薬・抗凝固薬) 服用患者における消化器外科手術の安全性の検証 (河合隆之、久野晃路)
- 65 虚血再還流による臓器障害を軽減する漢方「大建中湯」の作用機構の解明 (宮内智之)

消化器センター 消化器内科系

- 1 家族性膵癌の疾患関連遺伝子に関する解析 (栗田 亮、八隅秀二郎)
- 2 大阪早期膵癌プロジェクト (八隅秀二郎、栗田 亮)
- 3 ERCP 関連偶発症に関する多施設共同前向き観察研究 (八隅秀二郎、栗田 亮)
- 4 がんと静脈血栓塞栓症の臨床研究 : 多施設共同前向き登録研究 -Cancer-VTE Registry- (八隅秀二郎、栗田 亮、高 忠之)
- 5 迅速ウレアーゼ試験における胃粘液検体からのヘリコバクターピロリ検出の検討 (山内淳嗣、渡邊幸太郎、八隅秀二郎)
- 6 閉塞性黄疸を有する 1 型自己免疫性膵炎に対する胆管ステント非留置下ステロイド投与の安全性評価試験 (栗田 亮、八隅秀二郎)
- 7 Niti-s 大腸用ステントMDタイプ多施設共同前向き安全性観察研究 (山内淳嗣、渡邊幸太郎、八隅秀二郎)
- 8 消化器内視鏡に関連する疾患、治療手技データベース構築 (山内淳嗣、渡邊幸太郎、栗田 亮、八隅秀二郎)
- 9 血液中のアミノ酸および代謝物濃度を用いた膵臓がんの新規バイオマーカーの開発に関する研究 (八隅秀二郎、栗田 亮、高 忠之)
- 10 直接作用型経口抗凝固薬内服者における内視鏡的粘膜下層剥離術後出血の薬理学的予測因子の探索的研究 (八隅秀二郎)
- 11 20mm以下の十二指腸非乳頭部在性腫瘍に対する Underwater Endoscopic Mucosal Resection (UEMR) の有効性に関する多施設共同観察研究

- (山内淳嗣、渡邊幸太郎、八隅秀二郎)
- 12 家族性地中海熱遺伝子関連腸炎の診断法確立
(八隅秀二郎、高 忠之)
 - 13 RAS 遺伝子 (KRAS/NRAS 遺伝子) 野生型で化学療法未治療の切除不能進行再発大腸癌患者に対する mFOLFOX6+ベバシズマブ併用療法と mFOLFOX6+パニツムマブ併用療法の有効性及び安全性を比較する第Ⅲ相無作為化比較試験
(八隅秀二郎、高 忠之)
 - 14 血液透析中の消化器癌患者に対する FOLFOX 療法の安全性と有効性に関する多施設共同臨床試験
(八隅秀二郎、高 忠之)
 - 15 切除不能・再発腭がんを対象とした相同組み換え修復関連遺伝子変異を含む遺伝子検査を用いた前向きコホート研究
(八隅秀二郎、栗田 亮、高 忠之)
 - 16 Multi-gene Panel を用いた遺伝学的検査の遺伝カウンセリングモデルに関する研究 Ver.1
(八隅秀二郎、栗田 亮、高 忠之)
 - 17 腭・消化管および肺・気管支・胸腺神経内分泌腫瘍の患者悉皆登録研究
(八隅秀二郎、栗田 亮、高 忠之)
 - 18 腭上皮内癌の画像・病理所見に関する多施設共同研究
(八隅秀二郎、栗田 亮)
 - 19 JCS stage II、III の閉塞性大腸癌における Bridge to Surgery 目的の大腸金属ステント留置例での中長期予後に関する観察研究
(山内淳嗣、渡邊幸太郎、八隅秀二郎)

呼吸器センター 呼吸器外科系

- 1 肺癌における抗腫瘍剤関連バイオマーカーに基づく個別化治療
(黄 政龍、大竹洋介、住友亮太、平井達也)
- 2 悪性縦隔腫瘍におけるバイオマーカーに基づく個別化治療
(黄 政龍、大竹洋介、住友亮太、平井達也)
- 3 癌関連バイオマーカーの in vivo 分子イメージングの開発
(黄 政龍、平井達也、櫻井康雄)
- 4 Wnt 抑制ベクターによる癌核酸医療の開発
(黄 政龍、住友亮太、平井達也)
- 5 肺癌における新規バイオマーカーの探索
(黄 政龍、住友亮太、平井達也)
- 6 悪性縦隔腫瘍における新規バイオマーカーの探索
(黄 政龍、住友亮太、平井達也)
- 7 肺癌切除例に対する術後補助化学療法の検討
(黄 政龍、大竹洋介、住友亮太、村上裕亮)
- 8 肺葉切除における肺動静脈処理の順序と肺うっ血に関する研究
(住友亮太、黄 政龍、大竹洋介、村上裕亮)
- 9 胸部手術術後疼痛に関する研究
(村上裕亮、黄 政龍、大竹洋介、住友亮太)
- 10 バーチャル気管支鏡ナビゲーションを利用した術前気管支鏡下マーキング
(村上裕亮、黄 政龍、大竹洋介、住友亮太)

腫瘍内科系

- 1 がん化学療法における有害事象に関する臓器横断的研究
(西村貴文)

- 2 革新的質量分析法を用いた悪性中皮腫診断マーカーの同定
(鶴山竜昭)

第 2 研究部 (心、血管、肺、血液、障害研究部)

部長	猪子 森明	(心臓 C 循環器内科)
研究主幹	北野 俊行	(血液内科)
	福井 基成	(呼吸器 C 呼吸器内科)
	丸毛 聡	(呼吸器 C 呼吸器内科)
	渡辺 健	(小児科循環器部門、心臓 C 先天性心疾患部門)
	羽生 道弥	(心臓 C 心臓血管外科)
	田村 暢成	(心臓 C 心臓血管外科)
	春名 徹也	(心臓 C 不整脈科)

血液内科系

- 慢性活動性 EB ウイルス感染症に対する同種移植の有効性の検討
(瀧内曜子、柴田 翔)
- 難治性高悪性度リンパ腫の治療に関する臨床研究
(田端淑恵、饗庭明子、岡本吉央、柴田 翔、稲野将二郎、瀧内曜子、山本和代、北野俊行)
- 重鎖病の病態解明と肺高血圧症に及ぼす影響の研究
(柴田 翔、饗庭明子)
- TAFRO 症候群と POEMS 症候群と特発性多中心性キャッスルマン病との関連性
(柴田 翔、田端淑恵)
- SBDS 蛋白の機能解析とその異常の Shwachman-Diamond 症候群の病型への影響
(柴田 翔、稲野将二郎)
- ナノポアシーケンサーを用いた急性骨髄性白血病の MRD 追跡
(柴田 翔、稲野将二郎)
- 多発性骨髄腫の治療を妨げる細胞分画の同定
(稲野将二郎)
- 骨髄異形成症候群の進展における miRNA の関与
(稲野将二郎)
- 細胞内蛋白を標的とした分子標的治療の構築
(稲野将二郎)
- Lenalidomide の樹状細胞に対する免疫修飾作用の解析
(山本和代)
- 糖尿病患者における血液疾患化学療法の実施に関する研究
(田端淑恵)
- 多発性骨髄腫に対する新規薬剤の臨床研究
(田端淑恵、饗庭明子、山本和代、瀧内曜子、稲野将二郎、岡本吉央、柴田 翔、北野俊行)
- 骨髄増殖性疾患に対する新規薬剤の臨床研究
(田端淑恵、饗庭明子、山本和代、瀧内曜子、稲野将二郎、岡本吉央、柴田 翔、北野俊行)
- 再発難治低悪性度リンパ腫での、ベンダムスチン・リツキシマブ併用療法の予後因子の探索
(北野俊行)
- HLA1 座不適合非血縁者間骨髄移植における従来型 GVHD 予防法と抗ヒト胸腺細胞免疫グロブリン併用 GVHD 予防法の比較研究
(北野俊行、岡本吉央、柴田 翔、稲野将二郎、瀧内曜子、山本和代、田端淑恵、饗庭明子)
- 網羅的遺伝子検査を血液腫瘍の診療に役立てるための臨床研究
(岡本吉央、柴田 翔、稲野将二郎、瀧内曜子、山本和代、田端淑恵、饗庭明子、北野俊行)

- 17 中枢神経原発悪性リンパ腫における新規バイオマーカーの同定
(岸本 渉、岡本吉央、柴田 翔、稲野将二郎、瀧内曜子、山本和代、田端淑恵、饗庭明子、北野俊行)

呼吸器センター 呼吸器内科系

【肺癌関係】

- 1 進行・再発非小細胞肺癌患者の腸内細菌叢とニボルマブの治療効果や有害事象との関係についての検討 (KCOG-1615) 多施設共同前向き観察研究
(糸谷 涼、伊元孝光、福井基成)
- 2 肺癌免疫療法におけるバイオマーカー探索のための前向き観察研究
LC-SCRUM-Japan 附随研究:Immuno-Oncology Biomarker Study (LC-SCRUM-IBIS)
(伊元孝光、菊池悠二郎、前谷知毅、山田 翔、宇山倫弘、林 優介、白石祐介、北島尚昌、井上大生、丸毛 聡、福井基成)
- 3 アジア人の非小細胞肺癌における個別化医療の確立を目指した、遺伝子スクリーニングとモニタリングのための多施設共同前向き観察研究 (LC-SCRUM-Asia)
(伊元孝光、菊池悠二郎、前谷知毅、山田 翔、宇山倫弘、林 優介、白石祐介、北島尚昌、井上大生、丸毛 聡、福井基成)

【呼吸器感染症関係】

- 4 肺炎における入院時 Body Mass Index と予後との関係についての検討
(井上大生、菊池悠二郎、前谷知毅、山田 翔、宇山倫弘、林 優介、白石祐介、伊元孝光、北島尚昌、丸毛 聡、福井基成)
- 5 肺炎におけるプレセプシン測定の有用性に関する検討
(井上大生、菊池悠二郎、前谷知毅、山田 翔、宇山倫弘、林 優介、白石祐介、伊元孝光、北島尚昌、丸毛 聡、福井基成)
- 6 Checkerboard 法を用いた Mycobacterium abscessus に対する抗菌薬の in vitro 併用効果の検討
(白田全弘、菊池悠二郎、前谷知毅、山田 翔、宇山倫弘、林 優介、白石祐介、伊元孝光、北島尚昌、井上大生、丸毛 聡、福井基成)
- 7 QFT キット搬入条件と陽性率の関係についての検討
(丸毛 聡、菊池悠二郎、前谷知毅、山田 翔、宇山倫弘、林 優介、白石祐介、伊元孝光、北島尚昌、井上大生、福井基成)
- 8 気管支肺胞洗浄液を用いた、LAMP 法によるアスペルギルス感染症の診断能力についての検討
(井上大生、菊池悠二郎、前谷知毅、山田 翔、宇山倫弘、林 優介、白石祐介、伊元孝光、北島尚昌、丸毛 聡、福井基成)
- 9 気管支肺胞洗浄液を用いた、LAMP 法によるニューモシチス肺炎の診断能力についての検討
(井上大生、菊池悠二郎、前谷知毅、山田 翔、宇山倫弘、林 優介、白石祐介、伊元孝光、北島尚昌、丸毛 聡、福井基成)
- 10 非結核性抗酸菌症の重症化予防を目的とした栄養介入実施と新たな栄養指示療法の提案
(高山祐美、北島尚昌、永井成美、福井基成)

【喘息・COPD関係】

- 11 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) に対する鍼治療を用いた長期予後の検討 (L-CAT)
(鈴木雅雄、福井基成、宇山倫弘、林 優介、白石祐介、北島尚昌、井上大生、丸毛 聡)
- 12 閉塞性肺疾患の病態に関連した臨床指標に関する研究
(丸毛 聡、松本久子、室 繁郎、北島尚昌、井上大生、福井基成)
- 13 COPD 患者における COPD アセスメントテストのスコアと臨床症状との検討
(丸毛 聡、菊池悠二郎、前谷知毅、山田 翔、宇山倫弘、林 優介、白石祐介、北島尚昌、井上大生、福井基成)
- 14 調剤薬剤師主導による吸入指導体制が喘息・COPD 患者および地域医療に及ぼす影響

(丸毛 聡、三井克巳、井戸雅子、小山美鈴、岡部まさえ、福井基成)

- 15 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) における気道好酸球炎症と気道壁肥厚の関連の検討
(前谷知毅、丸毛 聡、菊池悠二郎、山田 翔、林 優介、宇山倫弘、白石祐介、伊元孝光、北島尚昌、井上大生、福井基成)
- 16 気管支喘息患者における下気道粘液栓と好酸球性副鼻腔炎の関連の検討
(林 優介、丸毛 聡、菊池悠二郎、前谷知毅、山田 翔、宇山倫弘、白石祐介、伊元孝光、北島尚昌、井上大生、福井基成)
- 17 好酸球高値かつ IgE 高値の重症喘息症例での生物学的製剤の効果の検討
(丸毛 聡、前谷知毅、菊池悠二郎、山田 翔、林 優介、宇山倫弘、白石祐介、伊元孝光、北島尚昌、井上大生、福井基成)
- 18 好酸球性肺炎合併喘息における全身ステロイド投与状況の検討
(丸毛 聡、菊池悠二郎、前谷知毅、山田 翔、林 優介、宇山倫弘、白石祐介、伊元孝光、北島尚昌、井上大生、福井基成)
- 19 本邦リアルワールドでの重症喘息における生物学的製剤の使用実態および効果に寄与する因子の検討 多施設共同研究
(丸毛 聡、林 優介、白石祐介、北島尚昌、福井基成)
- 20 閉塞性気道疾患における胸部 CT 解析の日常臨床応用への可能性に関する多施設共同研究多施設共同研究 (丸毛 聡、福井基成)
- 21 COPD 患者における NPPV 導入の気腫性変化への影響に関する検討
(前谷知毅、丸毛 聡、菊池悠次郎、山田 翔、林 優介、宇山倫弘、白石祐介、伊元孝光、北島尚昌、井上大生、福井基成)
- 22 慢性呼吸器疾患患者の呼吸運動を cineMRI を用いて定量的に評価する研究
(白石祐介、白石依里香、菊池悠二郎、前谷知毅、山田 翔、林 優介、宇山倫弘、伊元孝光、北島尚昌、井上大生、丸毛 聡、奥村亮介、福井基成)

【びまん性肺疾患関係】

- 23 特発性肺線維症における白血球テロメア長と血中バイオマーカーおよび臨床指標の関連についての検討 多施設共同研究
(宇山倫弘、菊池悠二郎、前谷知毅、山田 翔、林 優介、白石祐介、伊元孝光、北島尚昌、井上大生、丸毛 聡、福井基成)
- 24 間質性肺疾患患者の血液および BAL におけるサイトカインなどの検討
(宇山倫弘、菊池悠二郎、前谷知毅、山田 翔、丸毛 聡、林 優介、白石祐介、伊元孝光、北島尚昌、井上大生、福井基成)
- 25 ナノポアシークエンサーを用いた過敏性肺炎患者の環境調査における真菌の同定
(伊元孝光、菊池悠二郎、宇山倫弘、前谷知毅、山田 翔、林 優介、白石祐介、北島尚昌、井上大生、丸毛 聡、福井基成)

【呼吸不全関係】

- 26 慢性呼吸不全患者に対する包括的呼吸ケアプログラムが身体活動性および健康関連 QOL に及ぼす影響についての検討
(北島尚昌、本田憲胤、菊池悠二郎、前谷知毅、山田 翔、宇山倫弘、林 優介、白石祐介、伊元孝光、井上大生、丸毛 聡、福井基成)
- 27 在宅酸素療法を必要とする安定期 COPD 患者における長期高流量鼻カニューラ酸素療法に対する有効性及び安全性に関する検討 多施設共同試験
(北島尚昌、井上大生、丸毛 聡、福井基成)
- 28 高二酸化炭素血症および長期非侵襲的人工呼吸療法が肺非結核性抗酸菌症の予後に及ぼす影響についての検討
(北島尚昌、菊池悠二郎、前谷知毅、山田 翔、宇山倫弘、林 優介、白石祐介、伊元孝光、

井上大生、丸毛 聡、福井基成)

- 29 episodic Nocturnal hypercapnia と COPD 増悪についての検討
(北島尚昌、菊池悠二郎、前谷知毅、山田 翔、宇山倫弘、林 優介、白石祐介、伊元孝光、井上大生、丸毛 聡、福井基成)
- 30 非結核性抗酸菌症における呼吸機能・呼吸筋力と四肢筋肉量との関係についての検討
(北島尚昌、高山祐美、菊池悠二郎、前谷知毅、山田 翔、宇山倫弘、林 優介、白石祐介、伊元孝光、井上大生、丸毛 聡、福井基成)
- 31 高齢者に対する長期非侵襲的人工呼吸療法についての検討
(北島尚昌、菊池悠二郎、前谷知毅、山田 翔、宇山倫弘、林 優介、宇山倫弘、白石祐介、伊元孝光、井上大生、丸毛 聡、福井基成)

小児科循環器／心臓 C 先天性心疾患系

- 1 インスタントメッセージおよびクラウドを用いた心エコー遠隔診療支援システムの構築
(渡辺 健)

心臓センター 循環器内科、不整脈科系

- 1 心不全患者の運動療法における予後調査
(中根英策、福田弘毅、猪子森明)
- 2 慢性心房細動例において、運動耐容能の評価が治療方針決定につながる可能性
(春名徹也、中根英策、張田健志)
- 3 心房細動に対するアブレーションの長期成績向上を目的とした薬学的アプローチ及レジストリ (KPAF study)
(春名徹也、張田健志、臨床工学部)
- 4 冠血行再建術による心血管イベントリスクの減少効果を負荷心筋血流 SPECT を用いた虚血量定量で評価するための調査研究 (J-ACCESS IV)
(春名克純、加藤貴雄)
- 5 血中・心嚢液中マイクロ RNA の生理学的意義の検討
(宮本昌一、猪子森明)
- 6 心臓除細動器植え込み症例における遠隔モニタリングシステムの運用の意義
(春名徹也、張田健志、臨床工学部)
- 7 大動脈弁狭窄症患者に対する治療法選択とその予後を検討する多施設前向きコホート研究 (CURRENT-AS Study-2)
(猪子森明、加藤貴雄、春名徹也、春名克純、山地雄平、中根英策、福田弘毅、矢野真理子、張田健志、濱口桃香、平間大介、古市吉真、羽生道弥)
- 8 慢性冠動脈疾患患者におけるイコサペント酸エチルの二次予防効果の検討 (RESPECT-EPA) (宮本昌一、猪子森明)
- 9 日本における急性うっ血性心不全入院患者の多施設レジストリ及び前向きコホート研究 - Kyoto Congestive Heart Failure (KCHF) Study -
(中根英策、加藤貴雄、春名克純、山地雄平、春名徹也、張田健志、福田弘毅、矢野真理子、濱口桃香、平間大介、古市吉真、羽生道弥、猪子森明)
- 10 脂質異常症患者における内皮機能 [Endo-PAT]、アルブミン尿に対する EPA 製剤 (エパデール) と EPA・DHA 製剤 (ロトリガ) の効果に関する研究
(宮本昌一、猪子森明)
- 11 心不全増悪早期に外来受診行動を可能にする新たな心不全自己管理用紙による心不全再入院防止の効果の検討
(中根英策、猪子森明、加藤貴雄、春名徹也、春名克純、山地雄平、福田弘毅、矢野真理子、濱口桃香、張田健志)

- 12 血行再建術困難下肢閉塞性動脈硬化症に対する末梢血単核球細胞分画移植による血行建術：先進医療 B としての臨床運用
(春名徹也、猪子森明、腎臓内科：垣田浩子、塚本達雄)
- 13 心臓同期療法治療選択における擬似両室ペーシングと即時左室内圧測定の有用性
(春名徹也、張田健志、臨床工学部)
- 14 心電図異常の臨床的意義について～心エコー所見との比較～
(加藤貴雄、猪子森明)
- 15 急性大動脈解離や胸部大動脈瘤破裂および未破裂胸部大動脈瘤における心嚢液中 Granulocyte-Conlony Sitmulating Factor 濃度や同組織染色における発現レベルの比較検討
(宮本昌一、羽生道弥、猪子森明)
- 16 多施設共同研究 STOPDAPT-2 (ShorT and OPTimal duration of Dual Anti Platelet Therapy-2 study) : エベロリムス溶出性コバルトクロムステント (XIENCE) 留置後の抗血小板剤 2 剤併用療法期間を 1 ヶ月に短縮することの安全性を評価する研究
(山地雄平、春名克純、張田健志、中根英策、春名徹也、福田弘毅、矢野真理子、濱口桃香、猪子森明)
- 17 多施設共同研究 CREDO-Kyoto 3 (Coronary REvascularization Demonstrating Outcome Study in Kyoto) 追跡調査：日本における経皮的冠動脈インターベンション (PCI) および冠動脈バイパス手術 (CABG) のレジストリ・多施設による冠動脈疾患血行再建術後の長期成績・予後調査コホート 3
(猪子森明、山地雄平、張田健志、春名克純、中根英策、福田弘毅、矢野真理子、濱口桃香、春名徹也)
- 18 HF_rEF 患者に対する心不全入院および心血管死に対する LCZ696 の有効性と安全性をレニベースと比較検討する多施設共同、ランダム化、二重盲検、並行群間、実薬対象比較試験
(猪子森明、中根英策、山地雄平、春名克純、福田弘毅、矢野真理子、濱口桃香、春名徹也)
- 19 バイエル薬品株式会社の依頼による下肢血行再建術施行後の症候性末梢動脈疾患患者を対象とした重大な血栓性血管イベントの発現リスクの低減におけるリバーロキサバンの有効性及び安全性を検討する国際共同、多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照第Ⅲ相試験 (VOYAGER PAD 試験)
(猪子森明、中根英策、山地雄平、福田弘毅、矢野真理子、濱口桃香、春名克純、春名哲也)
- 20 非弁膜症性心房細動を有する後期高齢患者を対象とした前向き観察研究
企業主導多施設共同研究 (All Nippon AF In Eldery Registry -ANAFIE Registry-)
(猪子森明、春名徹也、中根英策、張田健志、山地雄平、福田弘毅、矢野真理子、濱口桃香、春名克純)
- 21 心房細動合併急性冠症候群患者における抗血栓治療後の出血と血栓リスクに関する前向き観察多施設共同研究 (STAR-ACS)
(猪子森明、中根英策、山地雄平、春名克純、福田弘毅、矢野真理子、濱口桃香、張田健志、春名徹也)
- 22 慢性心不全を合併した冠動脈疾患患者にイグザレルト群とプラセボの無作為化、二重盲検試験安全性とイベントに対する有効性を検討 (COMMANDER)
(猪子森明、春名徹也、中根英策、山地雄平、福田弘毅、矢野真理子、濱口桃香、春名克純)
- 23 閉塞性動脈硬化症に伴う間欠性跛行を対象とした NS-304 の後期第Ⅱ相試験
(猪子森明、春名徹也、中根英策、山地雄平、福田弘毅、矢野真理子、濱口桃香、春名克純)
- 24 トログリフロジンの安全性および有効性の検討 前向き観察研究 (Assessment of safety and effectiveness: the clinical Use of tofogliflozin in patients with type2 diabetes Mellitus -AYUMI-) (猪子森明、春名徹也、中根英策)

- 25 難治性心房頻拍及び心房細動を対象としたマーシャル静脈に対するケミカルアブレーションを用いた探索的介入研究
(春名徹也、張田健志)
- 26 心臓 MRI による co-existing AF and heart failure の病態評価と積極的洞調律化の妥当性の判定 (春名徹也、張田健志)
- 27 心房細動例における積極的洞調律化の妥当性を心房細動適応現象から判定する。(春名徹也、張田健志)
- 28 心房細動例の洞調律直後の血行動態から、リバーズリモデリングを推定する
(春名徹也、張田健志、生理検査部)
- 29 栓塞栓症における非ビタミン K 阻害経口抗凝固薬治療の前向き追跡多施設共同研究 (KUROSIO study)
(猪子森明、春名徹也、中根英策、張田健志、山地雄平、福田弘毅、矢野真理子、濱口桃香、春名克純)
- 30 患者の心嚢液中サイトカインや細胞外マトリックス蛋白測定における臨床的意義の検討
(宮本昌一、羽生道弥、猪子森明)
- 31 患者の心嚢液中 G-CSF 測定における臨床的意義の検討
(宮本昌一、羽生道弥、猪子森明)
- 32 患者の心嚢液中 Troponin T 測定における臨床的意義の検討
(宮本昌一、羽生道弥、猪子森明)
- 33 患者の心嚢液中 NT-proBNP と TroponinT 測定における左室機能や生命予後に関する臨床的意義の検討 (宮本昌一、羽生道弥、猪子森明)
- 34 患者の心嚢液中ケモカイン測定における臨床的意義の検討
(宮本昌一、羽生道弥、猪子森明)
- 35 ial Functional Mitral Regurgitation (AFMR) の機序および AFMR に対する心房細動の影響に関する研究
(林 秀幸、矢野真理子、猪子森明、張田健志、春名徹也)
- 36 閉鎖不全症に伴う肺動脈楔入圧上の v 波の意義に関する研究
(林 秀幸、猪子森明、張田健志、濱口桃香、矢野真理子、春名徹也)
- 37 動脈解離の治療の際の抗血栓療法継続の是非についての研究
(濱口桃香、宮本昌一、羽生道弥、猪子森明)
- 38 Frailty の予後予測妥当性と心臓リハビリテーション効果に関する研究
(上坂健太、中根英策、猪子森明)
- 39 症候群に対するエベロリムス溶出性コバルトクロムステント留置後の抗血小板剤 2 剤併用療法 (DAPT) 期間を 1 ヶ月に短縮することの安全性を評価する研究 (STOPDAPT-2 ACS) (山地雄平、福田弘毅、濱口桃香、矢野真理子、中根英策、春名克純、猪子森明)
- 40 医療の適正化に資するための全国規模データベースによるエビデンスの創出 PREDICTing long-term clinical outcomes by Optical coherence tomography assessments of plaque characteristics of irregularities coronary artery [PREDICTOR Study] (非血行再建冠動脈における光干渉断層撮影法評価による長期臨床成績の予測)
(山地雄平、猪子森明)
- 41 動合併患者における冠動脈インターベンション施行後の抗血栓療法の実態調査 (REVEAL AF-PCI Registry)
(春名克純、猪子森明)
- 42 トおよび DPC データを用いた循環器疾患における医療の質に関する研究
(森田雄介、猪子森明)
- 43 繰返し入院する慢性心不全患者を対象とした ASV 治療の予後に関する前向き観察研究 — SAVIOR-L—

- (中根英策、猪子森明)
- 44 入院期心不全患者に対する集団疾病管理指導による心不全再入院予防効果の検討
(上坂健太、中根英策、猪子森明)
- 45 **EMPEROR-Preserved (EMPagliflozin outcomE tRial in patients with chrOnic heaRt failure** : 左室駆出率の保たれた慢性心不全の患者を対象にしたエンパグリフロジンのアウトカム試験)
(猪子森明、山地雄平、春名克純、張田健志、中根英策、福田弘毅、矢野真理子、濱口桃香、春名徹也)
- 46 **EMPEROR-reduced (EMPagliflozin outcomE tRial in patients with chrOnic heart failure** : 左室駆出率の低下した慢性心不全の患者を対象にしたエンパグリフロジンのアウトカム試験)
(猪子森明、山地雄平、春名克純、張田健志、中根英策、福田弘毅、矢野真理子、濱口桃香、春名徹也)
- 47 至適な血管内超音波ガイド経皮的冠動脈インターベンションの複雑性病変における臨床経過を評価する前向き観察研究 (OPTIVUS-Complex PCI) (山地雄平、猪子森明)
- 48 非弁膜症性心房細動を合併する冠動脈インターベンション施行患者の経口抗凝固薬と抗血小板薬の至適併用療法 : オープンラベル、多施設、前向き、無作為比較試験 (OPTIMA-AF trial)
(山地雄平、猪子森明)
- 49 大腿膝窩動脈病変を有する症候性閉塞性動脈硬化症患者に対する薬剤溶出性バルーンを用いた末梢血管内治療に関する多施設前向き研究 (POPCORN)
(山地雄平、猪子森明)
- 50 多臓器マルチオミクスによる代謝恒常性ネットワークの解明
(森田雄介、猪子森明)
- 51 本邦の経皮的冠動脈インターベンション治療における心房細動の頻度と傾向の検討 (森田雄介、猪子森明)
- 52 本邦の非心臓手術における周術期心筋梗塞の頻度と傾向の検討
(森田雄介、猪子森明)
- 53 レセプトおよび DPC データを用いた循環器疾患における医療の質に関する研究
(猪子森明、山地雄平、春名克純、張田健志、中根英策、福田弘毅、矢野真理子、濱口桃香、春名徹也)
- 54 癌合併の下腿限局型深部静脈血栓症に対する最適な抗凝固療法の投与期間を検証する研究 (ONCO DVT Study)
(猪子森明、山地雄平、春名克純、張田健志、中根英策、福田弘毅、矢野真理子、濱口桃香、春名徹也)
- 55 本邦の経皮的冠動脈インターベンション治療における心房細動の傾向と影響の検討
(猪子森明、山地雄平、春名克純、張田健志、中根英策、福田弘毅、矢野真理子、濱口桃香、春名徹也)
- 56 急性冠症候群に対するエベロリムス溶出性コバルトクロムステント留置後の抗血小板剤 2 剤併用療法 (DAPT) 期間を 1 ヶ月に短縮することの安全性を評価する研究 (STOPDAPT-2 ACS) 心アミロイドーシス患者の臨床的特徴と予後を検討する多施設前向きコホート研究 (CAPTURE-AMYLOID)
(猪子森明、山地雄平、春名克純、張田健志、中根英策、福田弘毅、矢野真理子、濱口桃香、春名徹也)
- 57 大阪心不全地域連携の会 (Osaka Stops HEart Failure, OSHEF) の心不全地域連携パスの導入例における心不全再入院回避率および回避例・非回避例
(猪子森明、山地雄平、春名克純、張田健志、中根英策、福田弘毅、矢野真理子、濱口桃香、

春名徹也)

- 58 入院期心不全患者に対する集団疾病管理指導による心不全再入院予防効果の検討
(猪子森明、山地雄平、春名克純、張田健志、中根英策、福田弘毅、矢野真理子、濱口桃香、春名徹也)
- 59 AMED 研究 在宅心不全患者の再入院を回避する革新的 ICT 遠隔モニタリング環境の有用性の検証 (ITMETHOD-HF2)
(猪子森明、山地雄平、春名克純、張田健志、中根英策、福田弘毅、矢野真理子、濱口桃香、春名徹也)

心臓センター 心臓血管外科

- 1 冠動脈バイパス術におけるグラフト評価としての Transit flow meter の有用性
(森島 学、羽生道弥)
- 2 内視鏡を用いた大伏在静脈グラフト採取の利点と欠点
(森島 学、羽生道弥)
- 3 高周波 ablation による肺静脈隔離の遠隔期成績
(羽生道弥、森島 学)
- 4 オフポンプバイパス術とオンポンプバイパス術の選択の妥当性
(平間大介、森島 学、羽生道弥)
- 5 感染性心内膜炎の至適手術時期の検討
(平間大介、森島 学、羽生道弥)
- 6 総大腿動脈病変に対する内膜摘除術の遠隔予後
(平間大介、森島 学、羽生道弥)
- 7 心臓手術術前 MRI による頭部評価は術後脳合併症の発症抑制に繋がる
(羽生道弥、森島 学)
- 8 中等度の僧帽弁閉鎖不全症への手術介入の遠隔期予後
(森島 学、平間大介、羽生道弥)

臨床工学系

- 1 滅菌処理可能な脱細胞化小口径人工血管の開発
(石野直明)

第 3 研究部 (代謝、消化栄養、体液平衡障害研究部)

部長 濱崎 暁洋 (糖尿病内分泌内科)
研究主幹 塚本 達雄 (腎臓内科)
本庶 祥子 (栄養部)

糖尿病内分泌内科系

- 1 内分泌代謝疾患の新規バイオマーカーの探索
(岩崎順博、岩崎可南子、吉治智志、境内大和、瀬野陽平、本庶祥子、濱崎暁洋)
- 2 遺伝性内分泌代謝疾患診断のための遺伝子解析研究
(岩崎順博、吉治智志、岩崎可南子、阿部 恵、境内大和、瀬野陽平、本庶祥子、濱崎暁洋)
- 3 代謝内分泌疾患の病態生理解明と治療効果検討のための観察研究
(岩崎順博、吉治智志、岩崎可南子、阿部 恵、境内大和、瀬野陽平、本庶祥子、濱崎暁洋)
- 4 ステロイド使用時の耐糖能悪化時のインクレチン関連薬治療に関する研究
(吉治智志)
- 5 原発性アルドステロン症の診断および治療経過における心血管・臓器障害の進行とリンパ

- 球・サイトカインプロファイルの関連探索研究
(本庶祥子、濱崎暁洋)
- 6 糖尿病と癌の発症についての後方視的研究
(本庶祥子)
- 7 糖尿病患者における膵癌発生の前向き観察研究 (消化器内科との共同研究)
(本庶祥子、濱崎暁洋)
- 8 高齢者糖尿病患者におけるサルコペニアの評価と介入に関する研究
(本庶祥子、角田晃啓)
- 9 糖尿病入院患者の運動状況・心理・社会背景とのかかわり、体格・体組成とサルコペニアの
関連の研究 (角田晃啓)
- 10 高齢者の生活自立に資する身体機能維持に必要な栄養素代謝環境の病態生理学的解明
(濱崎暁洋、角田晃啓、本庶祥子) (科学研究費助成事業申請 濱崎暁洋)
- 11 ソマトスタチンアナログ製剤投与時の膵・腸管内分泌修飾と耐糖能異常の研究
(阿部 恵、本庶祥子、濱崎暁洋)
- 12 下垂体腫瘍の臨床的特性と発現因子の免疫組織学的解析
(阿部 恵、本庶祥子、濱崎暁洋)
- 13 内分泌腫瘍による膵・腸管内分泌修飾の解析
(阿部 恵、岩崎可南子、濱崎暁洋)
- 14 糖尿病状態における味覚・消化管ホルモン分泌についての検討
(岩崎可南子)
- 15 マイクロRNAの網羅的解析による2型糖尿病の個別化食事療法の推進
(岩崎可南子、岩崎順博) (科学研究費助成事業 若手研究)
- 16 先端巨大症の治療と耐糖能修飾に関する検討
(本庶祥子、阿部 恵)
- 17 抗GAD抗体陽性患者の臨床的特徴に関する検討
(河崎祐貴子、本庶祥子、阿部 恵、濱崎暁洋)
- 18 甲状腺機能の代謝修飾に関する検討
(河崎祐貴子、本庶祥子、濱崎暁洋)
- 19 血漿マイクロRNAプロファイルを用いた糖尿病患者における癌早期スクリーニング法の確立
(岩崎順博) (武田科学振興財団医学系研究助成 岩崎順博)
- 20 免疫系における高血糖毒性の分子基盤解明とその糖尿病診療への応用
(岩崎順博)
(科学研究費助成事業 若手研究)
- 21 妊娠時耐糖能異常症例に対する介入効果の研究
(博多恵美、増田有美、古河てまり、山内亜耶、中山法子)
- 22 糖尿病教育入院患者における糖尿病の身体的側面と治療行動的側面、心理社会的側面の関連
についての検討 (大家聡樹)
- 23 インスリン自己注射手技の適切な再教育による血糖コントロール改善の探索的調査 (日本ベ
クトンディッキンソン社と共同研究)
(越井由佳子、竹内麻衣、本庶祥子、境内大和、瀬野陽平、岩崎可南子、岩崎順博、
濱崎暁洋)
- 24 全科型糖尿病診療サポートチームの多面的効果に関する検討
(竹内麻衣)
- 25 自己血糖測定患者における測定機器の特性とその有用性の評価に関する研究
(中山法子)
- 26 副腎腫瘍の病理学的特性に関する検討
(岡村絵美、本庶祥子、濱崎暁洋)

- 27 耐糖能障害発現機序における Asprosin の意義の検討
(徳本信介、濱崎暁洋)
- 28 膵島機能・量を修飾する因子の多面的解析
(岡村絵美、本庶祥子、濱崎暁洋)
- 29 SGLT2 阻害薬の血糖値改善効果と内分泌修飾に関する検討
(和田良春)
- 30 インスリン分泌と感受性、インクレチン作用の定量的評価
(濱崎暁洋)
- 31 日常診療環境において持続的運用が可能なデータベースとその統合についての検討
(濱崎暁洋)
- 32 糖尿病患者の水痘ウイルス免疫に関する研究 (感染症科と共同研究)
(本庶幸子、阿部 恵、濱崎暁洋)
- 33 医療データを用いた内分泌代謝疾患の治療解析に関する研究 (京都大学と共同研究)
(濱崎暁洋)
- 34 医療データからの診療行為の時系列的再構築に関する研究 (京都大学と共同研究)
(濱崎暁洋)
- 35 グルカゴン分泌修飾におけるインクレチンの役割の解明
(濱崎暁洋)
- 36 腸内環境と内分泌・代謝修飾連関の解明に関する研究
(濱崎暁洋)
- 37 甲状腺中毒症を伴う新規 RASopathy の分子病態基盤の包括的解明
(境内大和)

腎臓内科系

1 厚生労働省科学研究費補助金事業・AMED 関連事業

1-1 厚生労働省科学研究費補助金 (難治性疾患政策研究事業) 「難治性血管炎に関する調査研究」 (研究協力者; 塚本達雄、遠藤知美、武曾恵理、猪原登志子)

- ・抗好中球細胞質抗体 (ANCA) 関連血管炎・急速進行性糸球体腎炎の寛解維持療法の現状とその有効性と安全性に関する観察研究 (Co-RemIT-JAV・RPGN)
- ・好中球細胞質抗体関連血管炎関連遺伝子に関する研究 (RemIT-JAV、RemIT-JAV-RPGN との連携)
- ・高安動脈炎と巨細胞性動脈炎の治療の現状とその有効性と安全性に関する観察研究
- ・大型血管炎 (高安動脈炎と巨細胞性動脈炎) の診断・治療の現状と有効性に関する前向き観察研究
- ・AAV における腎組織病変とサイトカインプロファイルの相関研究 (RemIT-JAV-RPGN 公募二次研究)
- ・血管炎病理診断コンサルテーション事業; 武曾恵理
- ・抗好中球細胞質抗体関連血管炎を対象とした国際共同臨床試験の調整事務局機能構築に関する研究
- ・本邦における抗好中球細胞質抗体関連血管炎に対するリツキシマブ療法の安全性と有効性に関するコホート研究 (RemIRIT)

1-2 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業) 「難治性腎障害に関する調査研究」ネフローゼ症候群ワーキンググループ (研究協力者; 塚本達雄)

- ・日本ネフローゼ症候群コホート研究 (JNSCS) および延長研究 (JNSCS-Ex)
- ・日本膜性増殖性糸球体腎炎/C3 腎症コホート研究
- ・成人期発症の難治性のネフローゼ症候群 (頻回再発型あるいはステロイド依存性) 患者に対す

- ・ IDEC-C2B8 の有効性及び安全性を確認する臨床第 III 相試験
- ・ 指定難病臨床個人調査票のデータベース活用に関する研究
- 1-3 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業「難治性腎疾患に関する調査研究」急速進行性糸球体腎炎ワーキンググループ、厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業「難治性疾患政策研究事業」
 - (研究協力者；塚本達雄、武曾恵理)
- ・ ANCA 関連血管炎・RPGN の寛解導入の現状とその有効性と安全性に関する観察研究 (RemIT-JAV-RPGN 公募二次研究)
- 1-4 日本医療研究開発機構 (AMED) 研究 (研究協力者；塚本達雄、遠藤知美)
 - ・ 日本ネフローゼ症候群バイオマーカー研究 (J-MARINE)
- 2 共同研究・受託研究
 - ・ わが国の腎臓病疾患における腎生検データベース構築ならびに腎臓病総合データベース構築に関する研究 (J-RBR、J-CKD-DB)
 - (武曾恵理、遠藤知美、垣田浩子、塚本達雄)
 - ・ 成人ループス腎炎の予後に関する観察研究 (J-RBR 公募二次研究)
 - (遠藤知美、武曾恵理、垣田浩子、塚本達雄、リウマチ膠原病内科；藤田昌昭、井村嘉孝)
 - ・ 腹膜透析の患者予後と治療方法についての調査, 2017-2020 (DOPPS2)
 - (塚本達雄)
 - ・ ヨーロッパと本邦における IgA 腎症の臨床的特徴の比較調査研究
 - (塚本達雄、遠藤知美)
 - ・ 抗原特異的測定法による ANCA 検査の評価：小型血管炎における ANCA 検査の 2017 年国際合意の改訂を検証するための多施設共同前向き研究
 - (塚本達雄、遠藤知美)
 - ・ 嚢胞性腎疾患における遺伝的背景と臨床所見および病理所見の関係
 - (塚本達雄)
 - ・ ミトコンドリア病関連腎疾患の全国調査
 - (塚本達雄)
 - ・ 透析患者における $\alpha 1$ -microglobulin 除去率が生存・合併症予後に与える影響の検討
 - (塚本達雄)
 - ・ PD 患者指導における日本の実態調査
 - (塚本達雄)
 - ・ 日本腎生検レジストリーを利用したわが国における巣状分節性糸球体硬化症の variant の予後についての二次調査
 - (塚本達雄、遠藤知美)
 - ・ Low-Density Lipoprotein (LDL) アフェレシス療法の重度尿蛋白を伴う糖尿病性腎症に対する多施設臨床試験 (LICENSE 研究)
 - (塚本達雄、遠藤知美、垣田浩子、武曾恵理)
 - ・ 京都大学医学部附属病院腎臓内科関連病院腎疾患データベース構築に関する観察研究
 - (塚本達雄、武曾恵理)
 - ・ 日本アフェレシスレジストリ
 - (塚本達雄)
 - ・ 「HTLV-1 陽性臓器移植レジストリ」を活用した臓器移植における HTLV-1 感染のリスクの解明に関する研究【RADDAR-J[0-3]】
 - (塚本達雄)
 - ・ 経皮的腎生検における予防抗菌薬投与についてのランダム化比較試験
 - (塚本達雄、遠藤知美、垣田浩子)

- ・腎臓病・透析患者における COVID-19 対策の全国調査 および易感染性・重症化因子の後方視的解析
(塚本達雄)
 - ・電子カルテデータを用いた、がん薬物療法と腎障害に関する診療実態調査と関連因子および予後に関する研究
(塚本達雄)
- 3 企業治験（責任医師、分担医師）
- ・糖尿病性腎臓病（DKD）と臨床診断された 2 型糖尿病患者における腎疾患の進行に関して、標準治療に上乗せした finerenone の有効性及び安全性を検討する多施設共同、無作為化、プラセボ対照、二重盲検、並行群間、イベント主導型試験（バイエル薬品株式会社）
(塚本達雄、垣田浩子、遠藤知美、武曾恵理)
 - ・ループス腎炎患者を対象として Voclosporin（23.7mg 1 日 2 回）の長期安全性及び有効性をプラセボと比較する、無作為化、比較対照二重盲検継続試験（Aurinia Pharmaceuticals Inc.（治験国内管理人）シミック株式会社）
(塚本達雄、リウマチ：井村嘉孝、藤田昌昭、中島俊樹)
 - ・アルポート症候群患者を対象としたバルドキシロンメチルの有効性及び安全性を検討する第 2/3 相試験（株式会社 Integrated Development Associates）
(塚本達雄、垣田浩子、遠藤知美)
 - ・慢性腎臓病患者における腎アウトカム及び心血管死に対するダンパグリフロジンの効果を検討する試験（アストラゼネカ株式会社）
(塚本達雄、垣田浩子、遠藤知美、糖尿病：濱崎暁洋、本庶祥子、岩崎順博、吉治智志、池田弘毅、岩崎可南子)
 - ・糖尿病性腎臓病患者を対象としたプラセボ対照ランダム化二重盲検比較試験（協和発酵キリン株式会社）
(塚本達雄、垣田浩子、遠藤知美)
 - ・慢性腎臓病患者を対象としたバルドキシロンメチルの長期的な安全性を評価する継続試験協和発酵キリン株式会社）
(塚本達雄、垣田浩子、遠藤知美)
 - ・原発性 IgA 腎症患者を対象とした、LNP023 の有効性及び安全性を検討する、アダプティブ・シームレス、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照、用量設定試験（ノバルティスファーマ株式会社）
(塚本達雄、垣田浩子、遠藤知美)
- 4 臨床研究
- ・ANCA 関連血管炎患者の腎生検病理所見における、長期腎予後予測に有用なパラメーター検索と評価法の検討
(遠藤知美)
 - ・透析用カテーテルの機能不全およびカテーテル関連感染症に関する研究
(塚本達雄)
 - ・慢性維持透析患者におけるがん診療に関する多施設共同観察研究
(塚本達雄)
 - ・血液透析患者への定期的静注鉄補充によるヘモグロビン・サイクリングとエリスロポイエチン反応性に関する研究
(塚本達雄)
 - ・横紋筋融解症の発症に関連するバイオマーカーの探索研究
(塚本達雄、林 綾乃)
 - ・腎臓疾患および体液制御の異常に関わる危険遺伝子および遺伝子変異の同定
(塚本達雄、遠藤知美)

- ・慢性腎臓病地域連携診療におけるアウトカム分析
(塚本達雄)
- ・HDL 機能と腎疾患との関連についての観察研究
(塚本達雄、武曾恵理)
- ・「LDL-A による難治性ネフローゼ症候群寛解誘導の免疫学的機序の解明」
(垣田浩子、武曾恵理)
- ・IgA 腎症の EPA+Aspirin 療法の有効性
(遠藤知美、垣田浩子、塚本達雄)
- ・IgA 腎症におけるメサンギウム C4 沈着意義の検討
(鳥越和雄、武曾恵理、遠藤知美、垣田浩子、塚本達雄)
- ・SGLT2 阻害薬の腎機能の低下した DM 腎症に対する有効性と安全性
(塚本達雄)
- ・VINCENT で測定した多発性嚢胞腎体積の推移・トルバプタン効果・腎不全進行の検証
(林 綾乃)
- ・高齢発症 ANCA 関連血管炎患者の寛解導入における免疫抑制剤併用の有効性と安全性
(塚本達雄)
- ・京都大学医学部附属病院腎臓内科関連病院腎疾患データベース構築に関する観察研究
(塚本達雄)
- ・末期腎不全期の多発性嚢胞腎に対するコイル塞栓療法と長期予後に関する研究
(塚本達雄)
- ・末梢動脈疾患に対する血管再生治療に関する研究
(塚本達雄)
- ・CKD 患者における HDL 機能と腎疾患との関連についての観察研究
(武曾恵理)

栄養部系

- 1 非結核性抗酸菌症の重症化予防を目的とした栄養介入実施と新たな栄養支持療法の提案
(高山祐美、永井成美、北島尚昌、福井基成)
- 2 胃癌周術期の栄養療法に関する検討
(黒川典子、巽 絢子、名倉成美)
- 3 SCU における経腸栄養プロトコル導入後の効果
(京面ももこ)
- 4 ICU-AW が自宅退院時の食事摂取に及ぼす影響
(京面ももこ)
- 5 腸管切除部位が腸内細菌叢および栄養代謝に及ぼす影響
(京面ももこ)
- 6 膵全摘術後患者における周術期および術後の栄養管理介入の有用性
(巽 絢子)
- 7 消化器系癌に対する栄養管理介入の有用性
(巽 絢子)

第 4 研究部 (免疫、アレルギー、感染、病理研究部)
 部長 井村 嘉孝 (リウマチ膠原病内科)
 研究主幹 吉川 義顕 (皮膚科)
 弓場 吉哲 (病理診断科)

本庄 原 (病理診断科)
羽田 敦子 (小児科・感染症科)

リウマチ・膠原病内科系

- 1 インテグリン制御による新規抗リウマチ薬・抗炎症薬の開発
(藤田昌昭)
- 2 生物学的製剤使用関節リウマチ患者の長期安全性研究 (SECURE 研究)
--- 多施設共同研究 (井村嘉孝)
- 3 抗アミノアシル tRNA 合成酵素抗体測定のための OJ 抗原精製と測定系の確立
(井村嘉孝)
- 4 抗 MDA5 陽性間質性肺炎合併皮膚筋炎に対する 3 剤併用療法プロトコルの有用性と安全性の
検討 --- 多施設共同研究 (井村嘉孝)
- 5 広域抗菌薬使用による腸内細菌叢への影響の検討
(辻本孝平)
- 6 単量体 CRP の検出及び単量体 CRP 制御による新規抗炎症剤の開発
(藤田昌昭)
- 7 全身性エリテマトーデスにおける SOCS1 の役割の解明と治療への応用
(高橋令子)
- 8 ラパマイシンによる全身性エリテマトーデスの病態制御のメカニズムの解明
(高橋令子)
- 9 病気再燃防止を目的とした全身性エリテマトーデス患者の臨床像に関する観察研究
(高橋令子)
- 10 関節リウマチを対象とした日常診療下におけるサリルマブの前向き観察研究 (PROFILE-J) --
- 多施設共同研究 (井村嘉孝)
- 11 メトトレキサート (MTX) 関連リンパ増殖性疾患の病態解明のための多施設共同研究--- 多施
設共同研究 (井村嘉孝)
- 12 メトトレキサート (MTX) 関連リンパ増殖性疾患発症予測因子の同定--- 多施設共同研究
(井村嘉孝)

皮膚科系

- 1 乾癬および掌蹠膿疱症における生物学的製剤使用を基盤とした集学的治療の有用性評価と最適
化に関する研究
(吉川義顕、一ノ名晶美、山上優奈、足立英理子、古賀玲子、石橋茉実)
- 2 円形脱毛症における標準的治療の最適な介入時期とアウトカムに関する研究
(吉川義顕、一ノ名晶美、山上優奈、足立英理子、石橋茉実)
- 3 蕁麻疹の標準的治療と臨床的効果に関する研究
(吉川義顕、一ノ名晶美、山上優奈、足立英理子、古賀玲子、石橋茉実)
- 4 アトピー性皮膚炎における標準的治療の有効性の臨床的評価方法に関する研究
(吉川義顕、一ノ名晶美、山上優奈、足立英理子、古賀玲子、石橋茉実)

病理診断科系

- 1 臍液細胞診の精度向上のための検討
(仲村佳世子、萩原葉子、弓場吉哲)
- 2 悪性中皮腫診断のための酵素抗体法パネルの検討
(弓場吉哲)
- 3 EUS-FNA における細胞診と組織診との整合性について
(弓場吉哲)

- 4 婦人科細胞診における LBC と従来法の比較検討
(西岡千恵子、仲村佳世子、弓場吉哲)

感染症科系

- 1 ワクチンによる糖尿病患者における水痘帯状疱疹ウイルス特異的免疫反応の検討
(文部科学省科学研究費補助金事業)
(羽田敦子、糖尿病内分泌内科 濱崎暁洋、本庶祥子、河崎祐貴子、瀬野陽平)
- 2 当院の ESBL 臨床分離株の検討～当院における 2004 年と 2017 年の ESBL 産生大腸菌の比較
(中塚由香利、宇野将一、小林賢治、羽田敦子)
- 3 水痘抗原皮内テストと IFN- γ アッセイの水痘帯状疱疹ウイルス特異的免疫反応の相関分析
(羽田敦子、榊原敦子、渡邊 武、小林由佳、兵庫医科大学奥野壽臣、姫路獨協大学片山俊郎)
- 4 糖尿病等の免疫低下時における帯状疱疹予防のための水痘ウイルス特異的免疫反応の検討
(羽田敦子、渡邊 武、小林由佳、榊原敦子、濱崎暁洋、浜本芳之、本庶祥子、河崎祐貴子、兵庫医科大学 奥野壽臣、姫路獨協大学 片山俊郎)
- 5 メロペネム、タゾバクタム/ピペラシリン、セフトリアキソンの排便回数に対する影響
(辻本考平、片山俊郎、羽田敦子)
- 6 妊婦 GBS スクリーニング法改変による新生児侵襲性 GBS 感染症への影響 (全国調査)
(羽田敦子、辻本考平、中塚由香利、水本 洋、加藤健太郎、秦 大資)
- 7 広域抗菌薬使用による腸内細菌叢への影響の検討
(辻本考平、大橋倫子、羽田敦子) (平成 29 年度第 2 回きたの研究奨励金研究)
- 8 質量分析装置にて同定可能となった *Exophiala dermatitidis* の 1 症例
(中塚由香利、宇野将一、小林賢治、羽田敦子)
- 9 専任体制による Antimicrobial Stewardship Team 活動が広域抗菌薬の使用量および緑膿菌の耐性率に及ぼす影響の評価
(小林和博、上田 覚、高橋 有、羽田敦子、尾上雅英)
- 10 AST の年間活動か臨床医の抗菌薬選択に及ぼす影響評価の一考案
(上田 覚、高橋 有、小林和博、羽田敦子、尾上雅英)
- 11 メソトレキセート内服を契機に発症したリステリア髄膜炎による脳神経障害の検討
(内原嘉仁、山本昌義、藤田昌昭、羽田敦子)
- 12 帯状疱疹発症予防に必要な免疫能の検討
(羽田敦子)

検査部系

- 1 全自動化学発光免疫測定装置「アボット社 Alinity i システム」の基礎検討
(垣内真子、大滝敦美、松井美甫香、伊東知沙紀、前田記代子、田畑宏道)
- 2 当検査部における、全自動化学発光免疫測定装置「アボット社 Alinity i システム」の導入有用性の検討
(前田記代子、垣内真子、大滝敦美、松井美甫香、土肥慎哉、田畑宏道)
- 3 血清プレセプシン測定の有用性について
(前田記代子、垣内真子、田畑宏道、辻本考平、羽田敦子)
- 4 質量分析装置導入による細菌検査の迅速化の検討
(宇野将一、中塚由香利、南 奈月、小林賢治、羽田敦子、田畑宏道)
- 5 細菌検査システムの構築と運用
(宇野将一、中塚由香利、南 奈月、小林賢治、田畑宏道)
- 6 微生物検査室からの情報発信の有用性
(宇野将一、中塚由香利、南 奈月、小林賢治、田畑宏道)
- 7 臨床分離株における基質特異性拡張型 β ラクタマーゼ (ESBL) 産生大腸菌の MIC 分布に関する研究
(中塚由香利、宇野将一、南 奈月、小林賢治、田畑宏道)
- 8 Loopamp Aspergillus F Ditection Kit の基礎性能評価

(中塚由香利、宇野将一、南 奈月、小林賢治、田畑宏道)

第 5 研究部 (精神、神経、感覚、運動器障害研究部)

部長	松本 禎之	(神経 C 脳神経内科)
研究主幹	田辺 晶代	(眼科)
	宮原 晋介	(眼科)
	高木 賢一	(神経精神科)
	麻田 義之	(整形外科)
	田村 治郎	(整形外科)
	太田 雅人	(整形外科)
	前谷 俊樹	(耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
	金丸 眞一	(耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
	鈴木 義久	(形成外科)
	戸田 弘紀	(神経 C 脳神経外科)

脳神経内科系

- 1 パーキンソン病患者における L-ドパ/DCI 配合剤治療へのセレギリンあるいはゾニサミドの上乗せ効果に関する無作為化比較第 2 相試験—多施設共同研究
(榊 勇人、齋木英資、松本禎之、伊東秀文 (和歌山県立医科大学)、高橋牧郎 (大阪赤十字病院)、竹島多賀夫 (富永病院)、金子 鋭 (関西医科大学)、尾崎彰彦 (済生会中津病院)、濱野利明 (関西電力病院)、末長敏彦 (天理よろづ相談所病院)、西中和人 (住友病院)、河野隆一 (大阪府済生会野江病院)、梶本賀義 (和歌山ろうさい病院)、山下博史 (和歌山医療センター)、井上 学 (大阪市立総合医療センター)
- 2 パーキンソン病に対する脳深部刺激療法が認知機能、精神状態へ与える影響 (視床下核に対する脳深部刺激療法における導線と刺激電極の位置及び刺激の強度と、術後の認知機能の変化との関係を調べる研究 (齋木英資)
- 3 パーキンソン病と脳梗塞における頸動脈超音波検査による頸部迷走神経萎縮に関する研究 (齋木英資、松本禎之、里井 斉、榊 勇人、中川朋一、小松研一、山本真義、阿部宗一郎、平藤哲也、菊谷明広、新美 完、今中祥平)
- 4 パーキンソン症状を呈する入院患者の臨床像に関する検討 (齋木英資、松本禎之、里井 斉、榊 勇人、中川朋一、小松研一、山本真義、阿部宗一郎、平藤哲也、菊谷明広、新美 完、今中祥平)
- 5 パーキンソン病患者におけるイストラデフィリンのジスキネジア発現に対する臨床研究 (介入研究) (齋木英資、松本禎之、里井 斉、榊 勇人、中川朋一、小松研一)
- 6 脊髄梗塞の症候学 (小松研一)
- 7 神経内科診療における精神科連携の意義の検討 (小松研一)
- 8 二次性水頭症をきたした脳腫瘍の診断アプローチの検討 (小松研一)
- 9 神経内科訪問診療における病診連携の検討 (榊 勇人、松本禎之)
- 10 新規抗てんかん薬のてんかん重積への有用性の検討 (中川朋一)

眼科系

- 1 線維柱帯眼内法の術後成績

- (田辺晶代 山川百季子 宮原晋介)
- 2 眼内レンズ嚢内縫着術の手術成績の検討
(宮原晋介 田辺晶代 吉田裕一)

神経精神科系

- 1 精神医学の古典的文献の翻訳
(山岸 洋)
- 2 深部脳刺激療法による認知機能に対する影響についての研究
(深尾真由子、波多腰桃子、上田敬太、村井俊哉、山岸 洋)
- 3 精神科患者にみられる妄想の統計的解析についての研究
(水田弘人、三木寛隆、深尾真由子、仲山彰俊、山岸 洋)
- 4 統合失調症の精神病理学的研究
(喜綿永充、深尾真由子、仲山彰俊、山岸 洋)
- 5 生物心理社会モデル **biopsychosocial model** についての批判的方法論的検討
(山岸 洋、深尾真由子、仲山彰俊、村井俊哉)
- 6 統合失調症の脳構造画像 (MRI) に関する研究
(藤本心祐、村井俊哉)
- 7 総合病院精神科に受診するうつ病患者に対する精神療法
(坪倉 誠、山岸 洋)
- 8 摂食障害患者の家族療法についての研究
(岩崎明日香、山岸 洋)
- 9 緩和ケアにおける精神療法についての研究
(波多腰桃子、山岸 洋)
- 10 精神科リエゾンコンサルテーションにおける統計学的研究
(波多腰桃子、岩崎明日香、坪倉 誠、丸山千佳、山岸 洋)
- 11 非定型精神病の臨床病像の変遷についての研究
(山岸 洋、須賀英道)
- 12 精神医学と分析的哲学の境界領域に関する理論的研究
(山岸 洋、深尾憲二郎、村井俊哉、植野仙経)

整形外科系

- 1 **Surgical navigation system** を応用した頸椎手術の臨床評価
(太田雅人)
- 2 骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折に対する椎体再建術の臨床研究
(太田雅人)
- 3 クロスリンクポリエチレンと 26 ミリ径コバルトクロム人工股関節骨頭との組み合わせによるソケット磨耗の経時的臨床的測定評価
(田村治郎)
- 4 高強度チタン合金ダブルテーパーステム (**HS-3 Taper**) を用いた人工股関節の開発、中長期臨床成績の分析 (大腿骨皮質へのストレス分散に関する検討)
(田村治郎)
- 5 非吸収性のハイドロキシアパタイト (ボーンセラム) を用いた生体活性骨セメント手技による人工股関節ソケット固定の短期レントゲン所見、および臨床成績の分析
(田村治郎)
- 6 超長期耐用を目指した新しい生体活性骨セメント手技の開発研究 (生体界面における人工骨顆粒の分散および適切な顆粒径の分析)
(田村治郎)

- 7 ハイドロキシアパタイト顆粒を用いた大腿骨頭壊死に対する小侵襲の骨頭温存手術の開発、臨床成績の分析 (田村治郎)
- 8 セメント固定による人工股関節再置換におけるロングステム、サポートプレートおよび人工骨、同種骨の併用使用症例の臨床成績の分析 (田村治郎)
- 9 新しい後十字靭帯切除型人工膝関節置換術 (BS 5) の従来型 (KU4) との比較検討 (田村治郎 佐治隆彦)
- 10 後十字靭帯切除型人工膝関節置換術 (KU4, BS 5) の後方拘束性人工膝関節 (Posterior stabilizer type) との臨床的比較検討 (田村治郎 佐治隆彦)
- 11 人工股関節手術、人工膝関節手術の術後骨折のリスクファクターおよび術後臨床成績分析 (田村治郎)
- 12 絞扼性神経障害における手術前後の電気生理学的検討 (麻田義之、平雄一郎)

耳鼻咽喉科・頭頸部外科系

- 1 頭頸部進行癌に対する超選択的動注による化学療法確立 (前谷俊樹、金丸眞一、吉田季来、北田有史)
- 2 乳突蜂巣再生による難治性中耳炎に対する再生医療の開発 (金丸眞一、金井理絵、前谷俊樹、吉田季来、北田有史)
- 3 組織工学的手法による外耳道軟部組織の再生医療 (金丸眞一、金井理絵、吉田季来、北田有史、前谷俊樹)
- 4 鼓膜組織幹細胞の同定と鼓膜再生医療の開発 (金丸眞一、金井理絵、前谷俊樹、吉田季来、北田有史)
- 5 突発性難聴に対する i-TASS (intra-Tympanic administration of Steroid Sponge) 療法の開発 (金丸眞一、金井理絵、坂本達則、前谷俊樹、西田明子、吉田季来、北田有史)
- 6 人工神経管と単核球移植による末梢神経の機能的再生 (金丸眞一、金井理絵、坂本達則、山本季来、北田有史、前谷俊樹)
- 7 グローバル、スタンダードを目指した bFGF による鼓膜再生療法の開発 (金丸眞一、金井理絵)
- 8 高濃度ステロイド浸潤ゼラチンスポンジ正円窓留置による内耳性難聴への新治療の開発 (金丸眞一、金井理絵)
- 9 鼓膜組織幹細胞の同定と動態の解明 (金井理絵)
- 10 末梢性顔面神経麻痺に対する高濃度ステロイド鼓室内投与療法の開発 (金丸眞一、金井理絵、三輪 徹)
- 11 ヒト遺伝性内耳疾患に対する遺伝子治療確立を見据えた基礎研究 (三輪 徹)
- 12 ミトコンドリア機能異常による加齢性難聴の原因解明 (三輪 徹)
- 13 めまいと自律神経系の関係性についての研究 (三輪 徹)
- 14 認知症発症のリスクファクターである難聴への治療介入がもたらす発症遅延/予防効果の研究 (金丸眞一、金井理絵、三輪 徹)

形成外科系

- 1 中枢末梢神経軸索再生における癒痕の抑制 平成 30 年度 基盤研究 (C) (一般) (石川奈美子、鈴木義久)

- 2 人工リンパ節からのリンパ管新生についての検討 脂肪由来間質細胞付加の効果について
平成 30 年度 若手研究 (武田孝輔)
- 3 ヒト幹細胞臨床研究骨髄由来単核球細胞を用いた脊髄損傷
(ASIA 機能障害尺度 A,B) に対する第 II 相試験
(鈴木義久)
- 4 アルギン酸を使用した再生医療技術のための新規 scaffold の開発
(鈴木義久、石川奈美子、平井達也)
- 5 磁場による神経血管再生
(石川奈美子)
- 6 四肢リンパ浮腫患者のリンパ管の再生
(石川奈美子)

脳神経外科系

- 1 膜動静脈瘻に対する Onxy 液体塞栓システムを用いた経動脈塞栓術に関する多施設
共同登録研究 (後藤正憲)
- 2 未破裂脳動脈瘤の増大・破裂を促進する因子同定のための臨床研究
(岩崎孝一、後藤正憲)
- 3 無症候性頸動脈狭窄症の虚血発症リスク層別化に関する観察研究 (SmartK study)
(後藤正憲、岩崎孝一)
- 4 レセプト等情報を用いた脳卒中、脳神経外科医療疫学調査
(岩崎孝一、後藤正憲、戸田弘紀、石橋良太)
- 5 担癌患者の急性虚血性脳卒中に対し行った血栓回収療法 -臨床的特徴と予後-
(岩崎孝一、後藤正憲、箸方宏州、藤川喜貴、林 英樹)
- 6 脊椎疾患の自己記入式アンケートによる治療効果の判定
(林 英樹)
- 7 顔面痙攣症に対する微小血管減圧術後の味覚障害
(戸田弘紀、林 英樹、西田南海子、石橋良太、箸方宏州、吉本修也、藤川喜貴)
- 8 脊髄髄内腫瘍の治療成績と予後改善因子の解明
(戸田弘紀、林 英樹 研究代表者 東北大学大学院 遠藤俊毅)

第 6 研究部 (発生、再生、発達障害研究部)

部長	秦 大資	(小児科)
研究主幹	佐藤 正人	(小児外科)
	諸富 嘉樹	(小児外科)
	塩田 光隆	(小児科)
	水本 洋	(小児科)

小児科系

- 1 小児ネフローゼ症候群に対する初期治療確立を目指した多施設共同臨床研究と拡大臨
床試験体制整備 (文部科学省科学研究費補助金事業)
(主任研究者 吉川徳茂、分担研究者 秦 大資 (羽田敦子、秦 大資))
- 2 免疫グロブリン療法不応の川崎病に対するステロイド療法の併用に関する検討
(吉岡孝和、阿部純也、明石良子、熊倉 啓、水本 洋、塩田光隆、羽田敦子、渡辺 健、
秦 大資)
- 3 乳児一過性高フェリチン血症に関する診断と治療の検討について
(塩田光隆)

- 4 Aicardi-Goutières 症候群の遺伝子解析
(阿部純也)
- 5 TREX1 遺伝子変異を中心としたインターフェロン関連疾患の病態解析
(阿部純也)
- 6 「水痘ワクチン追加接種後追跡調査」
(羽田敦子、明石良子、(リウマチ膠原病内科 辻本考平、総合内科 松村拓朗、呼吸器内科 丸毛 聡、秦 大資)
- 7 グロブリン製剤の濃度の違いによる川崎病治療効果の差異の検討
(吉岡孝和)
- 8 Joubert 症候群の臨床像の検討
(熊倉 啓、佐々木宏太、武藤亜希)
- 9 周期性嘔吐症に対する lamotrigine の効果の検討
(熊倉 啓、佐々木宏太)
- 10 乳児虐待における頭部 MRI 画像の検討
(熊倉 啓、石嶺里枝、秋田充代)
- 11 新生児蘇生における心電図使用が、蘇生者の行動に及ぼす影響に関する検討
(水本 洋)
- 12 アロマセラピーが脳性麻痺児の睡眠に及ぼす効果に関する検討
(水本 洋)
- 13 特発性低身長におけるメチル化解析を含めた GH-IGF1 系関連蛋白遺伝子解析
(山下純英)
- 14 GATA 3 遺伝子変異と HDR 症候群の臨床像の検討
(山下純英)
- 15 低 ALP 血症を合併した頭蓋鎖骨異形成症における RUNX2 および ALPL 遺伝子解析
(山下純英)
- 16 1 歳未満のインフルエンザ患者に対するラピアクタの投与
(羽田敦子、伊藤由依、片山俊郎、吉岡孝和、秦 大資)
- 17 小児インフルエンザウイルス感染症を対象としたバロキサビル・マルボキシルのペラミビルとの併用療法の検討
(加藤健太郎、羽田敦子、秦 大資)
- 18 新生児一過性高インスリン血症における血中 reverse T3 の検討
(阿水利沙、水本 洋)
- 19 新生児糖尿病における continuous glucose monitoring の有用性の検討
(岩田直也、阿水利沙、水本 洋)
- 20 先天性プロテイン C 欠損症と新生児虚血性大腸炎発症との関連に関する検討
(水本 洋)
- 21 新生児蘇生人形を使用した実習における加圧の検討
(前田貴美子、阿水利沙、水本 洋)
- 22 周期性嘔吐症に対する LTG の効果の検討
(坂部匡彦、熊倉 啓)
- 23 SCN2A 遺伝子異常症に伴うてんかんに対する LCM の有効性の検討
(佐藤結衣子、荒井 篤、吉田真衣、梶本智史、熊倉 啓)
- 24 急性壊死性脳症 (ANE) とけいれん重積型脳症 (AESD) を両方の臨床像を呈した症例の検討
(梶本智史、荒井 篤、佐藤結衣子、吉田真衣、熊倉 啓)
- 25 欠伸を伴う口周囲ミオクローヌスの症例の検討
(荒井 篤、佐藤結衣子、吉田真衣、梶本智史、熊倉 啓)
- 26 5-オキソプロリン尿症が疑われた症例の検討

- (吉田真衣、荒井 篤、佐藤結衣子、梶本智史、熊倉 啓)
- 27 Dravet 症候群に対する PER の有効性の検討
(荒井 篤、吉田真衣、熊倉 啓)
 - 28 乳児常染色体劣性多発性嚢胞腎の高血圧緊急症の対応
(荒井 篤、羽田敦子、渡辺 健、秦 大資)
 - 29 難治性単一症候性夜尿症 (NME) 治療中にラメルテオンを併用した効果の検討
(内原嘉仁、羽田敦子、山下純英、秦 大資)
 - 30 小児難治性単一症候性夜尿症 (NME) におけるビベグロン治療効果の検討
(内原嘉仁、羽田敦子、山下純英、秦 大資)
 - 31 TRPV6 遺伝子異常による新生児一過性副甲状腺機能亢進症に関する実績調査
(山下純英 秦 大資)
 - 32 川崎病患者におけるリンパ球サブセット解析
(阿久澤大智)
 - 33 水痘ワクチン追加接種後追跡調査
(羽田敦子、加藤健太郎、明石良子、辻本考平、丸毛 聡、秦 大資)
 - 34 コクサッキーB 群ウイルス感染の新生児における重症度に関する研究
(加藤健太郎、羽田敦子、水本 洋、秦 大資)
 - 35 POT 法を用いた NICU 内伝播の MRSA 分子疫学解析
(加藤健太郎、羽田敦子、水本 洋、秦 大資)
 - 36 妊婦 GBS スクリーニング法改変による新生児侵襲性 GBS 感染症への影響
(沼田 寛、羽田敦子、吉岡孝和、加藤健太郎、水本 洋、秦 大資)
 - 37 尿路感染症を発症した小児の水腎症・膀胱尿管逆流症の検討
(西尾尚紀、羽田敦子、吉岡孝和、水本 洋、秦 大資)
 - 38 鼻腔培養と呼吸器感染症との関連性の検討
(宮脇康輔、羽田敦子、秦 大資)
 - 39 HHV-6、HCMV 重複感染による小脳失調症の検討
(羽田敦子、秦 大資)
 - 40 小児における血液培養の現状と展望
(岩田直也、羽田敦子、秦 大資)
 - 41 ロタウイルス胃腸炎ワクチン接種後のロタウイルス胃腸炎症例の検討
(坂部匡彦、羽田敦子、秦 大資)
 - 42 糖原病 1 b に合併する好中球減少・炎症性腸疾患様症状に対する SGLT-2 阻害剤の使用
(水本 洋、荒井 篤、三上真充)

小児外科系

- 1 人工気胸下小児胸腔鏡手術における循環動態の研究
(佐藤正人、遠藤耕介、東尾篤史、諸富嘉樹)
- 2 重症心身障がい児に対する腹腔鏡下噴門形成術の定型化の試み
(佐藤正人、遠藤耕介、東尾篤史)
- 3 小児内視鏡外科教育システムの構築
(佐藤正人、遠藤耕介、東尾篤史、諸富嘉樹)
- 4 小児外科領域における単孔式腹腔鏡下手術の開発
(佐藤正人、遠藤耕介、東尾篤史、諸富嘉樹)
- 5 ASH (abdomino scrotal hydrocele) の成因についての研究
(諸富嘉樹、東尾篤史、遠藤耕介)
- 6 小児消化管異物症例の疫学的検討
(遠藤耕介、佐藤正人)

- 7 先天性胆道拡張症に対する腹腔鏡手術術式の開発
(佐藤正人、遠藤耕介、東尾篤史、諸富嘉樹)
- 8 膀胱尿管逆流症に対する低侵襲手術の開発
(諸富嘉樹、遠藤耕介、東尾篤史、佐藤正人)
- 9 ヒルシュスプルング病類似疾患における腸管神経細胞の分布についての検討
(佐藤正人、遠藤耕介、諸富嘉樹)
- 10 ヒルシュスプルング病診断におけるカルレチニンの応用
(佐藤正人、遠藤耕介)
- 11 先天性胆道閉鎖症の成因についての研究
(諸富嘉樹、遠藤耕介、東尾篤史)
- 12 先天性胆道閉鎖症初回手術時における線維化ならびに炎症性マーカーからの予後推定に関する研究 (東尾篤史、諸富嘉樹)
- 13 腹腔鏡下単径ヘルニア根治術 (LPEC) 術式の開発・普及
(諸富嘉樹、遠藤耕介、東尾篤史)
- 14 漏斗胸手術至適年齢の検討
(諸富嘉樹、遠藤耕介、東尾篤史)

第 7 研究部 (生体画像、医療機器学研究部)

部長 奥村 亮介 (放射線科)
研究主幹 高木 雄久 (放射線科)

放射線科系

- 1 拡散 MRI を用いた革新的な腫瘍診断技術の構築
(飯間麻美、片岡正子、富樫かおり (京都大学画像診断科) 奥村亮介 北野病院放射線科)
- 2 骨転移のある去勢抵抗性前立腺癌に対する塩化ラジウム内用療法の臨床的有用性に関する検討
(継続) (熱田智子、高木雄久)
- 3 進行食道癌患者に対する緩和的放射線科治療の QOL への影響のご検討 (継続)
(熱田智子、高木雄久)
- 4 III期非小細胞肺癌に対する同時胸部化学放射線療法および逐次的デュルバルマブ維持療法における至適照射範囲の検討 (熱田智子、高木雄久)
- 5 子宮頸癌術後再発に対する小線源組織内照射の適応 (強度変調放射線治療との比較) および至適線量の検討 (熱田智子、高木雄久)

脳神経外科系

- 1 深部脳電極埋込時における頭位の影響に関する検討
(西田南海子、戸田弘紀、斎木英資 他)
- 2 特発性正常圧水頭症における症状改善のための臨床研究—アルツハイマー病理が疑われる患者に対するシャントの有効性・安全性に関して—
(西田南海子、小松研一 研究代表者：森悦朗・宮嶋雅一・数井裕光 (日本正常圧水頭症学会))
- 3 特発性正常圧水頭症の髄液不均等分布及び脳白質障害と L-PGDS についての研究
(西田南海子、永田奈々恵 (東京大学農学部・農学生命科学研究科) 他)
- 4 低出生体重児の脳室内出血後水頭症に対する治療経過の検討
(西田南海子、水本 洋)
- 5 片側顔面痙攣症の神経基盤を探る研究
(西田南海子、戸田弘紀、岩崎孝一 他)

第 8 研究部 (予防、医療疫学、検査医学研究部)

部長	高森 行宏	(健診部)
研究主幹	木内 俊一郎	(救急部)
	藤川 潤	(検査部)
	高橋 克	(歯科口腔外科)

健診部系

- 1 ドック健診における高感度 CRP 検査と生活習慣との関連について
(高森行宏)
- 2 ドック健診における膵がんの発見の契機について
(高森行宏)
- 3 中高年女性における健康意識および生活習慣と健診データとの関連性
(高森行宏)
- 4 当院人間ドックにおける膀胱癌及びその他の膀胱病変の発見契機についての検討
(今田裕子)
- 5 特定健康診査質問票における行動変容ステージと生活習慣病や生活習慣との関連について
(遠藤真紀子)
- 6 日本の子宮頸がん死亡・罹患率の年次変動と将来予測：ベイズ型 Age-Period-Cohort (APC) 分析 (榊原敦子、片山俊郎、樋口壽宏)
- 7 日本人女性における喫煙割合と子宮頸がん死亡・罹患率の経年変化：Birth cohort analysis (榊原敦子、片山俊郎、樋口壽宏)
- 8 日本人女性における喫煙割合と子宮頸がん死亡・罹患率の経年変化：Joinpoint analysis (榊原敦子、片山俊郎、樋口壽宏)
- 9 出生コホートによる子宮頸がん罹患率とリスクファクターの関連：相関・回帰分析 (榊原敦子、片山俊郎、樋口壽宏)
- 10 子宮頸癌における年齢と予後の関連についての検討：多施設共同研究 (榊原敦子、片山俊郎、樋口壽宏)
- 11 北野病院医療情報を使用した HPV ワクチン接種状況の記述統計学的分析 (榊原敦子、片山俊郎、樋口壽宏)
- 12 北野病院産婦人科癌登録データを使用した若年子宮頸癌および CIN3 の時系列分析 (榊原敦子、片山俊郎、樋口壽宏)
- 13 日本における若年子宮頸がん予防対策の効果の推計 (榊原敦子、片山俊郎、樋口壽宏)
- 14 子宮頸がん症例に対する手術療法・放射線療法 (同時化学放射線療法)・化学療法の成績における年齢因子の影響の解析 (日本産科婦人科学会データ)
(榊原敦子、片山俊郎、樋口壽宏)

救急部系

- 1 集団災害時におけるヘリコプター救急医療ネットワークの構築
(木内俊一郎、新谷 裕)
- 2 携帯電話を用いた個人医療情報通知システムの構築
(木内俊一郎、新谷 裕)
- 3 熱中症からの急性循環不全における凝固線溶系への影響
(木内俊一郎、新谷 裕)

検査部系

- 1 急性腎障害マーカーとしての尿中 NGAL 測定の有用性について
(土肥慎哉、伊東知沙紀、松井美甫香、横森未来、大滝敦美、垣内真子、前田記代子)
- 2 血清中 ECO2 測定の臨床的意義について
(松井美甫香、土肥慎哉、伊東知沙紀、横森未来、見戸杏優、垣内真子、田畑宏道)
- 3 免疫血清部門における市販コントロール血清の効率的運用について
(大滝敦美、伊東知沙紀、横森未来、土肥慎哉、垣内真子、前田記代子)
- 4 シーメンス社製 全自動免疫生化学統合測定装置 Dimension EXL200 を用いた生化学特殊項目測定の有用性 (垣内真子、土肥慎哉、松井美甫香、大滝敦美、前田記代子、田畑宏道)
- 5 検査終了後廃棄血清を用いた日内精度管理用プール血清の有用性について
(土肥慎哉、伊東知沙紀、松井美甫香、大滝敦美、垣内真子、前田記代子)
- 6 全自動化学発光免疫測定装置「アボット社 Alinity i システム」の基礎検討
(垣内真子、大滝敦美、松井美甫香、伊東知沙紀、土肥慎哉、前田記代子)
- 7 当検査部における、全自動化学発光免疫測定装置「アボット社 Alinity i システム」の導入有用性の検討 (前田記代子、垣内真子、大滝敦美、松井美甫香、土肥慎哉、田畑宏道)
- 8 血清プレセプシン測定の有用性について
(前田記代子、垣内真子、田畑宏道、辻本考平、羽田敦子)
- 9 検体検査搬送システムでの TAT 短縮の工夫および結果照会画面への報告時間表示機能、院内導入の効果 (前田記代子、伊東知紗紀、大滝敦美、土肥慎哉、横森未来、垣内真子)
- 10 大規模災害時の検体検査室の役割に関する検討
(前田記代子、志賀千代美、小林賢治、上西徳治、田中順子、垣内真子、田畑宏道)
- 11 院外検査センターと当院検査システムとの効率的な接続 (院外検査データ情報取り込みの新たな仕組み) 導入後の検証 (前田記代子、田畑宏道、藤川 潤)
- 12 検査センター実施項目のリアルタイム TAT 表示とその有用性の検証、および問題点
(前田記代子、垣内真子、田畑宏道、藤川 潤)
- 13 NST (栄養サポートチーム) 活動における栄養評価項目の有用性の検討
(垣内真子、山崎みどり)
- 14 当院における術式別平均出血量の算出および SBOE にもとづいた手術血準備の構築 (T&S のあり方もふくめて) (大滝紘平、高橋明日香、宮内万知子)
- 15 オート輸血自動分析器・VISION による移植時抗体価測定の検討
(大滝紘平、志賀千代美、高橋明日香、宮内万知子)
- 16 輸血管理アプリケーション BTDX を用いたオーダーリングシステムとの輸血連携について
(大滝紘平、高橋明日香、宮内万知子)
- 17 幹細胞移植における輸血連携業務について (採取・保管管理、マーカー検査もふくめて)
(大滝紘平、高橋明日香、宮内万知子)
- 18 アルブミン製剤の製剤管理と適正輸血について
(大滝紘平、高橋明日香、飯田奈緒、宮内万知子)
- 19 輸血後鉄過剰症のマネジメントについて
(大滝紘平、高橋明日香、宮内万知子)
- 20 当院における自己血輸血の現状と評価
(大滝紘平、高橋明日香、宮内万知子)
- 21 産婦人科危機的出血シミュレーションによる輸血体制の構築
(大滝紘平、高橋明日香、宮内万知子)
- 22 Sysmex 社 XN-10 BF モードによる体液測定の実用化について
(大滝紘平、高橋明日香、浅田 薫、宮内万知子、志賀千代美、前田記代子)
- 23 CELLVISION 社 DM9600 の運用の評価
(大滝紘平、高橋明日香、浅田 薫、宮内万知子、志賀千代美、前田記代子)

- 24 BECKMANCOLTER 社 Navios EX におけるフローサイトメトリーの基礎的検討
(大滝絵平、高橋明日香、志賀千代美、前田記代子)
- 25 次期検体検査室の構築
(前田記代子、垣内真子、田畑宏道)
- 26 次期検体検査測定装置の検討
(前田記代子、土肥慎哉、垣内真子、田畑宏道)
- 27 運動負荷 PWV・ABI、皮膚灌流圧、下肢動脈エコーとの関連について
(伴 洋子、宮原佳子、井上美砂、河関恵理子、上妻玉恵、土井千賀子、生熊誠子、嶋田昌子、大西めぐみ、尾花綾乃、渡邊裕子、小田嶋康雄、中野尋文、秋田育美、森本 幸、吉田美由紀、山中美佳、船橋妹、平井絵理香、下川知春、山上真依、横山明希野、河北友紀、南奈月)
- 28 心電図による左室肥大診断の臨床的意義についての検討 (心エコーデータとの比較検討)
(伴 洋子、宮原佳子、井上美砂、河関恵理子、上妻玉恵、土井千賀子、生熊誠子、嶋田昌子、大西めぐみ、尾花綾乃、小田嶋康雄、渡邊裕子、中野尋文、秋田育美、森本 幸、吉田美由紀、山中美佳、船橋妹、平井絵里香、下川知春、山上真依、横山明希野、河北友紀、南奈月)
- 29 ASの進行する要因について心エコーでの検討
(上妻玉恵、土井千賀子、生熊誠子、大西めぐみ、尾花綾乃、森本 幸、小田嶋康雄、平井絵理香)
- 30 腹部エコーでの胆嚢壁肥厚と形態・血流評価の検討
(河関恵理子、上妻玉恵、土井千賀子、生熊誠子、森本 幸、大西めぐみ、秋田育美、下川知春、尾花綾乃)
- 31 側頭動脈炎と血管エコー所見についての検討
(河関恵理子、上妻玉恵、土井千賀子、生熊誠子、森本 幸、大西めぐみ、秋田育美、尾花綾乃、船橋 妹)
- 32 EVAR 後の Endoleak 評価 (エコーと CT での関連)
(上妻玉恵、土井千賀子、生熊誠子、河関恵理子、尾花綾乃、大西めぐみ、森本 幸)
- 33 シェントエコーの有用性についての検討
- シェント作成前の動脈評価や PTA 前評価など -
(上妻玉恵、生熊誠子、土井千賀子、河関恵理子、尾花綾乃、大西めぐみ)
- 34 2型糖尿病患者に対する膵癌発生についての前向き経過観察 (糖尿病内科・消化器内科共同研究)
(河関恵理子、上妻玉恵、土井千賀子、生熊誠子、森本 幸、大西めぐみ、秋田育美、下川知春、尾花綾乃)
- 35 脳波検査において、側頭葉てんかん症例における T1,T2 記録の有用性の検討
(嶋田昌子、渡邊裕子、井上美砂、中野尋文、山中美佳、宮原佳子)
- 36 神経伝導検査において、F 波出現率低下症例における正中神経刺激時の安静時と運動時での出現率の比較検討
(嶋田昌子、渡邊裕子、中野尋文、井上美砂)
- 37 PSG 検査において、REM 低換気症例検討
(嶋田昌子、渡邊裕子、宮原佳子、井上美砂)
- 38 検査情報システムの開発
(藤川 潤)
- 39 臨床研究のためのデータベースの構築
(藤川 潤)

歯科口腔外科系

- 1 歯数制御による歯の再生治療薬の開発
(高橋克)

- 2 口腔の増殖性病変における細胞分化に関する病理学的検討
(高橋克)
- 3 希少疾患先天性無菌症治療薬の開発研究
-Wnt シグナル&BMP シグナルに関連する難治性疾患治療への展開-
(高橋克)

第 9 研究部 (薬学、生理学研究部)

部長	足立 健彦	(麻酔科)
研究主幹	尾上 雅英	(薬剤部)
	宮崎 嘉也	(集中治療部)
	加藤 茂久	(麻酔科)
	黒寄 明子	(麻酔科)

麻酔科系

- 1 麻酔台帳 I T化を利用した周術期合併症の要因分析
(原 朋子)
- 2 糖尿病患者の術前コントロールと周術期合併症に関する後ろ向き研究
(佐々木由紀子、直井紀子)
- 3 新生児、乳児の鏡視下手術の麻酔管理
(黒寄明子)
- 4 小児前投薬における経口ミダゾラムシロップの有用性に関する研究
(黒寄明子)
- 5 敗血症患者管理におけるプレセプシン測定の有効性に関する検討
(宮崎嘉也)
- 6 高度低肺機能患者の胸腔鏡下手術における自発呼吸下麻酔の有用性および安全性に関する研究
(加藤茂久)
- 7 術後悪心嘔吐の予防目的で術中投与するドロペリドールの副作用である錐体外路症状に関する調査研究。特に若年者における状況
(加藤茂久)
- 8 血管内皮バリア機能制御における IFN β -1a シグナルと低酸素応答系のクロストーク (足立健彦・広田喜一 (関西医科大学 附属生命医学研究所 侵襲反応制御部門))

薬剤部系

- 1 抗がん剤の副作用発現に関連する因子の探索
(尾上雅英、中多陽子、三宅麻文、近藤 篤、柏井 琢)
- 2 電子カルテ機能を活用した医療安全システムの構築
(三井克己、伊藤俊和、石川弘子、尾上雅英)
- 3 新入職職員や薬学部実習生に対する教育システムの開発
(上田 覚、伊藤俊和、尾上雅英)
- 4 薬剤性副作用の指標となる患者側要因の探索
(河原宏之、尾上雅英)
- 5 AST活動が臨床医の管理抗菌薬選択に与える影響について
(上田 覚、高橋 有、小林和博、尾上雅英)
- 6 セフメタゾール注の投与回数別の有効性の比較検討
(上田 覚、伊藤俊和、尾上雅英)
- 7 老年期における薬物療法の実態調査

- (河原宏之、尾上雅英)
- 8 ジェネリック薬品導入前後の病院に与える経済的評価
(河原宏之、尾上雅英)
 - 9 高齢者の多剤服用の現状把握と多職種間での薬物療法の適正化について
(尾上雅英)
 - 10 irAE発現に影響を及ぼす併用薬の探索
(中多陽子、柏井 琢、尾上雅英)
 - 11 眼科手術後の予防的経口抗菌薬中止による術後感染症発生率の影響について
(高橋有、小林和博、尾上雅英)
 - 12 新生児期の薬物動態変動機構の解析（新生児における酢酸亜鉛製剤投与後の血清亜鉛及び血清銅の推移に関する個体間変動要因の解明）
(伊藤俊和、尾上雅英)

第10研究部 (看護学研究部)

部長 寺井 美峰子 (看護部)

- 1 当院における新型コロナウイルス感染症診療に従事した職員のアンケート調査
(亀澤恵)
- 2 救急外来における医療関連感染対策行動強化の取り組み
(永田万結)
- 3 当院における難治性がん疼痛治療～メサペインの使用を含めて～
(長谷川美里)

第11研究部 (医療情報管理・経営企画研究部)

部長 北岡 有喜 (客員)

- 1 個人向け健康医療福祉履歴情報管理サービス (Personal Health Records: PHR)
「ポケットカルテ」の機能拡張と、地域共通診察券との連動による情報自動収集システムの開発
(北岡有喜、小森由宗、松島大介)
- 2 医療機関における個人向け健康医療福祉履歴情報管理サービス (Personal Health Records: PHR)「ポケットカルテ」の利活用を支援するためのユーザインタフェースに関する研究
(小森由宗、松島大介、北岡有喜)
- 3 個人向け健康医療福祉履歴情報管理サービス (Personal Health Records: PHR)
「ポケットカルテ」を高齢者が簡易に利活用するためのユーザインタフェースに関する研究
(松島大介、小森由宗、北岡有喜)
- 4 「ヘルスケア家計簿」システムと個人向け健康医療福祉履歴情報管理サービス
(Personal Health Records: PHR)「ポケットカルテ」の連携における安心・安全な シングルサインオンに関する研究 (小森谷祥明、小森由宗、松島大介、北岡有喜)
- 5 地域共通診察券の発行に係る人的資源の継続的確保に関する研究
(横田健吾、滝川裕介、小川麻理、北岡有喜)
- 6 地域中核病院内における情報通信ネットワーク構築とその維持管理におけるリスク管理の洗い出し及び、障害発生前の潜在的リスク感知と予防的保守作業を行うための方法論に関する研究
(滝川裕介、北岡有喜)
- 7 地域医療連携基盤構築のための地域中核病院の支援とその対象人口に関する研究

- (横田健吾、滝川裕介、北岡有喜)
- 8 地域医療ネットワーク基盤を提供する NPO 法人の財務会計の健全化に関する研究
(小川麻理、北岡有喜)
 - 9 地域医療連携システムの構築・維持管理にかかる経費を持続的に獲得するための方法論に関する研究
(小森谷祥明、田中啓之、北岡有喜)
 - 10 競争的資金を用いて地域医療情報システムを構築する際の一般競争入札のあり方に関する研究
(小森谷祥明、田中啓之、北岡有喜)
 - 11 スペシャル医療クラークの導入効果 (診療報酬請求に関わる各種書類の作成率向上)
(滝川裕介、松島大介、北岡有喜)
 - 12 DPC データを用いた医療機関の経営分析とその結果を経営改善に活用するための方法論に関する研究 (北岡有喜、滝川裕介、松島大介)
 - 13 働き方改革を支援する医療分野の IoT : スマートグラスに関する研究
(北岡有喜、湊 拓巳、大岩秀行)
 - 14 スマートグラスによる体外循環技術の安全性向上に関する研究
(湊 拓巳、北岡有喜)
 - 15 働き方改革のツールとしてのスマートグラスの活用シナリオに関する研究
(湊 拓巳、北岡有喜)

第 1 2 研究部 (東西医学研究部)

部長 福井 基成 (呼吸器 C 呼吸器内科)
研究主幹 金尾 顕郎 (客員)

- 1 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) に対する鍼治療を用いた長期予後の検討 (L-CAT)
(鈴木雅雄、福井基成、北島尚昌、井上大生、白石 祐介、丸毛 聡)
- 2 早産児・低出生体重児の背景因子と神経運動発達との関連に関する研究
(本田憲胤、澤田優子)
- 3 心不全 Frailty の予後予測妥当性と心臓リハビリテーション効果に関する研究
(上坂建太、吉田 都、辻本実奈美)
- 4 心臓血管外科手術後のリハビリテーション進行に関連する因子の検討
(上坂建太、吉田 都、辻本実奈美)
- 5 ADL 維持向上等体制加算等導入が病院・患者に与える影響の検討
(松岡 森、山田 修、本田憲胤、大洞佳代子)
- 6 パーキンソン病患者における下肢機能とバランス能力の関係
(甲斐太陽、浦慎太郎)
- 7 心臓血管外科手術後のリハビリテーション進行に関連する因子の検討
(上坂建太、吉田 都、辻本実奈美)
- 8 非侵襲的陽圧換気併用による収縮能の保たれた心不全の運動耐容能改善に関する研究
(上坂建太、中根英策、猪子森明)
- 9 デイケアにおけるサーキットトレーニングの身体機能に及ぼす効果に観察研究
(本田憲胤、矢木崇善、渡辺健太)
- 10 慢性閉塞性肺疾患患者における睡眠効率と身体機能の関連の検討
(本田憲胤、富 謙伸、野村知里、北彩也香、大洞佳代子)
- 11 胸郭に対する振動・圧迫刺激が肺機能・運動機能に与える影響の検討
(本田憲胤、富 謙伸、野村知里、北彩也香、大洞佳代子)
- 12 ロボットスーツ HAL の導入効果に関する研究

(大洞佳代子、浦慎太郎、亀山千尋、本田憲胤)

- 13 パーキンソン病患者における二重課題負荷が方向転換動作時の移動軌跡に与える影響
(浦慎太郎、甲斐太陽)
- 14 ハイリスク新生児の発達支援
(澤田優子、本田憲胤、大洞佳代子、水本 洋)
- 15 心臓血管外科手術後のリハビリテーション進行に関連する因子の検討
(上坂建太、吉田 都、辻本実奈美、大洞佳代子)
- 16 心不全 Frailty の関連因子ならびに心臓リハビリテーション効果に関する研究
(上坂建太、吉田 都、辻本実奈美、大洞佳代子)

論 文

凡例

- ・アンダーライン--北野病院所属（... は他機関所属の共著者）
- ・ *----- corresponding author
- ・ #----- co-first author

消化器センター 消化器内科

(原著論文)

- 1 Kurita A*, Yazumi S Reply to Cemachovic *Endoscopy* 2020,52(5),416 (査読有り)

(症例報告)

- 1 Mori Y, Kurita A, * Yazumi S. Gastrointestinal: Schwannoma of the duodenum. *J Gastroenterol Hepatol*. 2020 Nov;35(11):1855. (査読有り)
- 2 Yamakawa K, Someya Y, Yazumi S*. Gastrointestinal: An atypical para-aortic mass mimicking lymph node metastasis diagnosed by endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration. *J Gastroenterol Hepatol*. 2020 Dec;35(12):2030. (査読有り)
- 3 Iimori K, Kurita A*, Yazumi S. Metastasis of Pancreatic Cancer to Cerebellum Resembles Meningitis. *Clin Gastroenterol Hepatol*. 2021 Aug;19(8):A23. (査読有り)
- 4 Iwano K, Kurita A*, Yazumi S. Endoscopic papillectomy using a duodenoscope in a patient with postsurgical altered anatomy of Billroth II reconstruction. *Dig Endosc*. 2020 Nov;32(7):e145-e146. (査読有り)
- 5 Mori Y, Kurita A*, Yazumi S. Underwater endoscopic papillectomy for residual tumor after endoscopic papillectomy: First report. *Dig Endosc*. 2020 Nov;32(7):e162-e163. (査読有り)
- 6 Iimori K, Kou T, Yazumi S*. Primary Intra-abdominal Synovial Sarcoma with Spontaneous Intraperitoneal Hemorrhaging. *Intern Med*. 2021 Apr 15;60(8):1317-1318. (査読有り)
- 7 Iimori K, Kou T, Yazumi S*. Orbital Metastasis of Esophageal Squamous Cell Carcinoma. *Intern Med*. 2021 May 1;60(9):1475-1476. (査読有り)
- 8 小林和博*、上ノ山和弥、伊藤俊和、三宅麻文、中川俊作、山内淳嗣、八隅秀二郎、尾上雅英 意地透析中の食道癌に対するフルオロウラシルとシスプラチン併用療法により高アンモニア血症を生じた症例 医療薬学 2020,46(10),600-605

消化器センター 消化器外科

(原著論文)

- 1 Yoh T, ..., Kawai T, ..., Soubrane O* Laparoscopic right hepatectomy using the caudal approach is superior to open right hepatectomy with anterior approach and liver hanging maneuver: a comparison of short-term outcomes. *Surg Endosc* 34(2):636-645, 2020. (査読有り)
- 2 Yamamoto G, Taura K*, ..., Terajima H, ..., Okuda Y, ..., Uemoto S. ALPlat criterion for the resection of hepatocellular carcinoma based on a predictive model of posthepatectomy liver failure. *Surgery* 167(2):410-416, 2020. (査読有り)
- 3 Okuno M, Hatano E*, ..., Terajima H, ..., Uemoto S. Conversion to complete resection with mFOLFOX6 with bevacizumab or cetuximab based on K-RAS status for unresectable colorectal liver metastasis (BECK study): Longterm results of survival. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 27:496-509, 2020. (査読有り)
- 4 Fujitani K, Tamura S*, ..., Ueda S,.... Five-year outcomes of a phase II study of adjuvant chemotherapy with S-1 plus docetaxel for stage III gastric cancer after curative D2 gastrectomy (OGSG1002). *Gastric Cancer* 23(3):520-530, 2020. (査読有り)

- 5 Ishihara M, ..., Ueda S, ..., Shiku H*. MAGE-A4, NY-ESO-1 and SAGE mRNA expression rates and co-expression relationships in solid tumors. *BMC Cancer* 20(1):606, 2020. (査読有り)
- 6 Cipriani F,... , Kawai T, ..., Hilal MA*. Pure laparoscopic versus open hemihepatectomy: a critical assessment and realistic expectations - a propensity score-based analysis of right and left hemihepatectomies from nine European tertiary referral centers. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 27(1):3-15, 2020. (査読有り)
- 7 Hobeika C,... , Kawai T, Impact of cirrhosis in patients undergoing laparoscopic liver resection in a nationwide multicenter survey. *Br J Surg* 107(3):268-277, 2020. (査読有り)
- 8 Brustia R, ..., Kawai T, ..., Scatton O. Preoperative risk score for prediction of long-term outcomes after hepatectomy for intrahepatic cholangiocarcinoma: Report of a collaborative, international-based, external validation study. *Eur J Surg Oncol* 46:560-571, 2020. (査読有り)
- 9 Ohtsuka T, ..., Kawabata Y, Uchida Y, ..., Nakamura M. A multicenter prospective registration study on laparoscopic pancreatectomy in Japan: report on the assessment of 1,429 patients. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 27:47-55,2020. (査読有り)
- 10 Hobeika C, ..., Kawai T, ..., Patrice D. Benchmark performance of laparoscopic left lateral sectionectomy and right hepatectomy in expert centers. *J Hepatol* 73(5):1100-1108, 2020. (査読有り)
- 11 Okuchi Y, ..., Habib SJ*. Wnt-modified materials mediate asymmetric stem cell division to direct human osteogenic tissue formation for bone repair. *Nature Materials* 20:108-118, 2021. (査読有り)
- 12 Kawasoe J, Uchida Y*, Miyauchi T, ..., Saga K, Watanabe T, Ueda S, Terajima H, Uemoto S. The lectin-like domain of thrombomodulin is a drug candidate for both prophylaxis and treatment of liver ischemia and reperfusion injury in mice. *Am J Transplant* 21(2):540-551, 2021. (査読有り)

(症例報告)

- 1 岡本共弘、内田洋一朗、伊藤聖顕、寺嶋宏明* 緻密な手術戦略により安全に摘出し得た超巨大脾血管腫の1例 手術 2020 74 巻 P243-249 (査読なし)
- 2 岡本共弘、上田修吾* Pseudoprogression 後に長期間ニボルマブ治療継続できた胃癌肝転移症例 日消誌 2021 118 巻 P549-554 (査読有り)

心臓センター 循環器内科

(原著論文)

- 1 Takeji Y, ..., Inoko M,..., Kimura T*; CREDO-Kyoto AMI Registry Wave-1 and the CREDO-Kyoto AMI Registry Wave-2 Investigators. Changes in demographics, clinical practices and long-term outcomes of patients with ST segment-elevation myocardial infarction who underwent coronary revascularisation in the past two decades: cohort study. *BMJ Open*. 2021 Mar 31;11(3):e043683. (査読有り)
- 2 Takeji Y, ..., Inoko M, ..., Kimura T*; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-2 and the CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-3 Investigators. Demographics, practice patterns and long-term outcomes of patients with non-ST-segment elevation acute coronary syndrome in the past two decades: the CREDO-Kyoto Cohort-2 and Cohort-3 *BMJ Open* 2021 22;11(2):e044329. (査読有り)
- 3 Akao M, ..., Okumura K*; J-ELD AF Investigators. Clinical outcomes according to dose reduction criteria of apixaban in Japanese elderly patients with atrial fibrillation: J-ELD AF Registry subanalysis. *Heart Vessels* doi: 10.1007/s00380-021-01777-3 2021. (査読有り)

- 4 Matsumura-Nakano Y, ..., Inoko M,..., Kimura T*; On behalf the CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-3 Investigators. Comparison of outcomes of percutaneous coronary intervention versus coronary artery bypass grafting among patients with three-vessel coronary artery disease in the new-generation drug-eluting stents era (From CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-3) *Am J Cardiol.*15;145:25-36,2021. (査読有り)
- 5 Nishimoto Y, ..., Inoko M, ..., Kimura T*. C-reactive protein at discharge and 1-year mortality in hospitalised patients with acute decompensated heart failure: an observational study *BMJ Open* 2020 29;10(12):e041068.(査読あり)
- 6 Natsuaki M, ..., Inoko M, ..., Kimura T*; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-3 Investigators. Application of the modified high bleeding risk criteria for Japanese patients in an all-comers registry of percutaneous coronary intervention- from the CREDO-Kyoto Registry Cohort-3 *Circ J*.doi: 10.1253/circj.CJ-20-0836,2020. (査読あり)
- 7 Nishiwaki S, Morita Y,... , Inoko M, Kimura T*; COMMAND VTE Registry Investigators. Impact of no, distal, and proximal deep vein thrombosis on clinical outcomes in patients with acute pulmonary embolism: From the COMMAND VTE registry 2020 *J Cardiol.* 77(4):395-403. (査読あり)
- 8 Song X, ..., Inoko M, ..., Kimura T*; CURRENT AS Registry Investigators. Long-term impact of diabetes mellitus on initially conservatively managed patients with severe aortic stenosis. *Circ J*. doi: 10.1253/circj.CJ-20-06812020.(査読あり)
- 9 Kato T, ..., Inoko M, ..., Tamaki N*. Association of coronary revascularisation after physician-referred non-invasive diagnostic imaging tests with outcomes in patients with suspected coronary artery disease: a post hoc subgroup analysis *BMJ Open* 2020 6;10(9):e035111.(査読あり)
- 10 Yamamoto K,... , Inoko M, ..., Kimura T*; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-3 Investigators. Effects of body weight on bleeding and ischemic events in patients undergoing percutaneous coronary intervention - from the CREDO-Kyoto Registry Cohort-2 *Circ J*. 2020 25;84(10):1734-1745. (査読あり)
- 11 Nakane E, Kato T*, ..., Kuriyama T, Kimura K, Nishiwaki S, Hamaguchi T, Morita Y, Yamaji Y, Haruna Y, Haruna T, Inoko M. Association of the induction of a self-care management system with 1-year outcomes in patients hospitalized for heart failure *J Cardiol.* 2020 77(1):48-56. (査読あり)
- 12 Nishiwaki S, Hayashi H*, Yamamoto Y, Nakane E, Hanyu M, Inoko M. Exacerbation of mitral regurgitation after tricuspid valve replacement for isolated tricuspid regurgitation. *Echocardiography* 2020 37(6):900-904.(査読あり)
- 13 Hayashi H, ..., Takeda K*. Influence of Atrial Fibrillation on Functional Tricuspid Regurgitation in Patients With HeartMate 3 *J Am Heart Assoc.* 2021 10(3):e018334. (査読あり)
- 14 Hayashi H, ..., Takayama H*. Influence of aneurysmal aortic root geometry on mechanical stress to the aortic valve leaflet. *Eur Heart J Cardiovasc Imaging* 2021 Feb 21;jeab006. doi: 10.1093/ehjci/jeab006. (査読あり)
- 15 Hayashi H, ..., Takeda K*. Consequences of functional mitral regurgitation and atrial fibrillation in patients with left ventricular assist devices *J Heart Lung Transplant.*39(12):1398-14072021.(査読あり)

心臓センター 不整脈科

(原著論文)

- 1 Nogami A, Haruna T,..., Ieda M. Reverse-Type Left Posterior Fascicular Ventricular Tachycardia: A New Electrocardiographic Entity *JACC clinical arrhythmia* S2405-500X(20)31217-2. doi: 10.1016/j.jacep.2021(査読あり)

- 2 Onishi N, ..., Haruna T, ..., Satoshi Shizuta; EAST-AF Investigators The association between late-phase early recurrence within the blanking period after atrial fibrillation catheter ablation and long-term recurrence: Insights from a largescale multicenter study *Europace in press* 2021(査読あり)

心臓センター 心臓血管外科

(原著論文)

- 1 Hakamada K, ..., Hanyu M, Effect of Multiple Prior Percutaneous Coronary Interventions on Outcomes After Coronary Artery Bypass Grafting. *Circ J*. 2020 Dec 19.
- 2 Nishiwaki S, ..., Hanyu M, Inoko M. Exacerbation of mitral regurgitation after tricuspid valve replacement for isolated tricuspid regurgitation. *Echocardiography*. 2020 Jun;37(6):900-904.
- 3 Miura S, ..., Hanyu M, ..., Ando K. Clinical impact of pathology-proven etiology of severely stenotic aortic valves on mid-term outcomes in patients undergoing surgical aortic valve replacement. *PLoS One*. 2020 Mar 10;15(3):e0229721.
- 4 Takeji Y, ..., Hanyu M, ..., Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort Investigators. Diabetes Mellitus and Long-Term Risk for Heart Failure After Coronary Revascularization. *Circ J*. 2020 Feb 25;84(3):471-478.
- 5 Morita Y, Hamaguchi T, Yamaji Y, Hayashi H, Nakane E, Haruna Y, Haruna T, Hanyu M, Inoko M. Temporal trends in prevalence and outcomes of atrial fibrillation in patients undergoing percutaneous coronary intervention. *Clin Cardiol*. 2020 Jan;43(1):33-42.
- 6 Inoue S, ..., Hanyu M, ..., Sakamaki H. Cost-Effectiveness of Transcatheter Aortic Valve Implantation Using a Balloon-Expandable Valve in Japan: Experience From the Japanese Pilot Health Technology Assessment. *Value Health Reg Issues*. 2020 May;21:82-90.
- 7 Watanabe H, ..., Hanyu M, ..., Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG registry/cohort-2 nvestigators. Percutaneous coronary intervention versus coronary arterial bypass grafting in patients with multi-vessel coronary revascularization (from the CREDO-Kyoto PCI/CABG registry/cohort-2). *Catheter Cardiovasc Interv*. 2020 Jul;96(1):42-51.

小児科

(原著論文)

- 1 Daifu T#, Mikami M#, ..., Kamikubo Y*. Suppression of malignant rhabdoid tumors through Chb-M'-mediated RUNX1 inhibition. *Pediatr Blood Cancer*, 68(2):e28789, 2021. (査読有り)
- 2 Tomomasa R, ..., Shiota M, ..., Nobusawa S*. Ependymoma - like tumor with mesenchymal differentiation harboring C11orf95 - NCOA1/2 or - RELA fusion: A hitherto unclassified tumor related to ependymoma. *Brain Pathology*, 31(3): e12943, 2021. (査読有り)
- 3 羽田敦子、辻本考平、中塚由香利、宇野将一、小林賢治、丸毛 聡、加藤健太郎、秦 大資 新生児侵襲性 B 群連鎖球菌感染症防止を目的とした妊産婦スクリーニング検査および予防方法に関するアンケート調査 感染症学雑誌 94 巻 5 号 : 654-661 2020 年
- 4 吉田真衣、水本 洋、阿水利沙、本田憲胤、片山俊郎、秦 大資 脳性麻痺・発達障害を背景にもつ小児の睡眠障害に対する芳香浴の有効性の検討 日本新生児成育医学会雑誌 32 巻 2 号 p442-448 2020 年

(症例報告)

- 1 Sato Y, Shiota M*, Sasaki K, Hata A, Hata D. Early therapy with corticosteroid and surfactant for acute idiopathic pulmonary hemorrhage in

- infants: Two case reports. *Medicine*, 99 (21): e20281, 2020. (査読有り)
- 2 Iwata N, Asui R, Mizumoto H*, Hata D. Management of a Case of Transient Neonatal Diabetes Mellitus Using Continuous Glucose Monitoring. *Clin Pediatr Endocrinol*, 29(2):77-80, 2020. (査読有り)
 - 3 Akazawa R,..., Mikami M, Shiota M,..., Takita J*. Inotuzumabozogamicin is an effective treatment for CD22 - positive acute undifferentiated leukemia: A case report. *Pediatr Blood Cancer*, 68(5):e28976, 2021. (査読有り)
 - 4 Mikami M, Arai A, Mizumoto H*. Empagliflozin ameliorated neutropenia in a girl with glycogen storage disease Ib. *Pediatrics International*, (In press) 2021 (査読有り)
 - 5 Asui R*, Mizumoto H, Sato M, Hata D. Edi catheter related gastric perforation in a 373g infant. *Pediatrics International*, 63(6): 734-736, 2021. (査読有り)
 - 6 Yoshimura Y*, Yamashita S, Sato M, Iwano K, Kurita A, Hata D. The first successful Rendezvous procedure for pancreatic duct drainage in a pediatric case with obstructive pancreatitis. *Pancreas*, 50(3):e37-e39, 2021. (査読有り)
 - 7 中西祐斗、塩田光隆、伊藤由作、大岩香梨、木村美輝、羽田敦子、秦 大資 ステロイド隔日投与により血管炎の再燃を来し、シクロスポリン併用により寛解に至った紫斑病性腎炎の1例 小児科臨床 (0021-518X)73 巻 4 号 Page471-475 2020 年 4 月
 - 8 秋田充代、中川権史、佐藤結衣子、加藤健太郎、嵯峨謙一、佐藤正人、秦 大資 腸管気腫症を来した IgA 血管炎の1例 小児科 61 巻 6 号 921-925 頁 2020 年
 - 9 佐藤結衣子、中川権史、阿部純也、羽田敦子、秦 大資 IgA 血管炎に尿路結石症を併発した2例 小児科 61 巻 11 号 1559-1563 頁 2020 年
 - 10 野末圭祐、塩田光隆、中西祐斗、石嶺里枝、木村美輝、渡辺 健、嵯峨謙一、遠藤耕介、佐藤正人、秦 大資 初診時に急性腎不全を来していた後腹膜原発成熟 B 細胞性リンパ腫の1例 日本小児血液・がん学会雑誌 57 巻 2 号 p. 162-167 2020 年
 - 11 吉村元文、塩田光隆、澤田彩李、伊藤由作、澤田 健、遠藤耕介、佐藤正人、梅田雄嗣、滝田順子、秦 大資 ETV6-NTRK3 融合遺伝子変異を伴う先天性間葉芽腎腫の乳児例 日本小児放射線学会雑誌 36 巻 1 号 p. 46-51 2020 年 3 月 25 日
 - 12 岩田直也、中川権史、中西祐斗、野末圭祐、熊倉 啓、二村 元、西田南海子、岩崎孝一、秦 大資 急性副鼻腔炎から波及したと考えられる硬膜下膿瘍の一例 小児内科 2021 年
 - 13 坂部匡彦、熊倉 啓、佐々木宏太、石嶺里枝、中田昌利、秦 大資 Lamotrigine が有効であった小児周期性嘔吐症候群の1例 小児科診療 84(2); 289-292, 2021 年
 - 14 宮脇康輔、梶本智史、内原嘉仁、野末圭祐、伊藤由作、加藤健太郎、三上真充、秦 大資、塩田光隆 寛解導入中に低血糖を繰り返した急性リンパ性白血病の3歳女児 小児科臨床 74(6): inpress, 2021
 - 15 金森良介、宮脇康輔、荒井 篤、佐々木宏太、熊倉 啓、佐藤正人、秦 大資、塩田光隆 亜鉛補充を契機に発症した銅欠乏症、好中球減少に伴い難治性肺炎を呈した重症心身障害者(児) 日本小児科学会雑誌 in press 2021

形成外科

(原著論文)

- 1 Kobashi S, ..., Suzuki Y, ...Kojima H Transplantation of M2-Deviated Microglia Promotes Recovery of Motor Function after Spinal Cord Injury in Mice *Molecular Therapy*29(1); 264-85.
- 2 Takamura H,..., Suzuki Y and Kojima H Bone marrow-derived mononuclear cells relieve neuropathic pain after spinal nerve injury in mice *Molecular Therapy-Methods and Clinical Development*17; 657-665.

(症例報告)

- 1 Okano J, ...,Suzuki Y Bilateral plantar fibromatosis complicated by Dupuytren's contracture *Journal*

of Surgical Case Reports 2; 1-4.

皮膚科

(原著論文)

- 1 古賀玲子、吉川義顕 CMC 亜鉛華 (単) 軟膏の使い方 *Visual Dermatology* Vol.19 No.10, p1008-1009, 2020
- 2 吉川義顕 外用療法 ～理論を学び、実践に移す～ *Visual Dermatology* Vol.19 No.10, p990-993, 2020

(症例報告)

- 1 山上優奈、足立英理子、島 香織、一ノ名晶美、古賀玲子、吉川義顕 Localized Involitional Lipoatrophy の 1 例 皮膚科の臨床 62 巻 (13 号) p1924-1928、2020
- 2 足立英理子、島 香織、山上優奈、一ノ名晶美、古賀玲子、吉川義顕 中毒疹様皮疹を呈した血管芽球性 T 細胞リンパ腫の 1 例 臨床皮膚科 74 巻 5 号、p431-436、2020
- 3 足立英理子、横山恵里奈、山上優奈、古賀玲子、首藤加奈、石川奈美子、江川形平、吉川義顕 小陰唇に発生した多発粉瘤の 1 例 皮膚科の臨床 62(12)、p1752-1753、2020
- 4 Adachi E, Yokoyama E, Yamagami Y, Koga R, Yoshikawa Y. Bullous pemphigoid induced by nivolumab in a patient with malignant melanoma *Trends Immunother.*, 4(1): 15-17, 2020. (査読有り)
- 5 横山恵里奈、足立英理子、山上優奈、古賀玲子、吉川義顕 妊娠中に発症した *Yersinia enterocolitica* による右示指骨髄炎の 1 例 皮膚科の臨床 63 巻 2 号 p.177-182、2021

呼吸器センター 呼吸器内科

(原著論文)

- 1 Arai T,..., Marumo S,..., Inoue Y*. Efficacy of recombinant thrombomodulin for poor prognostic cases of acute exacerbation in idiopathic interstitial pneumonia: secondary analysis of the SETUP trial. *BMJ Open Respir. Res.*, 7(1):e000558, 2020. (査読あり)
- 2 Shirata M*,..., Marumo S,..., Fukui M. In vitro efficacy of combinations of eight antimicrobial agents against *Mycobacteroides abscessus* complex. *Int. J. Infect. Dis.*, 97:270-277, 2020. (査読あり、NPO 西日本呼吸器内科医療推進機構 2020 年奨励賞受賞)
- 3 Tanimura K, Sato S*,..., Hamakawa Y,..., Hirai T. Accelerated loss of antigravity muscles is associated with mortality in patients with COPD. *Respiration* 99(4):298-306, 2020. (査読あり)
- 4 Uemasu K,..., Hamakawa Y,..., Sato A*. Serine protease imbalance in the small airways and development of centrilobular emphysema in chronic obstructive pulmonary disease. *Am. J. Respir. Cell. Mol. Biol.* 63(1):67-78, 2020. (査読あり)
- 5 Tanimura K, Sato S*,..., Hamakawa Y,..., Muro S. Low serum free light chain is associated with risk of COPD exacerbation. *ERJ Open Research*, 6:00288-2019, 2020. (査読あり)

(総説)

- 1 北島尚昌*. Titrated oxygen therapy の重要性と酸素吸入デバイスの特徴. 呼吸器内科 37 (4):387-392, 2020. (査読なし)
- 2 北島尚昌*. 医師の視点から : 安定期のハイフローセラピー. みんなの呼吸器 *Respica* 18 (6): 815-819, 2020.

呼吸器センター 呼吸器外科

(原著論文)

- 1 Sumitomo R*, Murakami H, Otake Y, Huang C* Carcinoma of unknown primary in the middle mediastinum: three case reports. *Indian J. Surg.* 2020. doi.org/10.1007/s12262-020-02149-3 (査読有り)
- 2 Miyata R, ..., Sumitomo R, Huang C* The treatment and survival of patients with postoperative recurrent thymic carcinoma and neuroendocrine carcinoma: a multicenter retrospective study. *Surg. Today* 2020. doi.org/10.1007/s00595-020-02102-7 (査読有り)
- 3 Hamaji M, ..., Sumitomo R, Huang C* Are volume-dependent parameters in positron emission tomography predictive of postoperative recurrence after resection in patients with thymic carcinoma? *Surg. Today* 2020. doi:10.1007/s00595-020-02045-z (査読有り)

(症例報告)

- 1 村上裕亮*, 住友亮太, 大竹洋介, 黄 政龍. 孤立性線維性腫瘍の外科的切除7例の検討. 日呼外会誌 34(5): 294-300, 2020 (査読有り)

腎臓内科

(原著論文)

- 1 Yamamoto R, ..., Tsukamoto T, ..., Isaka Y. Incidence of remission and relapse of proteinuria, end-stage kidney disease, mortality, and major outcomes in primary nephrotic syndrome: the Japan Nephrotic Syndrome Cohort Study (JNSCS). *Clin Exp Nephrol.* 24(6):526-540, 2020 (査読あり)
- 2 Yokoyama H, ..., Tsukamoto T, ..., Isaka Y. Better remission rates in elderly Japanese patients with primary membranous nephropathy in nationwide real-world practice: The Japan Nephrotic Syndrome Cohort Study (JNSCS). *Clin Exp Nephrol.* 24(10):893-909, 2020 (査読あり)
- 3 Yamaguchi R, ..., Tsukamoto T, ..., Ohe K. Glomerular Classification Using Convolutional Neural Networks Based on Defined Annotation Criteria and Concordance Evaluation Among Clinicians. *Kidney Int Rep.* 6(3):716-726 5, 2020 (査読あり)
- 4 Takahashi-Kobayashi M, ..., Muso E, ... Yamagata K.; Age-dependent survival in rapidly progressive glomerulonephritis: A nationwide questionnaire survey from children to the elderly. *PLoS One.* 15(7):e0236017, 2020 (査読あり)
- 5 Uno K, Muso E, ..., Endo T, ..., Suzuki K.; Impaired HVJ-stimulated Interferon producing capacity in MPO-ANCA-associated vasculitis with rapidly progressive glomerulonephritis lead to susceptibility to infection. *Cytokine.* 136:155221, 2020 (査読あり)
- 6 Yokoi S, ..., Muso E, ..., Iwano M.; Analytical and clinical validation of rapid chemiluminescence enzyme immunoassay for urinary thioredoxin, an oxidative stress-dependent early biomarker of acute kidney injury. *Clin Chim Acta.* 507:271-279, 2020 (査読あり)

(総説)

- 1 Saito T, ..., Muso E; Apolipoprotein E-related glomerular disorders. *Kidney Int.* 97(2):279-288, 2020 (査読あり)
- 2 塚本達雄、宮田真紀子、平田憲子、細井信幸、松村由美、秋葉隆 血漿分離器血漿ポートの形状変更による血液浄化器取り違い事故対策(最終報告) *日本急性血液浄化学会雑誌* 11(1), 3-8, 2020 (査読あり)
- 3 成田一衛、岡田浩一、安田宜成、要 伸也、臼井丈一、板橋美津代、遠藤修一郎、遠藤知美、尾田高志、大矢昌樹、川嶋聡子、北川清樹、佐田憲映、長澤将、平橋淳一、廣村桂樹、川口隆久、宮脇義亜、高安真美子、坪井直毅、平山浩一、武曾恵理、湯村和子. *ANCA 関連腎炎の治療: エビデンスに基づく急速進行性糸球体腎炎 (RPGN) の診療ガイドライン 2020 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業難治性腎疾患に関する調査研究班 編集 東京医学社 2020 (査読あり)*

(症例報告)

- 1 Arai H.,..., Endo T., ..., Tsukamoto T., Yanagita M; Intensified hemodialysis for complicated pregnancy in a primigravida with advanced maternal age: a case report with literature review focusing on appropriate hemodialysis management during pregnancy. *Renal Replacement Therapy* 6:47, 2020 (査読あり)
- 2 Shibata S, ..., Endo T.,..., Kitano T; Borderline Case of TAFRO Syndrome and POEMS Syndrome. *Intern Med.* 60(10):1589-1595, 2021 (査読あり)

血液内科

(原著論文)

- 1 Fukunaga A. *, Okamoto Y., Shibata S., Inano S., Takiuchi Y., Yamamoto K., Tabata S. and Kitano T. (2020). "Efficacy of salvage therapy with MTX-HOPE for elderly patients with heavily pretreated non-Hodgkin's lymphoma." *J Clin Exp Hematop* 60(2): 37-40. (査読有り)
- 2 Matsui H., Arai Y. *, ..., Yamamoto K., ..., Takaori-Kondo A. (2020). "Risk factors and appropriate therapeutic strategies for thrombotic microangiopathy after allogeneic HSCT." *Blood Adv* 4(13): 3169-3179. (査読有り)
- 3 Morita-Fujita M., Arai Y. *,..., Kitano T.,..., Takaori-Kondo A. (2020). "Indication and benefit of upfront hematopoietic stem cell transplantation for T-cell lymphoblastic lymphoma in the era of ALL-type induction therapies." *Sci Rep* 10(1): 21418. (査読有り)
- 4 Nagahata Y., Kondo T. *,..., Kitano T., ..., Takaori-Kondo A. (2020). "High-dose cytarabine hemotherapy (≥ 4 g/m²/day) before allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for non-core-binding-factor AML in the first complete remission." *Leuk Lymphoma*: 1-9. (査読有り)
- 5 Wada F., Nishikori M. *, ..., Kitano T., ..., Takaori-Kondo A. (2020). "Secondary failure of platelet recovery in patients treated with high-dose thiopeta and busulfan followed by autologous stem cell transplantation." *Int J Hematol* 112(5): 609-613. (査読有り)
- 6 Watanabe M., Kanda J. *,..., Kitano T., ..., Takaori-Kondo A. (2020). "Impact of Donor Source on Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation for Mature T Cell and Natural Killer Cell Neoplasms in the Kyoto Stem Cell Transplantation Group." *Biol Blood Marrow Transplant* 26(12): 2346-2358. (査読有り)

(症例報告)

- 1 Shibata S. and Fukunaga A. * (2020). "Gamma heavy chain disease complicated by pulmonary hypertension, which was successfully treated with lenalidomide." *BMJ Case Rep* 13(11). (査読有り)

リウマチ膠原病内科

(原著論文)

- 1 Gon Y, Yoshifuji H*, Nakajima T., Long-term outcomes of refractory Takayasu arteritis patients treated with biologics including ustekinumab. *Modern Rheumatology*, 31(3): 678-673, 2021. (査読有り)
- 2 Kawahara R, Nakabo S*, ..., Nakajima T.,.... Feasibility of patient-oriented ultrasound joint selection: Cross-sectional observational study on rheumatoid arthritis. *Modern Rheumatology*, 30(6): 975-981, 2020. (査読有り)
- 3 Onizawa H, ..., Funabiki M., ..., Fujita T*. Aicardi-Goutières syndrome-like encephalitis in mutant mice with constitutively active MDA5. *International Immunology*, 33(4): 225-240, 2021. (査読有り)
- 4 Abu Tayeh A, Funabiki M., ..., Fujita T*. Psoriasis-like skin disorder in transgenic mice expressing a

RIG-I Singleton-Merten syndrome variant. *International Immunology*, 33(4): 211-224, 2021. (査読有り)

- 5 Nakabo S*, ..., Nakajima T, ..., Fujii Y. Severe joint deformity and patient global assessment of disease are associated with discrepancies between sonographic and clinical remission: A cross-sectional study of rheumatoid arthritis patients. *Modern Rheumatology*, 31(2): 334-342, 2021. (査読有り)

脳神経内科

(原著論文)

- 1 Oka Y*, Saiki H, Hashimoto Y, Terada Y, Nakamura T, ..., Matsumoto S. Japanese familial cases of frontotemporal dementia and Parkinsonism with N279K tau gene mutation. *Mov Disord Clin Pract.*, 8(1): 126-132, 2020. (査読有り)
- 2 Watanabe H*, Saiki H, ..., Y; J-FIRST Group. Real-world nonmotor changes in patients with Parkinson's disease and motor fluctuations: J-FIRST. *Mov Disord Clin Pract.*, 7(4): 431-439, 2020. (査読有り)

(症例報告)

- 1 Oka Y*, Tabu H, Matsumoto S. Tuberculous meningitis presenting with nonconvulsive status epilepticus and transient diffusion restriction: a rare case. *Neurol India.*, 68(2): 512-514, 2020. (査読有り)
- 2 Oka Y, Komatsu K*, Abe S, Yoshimoto N, Taki J, Matsumoto S. Acute brainstem dysfunction caused by cavernous sinus dural arteriovenous fistula. *Case Rep Neurol Med.*, 2630959, 2020. (査読有り)
- 3 Hirato T, Komatsu K*, Nishida N, Matsumoto S. Intraventricular primary central nervous system lymphoma mimicking ventriculitis. *Intern Med.*, 60(11): 1797-1798, 2021. (査読有り)

脳神経外科

(原著論文)

- 1 Oka Y*, Saiki H, Hashimoto Y, Terada Y, Nakamura T, ..., Matsumoto S. Japanese familial cases of frontotemporal dementia and Parkinsonism with N279K tau gene mutation. *Mov Disord Clin Pract.*, 8(1): 126-132, 2020. (査読有り)
- 2 Watanabe H*, Saiki H, ..., Y; J-FIRST Group. Real-world nonmotor changes in patients with Parkinson's disease and motor fluctuations: J-FIRST. *Mov Disord Clin Pract.*, 7(4): 431-439, 2020. (査読有り)

(症例報告)

- 1 Oka Y*, Tabu H, Matsumoto S. Tuberculous meningitis presenting with nonconvulsive status epilepticus and transient diffusion restriction: a rare case. *Neurol India.*, 68(2): 512-514, 2020. (査読有り)
- 2 Oka Y, Komatsu K*, Abe S, Yoshimoto N, Taki J, Matsumoto S. Acute brainstem dysfunction caused by cavernous sinus dural arteriovenous fistula. *Case Rep Neurol Med.*, 2630959, 2020. (査読有り)
- 3 Hirato T, Komatsu K*, Nishida N, Matsumoto S. Intraventricular primary central nervous system lymphoma mimicking ventriculitis. *Intern Med.*, 60(11): 1797-1798, 2021. (査読有り)

乳腺外科

(原著論文)

- 1 葛城遼平、鈴木義久、武田孝輔、首藤加奈、武田紘司、石川奈美子、高原祥子* 乳房切除後の広範囲皮膚欠損に対する thoracoepigastric flap と thoracoabdominal flap の有用性 Oncoplastic Breast

Surgery 2020 5 (3) P61-67 (査読有り)

泌尿器科

(原著論文)

- 1 Soda T*, Tashiro Y, Koike S, Ikeuchi R, Okada T. Overactive bladder medication: Persistence, drug switching, and reinitiation. *Neurol Urodyn*. 39(8):2527-2534, 2020. 査読あり

整形外科

(症例報告)

- 1 平雄一郎、岩井輝修、麻田義之 侵入経路不明の化膿性屈筋腱鞘炎の1例 中部整災誌 2020 63巻5号 p705-706 (査読なし)
- 2 國下貴英、麻田義之 肩関節に生じた樹枝状脂肪腫の1例 中部整災誌 2020 63巻5号 p.743-744 (査読なし)

小児外科

(原著論文)

- 1 Kengo Hattori*, ..., Masahito Sato. Cyst size in fetuses with biliary cystic malformation: An exploration of the etiology of congenital biliary dilatation. *Pediatric Gastroenterol Hepatol Nutr*,23(6)531-538, 2020. (査読あり)

(総説)

- 1 諸富嘉樹、佐藤正人、遠藤耕介、東尾篤史 特集：そこが知りたいシリーズ：手術に必要な局所解剖(腹部編)：虫垂切除術(虫垂炎) 小児外科 52(2)130-133. 2020 (査読なし)
- 2 阪 龍太、曹 英樹、佐藤正人 特集：Hirschsprung 病手術の現在：日本内視鏡外科学会ガイドライン(2019年度版) 小児外科,52(4)335-338. 2020 (査読なし)
- 3 遠藤耕介、佐藤正人、東尾篤史、諸富嘉樹 特集：Hirschsprung 病手術の現在：re-do 手術小児外科 52(4)410-413. 2020 (査読なし)
- 4 佐藤正人 特集：小児内視鏡外科手術の術中・術後合併症と対策：日本内視鏡外科学会アンケート調査 小児外科 52(11)1141-1145. 2020 (査読なし)
- 5 遠藤耕介、嵯峨謙一、東尾篤史、諸富嘉樹、佐藤正人 特集：小児内視鏡外科手術の術中・術後合併症と対策：噴門形成術時の経鼻胃管縫い込み 小児外科 52(11)1191-1194. 2020 (査読なし)
- 6 宮内玄德、畠山 理、佐藤正人 特集：小児内視鏡外科手術の術中・術後合併症と対策：小児における胆道系疾患手術時の異所性胆管損傷 小児外科 252(11)1211-1215. 2020 (査読なし)

(症例報告)

- 1 Endo K, Sato M*, Kenichi Saga, Atsushi Higashio, Yoshiaki Yuba, Yoshiki Morotomi Torsion of vermiform appendix: case report and review of the literature *Surg Case Rep*6(1)6. 2020 (査読あり)
- 2 吉村元文、塩田光隆、澤田彩李、伊藤由作、澤田 健、遠藤耕介、佐藤正人、梅田雄嗣、滝田順子、秦大資 ETV6-NTRK3 融合遺伝子変異を伴う先天性間葉腎芽腫の乳児例 日本小児放射線学会雑誌 36(1)46-51. 2020 (査読あり)
- 3 野末圭祐、塩田光隆、中西祐斗、石嶺里枝、木村美輝、渡辺 健、嵯峨謙一、遠藤耕介、佐藤正人、秦大資 初診時に急性腎不全を来していた後腹膜原発成熟 B 細胞性リンパ腫の1例 日本小児血液・がん学会雑誌 57 巻 2 号 p. 162-167. 2020 (査読あり)

産婦人科

(原著論文)

- 1 Kawai E, ..., Ngô C*. Impact of obesity on surgical and oncologic outcomes in patients with

endometrial cancer treated with a robotic approach. *J Obstet Gynaecol Res.*, 47(1):128-136, 2021 (査読あり)

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

(原著論文)

- 1 Kanemaru S*, Kanai R,.... Multicenter phase III trial of regenerative treatment for chronic tympanic membrane perforation. *Auris Nasus Larynx*. 2021. 48,1054-1060. (査読有り)
- 2 Kanemaru S*. In-office patch myringoplasty. *Operative Techniques in Otolaryngology* 2021, 32, 111–15 (査読有り)
- 3 Kanai R*, Kanemaru S, Tamura K, Noda Y, Umezawa N, Yoshida M, Miwa T, Yamaguchi T, Kita S, Kumazawa A, Harada H, Maetani T. Hearing Outcomes and Complications of Cochlear Implantation in Elderly Patients over 75 Years of Age. *J Clin Med*. 2021 Jul 15;10(14):3123. doi: 10.3390/jcm10143123.PMID: 34300290 (査読有り)
- 4 Miwa T*, ..., Wen-Jie Song, Ryosei Minoda Tsukushi is essential for the development of the inner ear. *Molecular Brain* 13, 29, 2020 (査読有り)
- 5 Miwa T*, ... Lipid nanoparticles-encapsulated brain-derived neurotrophic factor mRNA delivered through the round window niche in the cochleae of guinea pigs *Exp Brain Res*, 239(2), 425-433, 2021. doi: 10.1007/s00221-020-05970-0. (査読有り)
- 6 Miwa T*,... Cholesteatoma Imaging Using a Digital Image Enhancement System During Endoscopic Ear Surgery. *Otology & Neurotology* 42(2), e244, 2021 doi: 10.1097/MAO.0000000000002854 (査読有り)
- 7 Miwa T* Protective Effects of N1-Methylnicotinamide Against High-Fat Diet- and Age-Induced Hearing Loss via Moderate Overexpression of Sirtuin 1 Protein. *Frontiers in Cellular Neuroscience* 15, 102, 2021, doi:10.3389/fncel.2021.634868 (査読有り)
- 8 Miwa T*, ..., Yamaguchi T, Kita S, ..., Kanemaru S, Application of artificial intelligence using a convolutional neural network for detecting cholesteatoma in endoscopic enhanced images. *Auris Nasus Larynx*. 2021 Apr 3:S0385-8146(21)00094-8. doi: 10.1016/j.anl.2021.03.018. Online ahead of print. (査読有り)
- 9 Shinohara S*, Harada H, Neck dissection for cervical lymph node metastases from remote primary malignancies. *Medicina*, 56(7): 343, 2020. (査読有り)
- 10 Miwa T*, Tsukushi is essential for the development of the inner ear. *Molecular Brain*, 13: 29, 2020. (査読有り)
- 11 Miyake S*, Miwa T, Relationship between clinicopathological characteristics and CYLD expression in patients with cholesteatoma. *PLoS ONE*, 15(10): e0240216, 2020. (査読有り)
- 12 三輪 徹*、安田知久 Foulage test における 6 軸モーションセンサを用いた動的体平衡研究 *Equilibrium Research* 79(2):80-87, 2020
- 13 三輪 徹*、蓑田涼生、魏 范研、折田頼尚、富澤一仁 メタボローム解析を用いたミトコンドリア機能異常による加齢性難聴の原因解明 *Otl Jpn* 30 (3): 1–6, 2020 (査読有り)

(総説)

- 1 Kanemaru S. A tissue-engineering approach to tympanic membrane regeneration. *The principles of regenerative medicine*. p38-46, p95-104, 24, Jan, 2020, Editor Masanori Fukushima, *Editorial Translational Research Center for Medical Innovation*, Kobe, Japan (査読なし)
- 2 Miwa T, Tomizawa K*. Use of cell-penetrating peptides to enhance delivery performance. Systemic delivery technologies in anti-aging medicine: methods and applications. *Healthy ageing and longevity*, vol 13. Chapter 16, pp411-432, 2020. Editor Lai WF. Springer, Cham. Switzerland. (査読なし)
- 3 金丸眞一* 鼓膜再生療法の小児への応用 小児耳鼻 (in press), 2021
- 4 金丸眞一* 耳科学におけるトランスレーショナルリサーチとレギュラトリーサイエンス 私の通った道

－実用化研究 tips and pitfalls－鼓膜再生療法の保険適用への道－ Otl Jpn (in press), 2021

- 5 金丸眞一* 日本発の新規医療—鼓膜再生療法の健康保険適用と現状・今後の展望— 日耳鼻 (in press), 2021

(症例報告)

- 1 北真一郎、山本典生*、岡野高之、大森孝一 聴力に異常のないアブミ骨欠損症例. 耳鼻臨 114: 189-193, 2021
- 2 金井理絵*、金丸眞一、山口智也、北真一郎、大坂和士 乳突削開術を含む中耳手術を行った急性乳様突起炎の検討 Otl Jpn 30 (2): 1-6, 2021 (in press)
- 3 熊澤明子、原田博之*、大坂和士、北真一郎、山口智也、三輪 徹、金井理絵、前谷俊樹、金丸眞一 妊娠中に多発転移の状態で見つかった舌下腺腺様嚢胞癌の一例 耳鼻臨 (in press), 2021

歯科口腔外科

(原著論文)

- 1 Murashima-Suginami A, ..., K. Takahashi K*. Anti-USAG-1 therapy for tooth regeneration through enhanced BMP signaling, *Sci Adv*, 7(7), eabf1798, 2021 (査読有り)
- 2 Mishima S, Takahashi K*, ..., Local application of USAG-1 siRNA has potential to regenerate teeth in Runx2-deficient mice, *Sci Rep*, 11(11), 13674, 2021 (査読有り)
- 3 Adachi J, ..., Takahashi K, ..., Tokita Y. Novel MSX1 frameshift mutation in Japanese family with nonsyndromic oligodontias. *Hum Genome Var*, 8(1):29, 2021 (査読有り)
- 4 Goto H, ..., Takahashi K, ..., Tokita Y. A Novel LRP6 variant in a Japanese family with oligodontia. *Hum Genome Var*, 8(1):30, 2021 (査読有り)
- 5 Fukuhara S, ..., Takahashi K, ..., Association between tooth loss and longitudinal changes in B-type natriuretic peptide over 5 years in postmenopausal women: the Nagahama Study. *Curr Probl Cardiol*. 2021 Sep 25:100997. doi: 10.1016/j.cpcardiol.2021.100997. Online ahead of print. (査読有り)

(総説)

- 1 Takahashi, K*, ..., Bessho K. Development of tooth regenerative medicine strategies by controlling the number of teeth using targeted molecular therapy. *Inflamm Regen*, 40:21, 2020 (査読有り)

病理診断科

(原著論文)

- 1 Iioka F, ..., Honjo G, ..., Ohno H*. Resolution of bone, cutaneous, and muscular involvement after haploidentical hematopoietic stem cell transplantation followed by post-transplant cyclophosphamide in adult T-cell leukemia/lymphoma. *Clin. Case Rep*. 8(8): 1553-1559, 2020.
- 2 Tomomasa R, ..., Yuba Y, ..., Nobusawa S*. Ependymoma-like tumor with mesenchymal differentiation harboring C11orf95 - NCOA1/2 or - RELA fusion: A hitherto unclassified tumor related to ependymoma. *Brain Pathol*. 31(3):e12943. 10.1111/bpa.12943 2021.

麻酔科

(原著論文)

- 1 清水貞則*, 中村 緑, 佐藤めぐみ, 橋本武昌, 小林靖雄, 吉田秀人, 中尾謙太, 石井久成 カリウム吸着フィルタの残血回収によるカリウム流出の検討 麻酔 2020 69巻 P1046-1050, (査読有り)

薬剤部

(原著論文)

- 1 大野恵一, 村田龍宣, 近藤 篤*, 尾上雅英*, 松本公佑, 渡邊裕之, 星田唯史, 眞下恵次, 平 大樹, 角本幹夫, 菅野清彦, 本多伸二 アブラキサン®再溶解時間に対する側孔型プラスチック製注射針の有用性に関する検討 医療薬学 2020 46巻 P367-372 (査読あり)

- 2 山田智之,行本拓史,村井千恵,吉野秀紀,竹内祐介,角谷龍哉,安井友佳子,眞継賢一,上田 覚*,石坂敏彦,関雅文,西原雅美,勝間田敬弘 “抗菌化学療法研究会”大阪抗菌薬倶楽部(大阪 ABC)”による抗菌薬適正使用の教育効果に関するアンケート調査研究 日本病院薬剤師会雑誌 2020 56 巻 P553-559 (査読あり)

(症例報告)

- 1 小林和博,上ノ山和弥*,伊藤俊和*,三宅麻文*,中川俊作,山内淳嗣*,八隅秀二郎*,尾上雅英* 維持血液透析中の食道癌に対するフルオロウラシルとシスプラチン併用療法により高アンモニア血症を生じた症例 医療薬学 2020 46 巻 P600-605 (査読あり)

糖尿病内分泌内科

(総説)

- 1 濱崎暁洋 高齢者の糖尿病①高齢者と腎機能障害 シニア世代で糖尿病があると腎臓にも影響が出る？. 月間糖尿病ライフさかえ 2021 61 巻 5 号 (査読無し)

(症例報告)

- 1 Yoshiji S#, Iwasaki Y#, Iwasaki K, Honjo S, Hirano K,... , Hamasaki A*. Alu-mediated MEN1 gene deletion and loss of heterozygosity in a patient with multiple endocrine neoplasia type 1. *J Endocr Soc.* 4(8): bvaa051, 2020. (査読有り)
- 2 Seno Y#, Iwasaki Y, Aizawa-Abe M, Iwasaki K, Yoshiji S, Honjo S, Hamasaki A*. Facilitating screening of Klinefelter syndrome among patients with diabetes. *J Diabetes Investig.* 11: 506-507, 2020. (査読有り)
- 3 金丸良徳, 小倉雅仁, 濱崎暁洋, 寺本祐記, 稲垣暢也* 発症前の膵組織を観察し、発症の臨床経過を観察し得た劇症 1 型糖尿病の 1 例. 糖尿病 2020 63 巻 10 号 P724-731 (査読有り)

リハビリテーションセンター

(症例報告)

- 1 松岡 森, 山田修, 中上和洋, 佐竹裕輝, 上坂建太, 大洞佳代子, 本田憲胤 ADL 維持向上等体制加算におけるリハビリテーション開始基準の検討 厚生 の 指 標 2020 第 67 巻 15 号 p22-25
- 2 久津輪正流, 原田博之 頸部郭清後の僧帽筋と胸鎖乳突筋麻痺に対し電気刺激と促通反復療法の併用が効果的であった中咽頭後壁癌の 1 症例 癌と化学療法 第 47 巻 10 号 2020 p1489-1491

出版

消化器内科

- 1 栗田亮、岩野光祐、森義治、東俊二郎、八隅秀二郎 臍のう胞性病変におけるのう胞内容液分析 肝胆膵 2020年 80(3),435-441
- 2 八隅秀二郎 10mm以下膵癌診断における地域医療連携システム構築の課題と役割：都市型システム構築 胆と膵 2020年 41(4),381-385
- 3 佐久間洋二郎、八隅秀二郎 耳かきブラシ Trefle 消化器内視鏡 東京医学社 2020年 32(6),868-870
- 4 北野雅之、八隅秀二郎、松本和也、花田敬士 膵臓がん早期診断の現状と課題 Vita ダン社 2020年 37(3),1-14
- 5 八隅秀二郎 癌診療の地域連携について教えて下さい 膵胆道癌 FRONTIER メディカルビュー社 2020年 8(1),30-32

呼吸器内科

- 1 福井基成（共著） NPPV noninvasive positive pressure ventilation（非侵襲的陽圧換気療法）、日本呼吸器学会編集 新呼吸器専門医テキスト 改訂第2版 pp241-246、南江堂、東京、2020年（8月）

循環器内科

- 1 中根英策 10分でわかる心臓病 慢性心不全（HFpEF） ハートナーシング 33(3): 276-277 2020 メディカ出版
- 2 牧田茂 他、中根英策（協力員） 2021年改訂版 心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン 2021 日本循環器学会
- 3 磯部光章他、中根英策（協力員） 地域のかかりつけ医と多職種のための心不全診療ガイドブック 2021 厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

小児科

- 1 渡辺 健 特集 発生から紐解く胎児超音波診断アトラス[Web 動画付] 第3章 胎児心臓の超音波検査 2.流出路異常 c.両大血管右室起始症 pp.1349-1354 産婦人科の実際 69巻 12号、2020年 11月 30日、金原出版
- 2 渡辺 健 特集 発生から紐解く胎児超音波診断アトラス[Web 動画付] 第3章 胎児心臓の超音波検査 2.流出路異常 d.純型肺動脈閉鎖 pp.1355-1361 産婦人科の実際 69巻 12号、2020年 11月 30日、金原出版
- 3 羽田敦子 小児感染症医からみた新型コロナウイルス感染症 保育会 10月号 2020年 日本保育協会
- 4 羽田敦子 アラーム療法 小児内科 11月号 2020年 東京医学社
- 5 羽田敦子 子どものインフルエンザ予防 まみたん 12月号 2020年 まみたん編集部（株式会社 関西ぱど）
- 6 水本 洋 知っておきたい蘇生時のデバイス with NEO 34巻 2号 p44-46 2021年 メディカ出版

小児外科

- 1 佐藤正人（分担執筆）縫合 結紮スタンダード小児内視鏡科手術書 押さえておきたい手技のポイント 田口智章・奥山宏臣 監修 メジカルビュー社 2020,P27-28
- 2 佐藤正人（分担執筆）横隔膜ヘルニア／腹腔鏡スタンダード小児内視鏡科手術書 押さえておきたい手技のポイント 田口智章・奥山宏臣 監修 メジカルビュー社 2020,P99-102
- 3 諸富嘉樹、佐藤正人、遠藤耕介（分担執筆） 精索水腫／Nuck 水腫スタンダード小児内視鏡科手

術書 押さえておきたい手技のポイント 田口智章・奥山宏臣 監修 メジカルビュー社
2020,P131-132

救急部

- 1 新谷 裕 第2章中毒性疾患 節足動物刺症（ハチ、セアカゴケグモなど） 今日の治療指針 2021
年度版 p161 2020年1月発行 医学書院

緩和ケア科

- 1 梶山 徹 ACP（人生会議）の理解 人生会議でこころのケア P10-34 2020 ビイニング・ネッ
ト・プレス

耳鼻咽喉科

- 1 Shin-ichi Kanemaru A tissue-engineering approach to tympanic membrane regeneration. The
Principles of Regenerative Medicine. p38-46, p95-104, 24, Jan, 2020, Editor Masanori
Fukushima, Editorial Translational Research Center for Medical Innovation, Kobe, Japan
- 2 金丸眞一 難聴の治療—再生医療から人工聴覚器まで 医学のあゆみ（大森孝一編） 678 - 682 頁、
医歯薬出版株式会社 Vo.276 No7 東京 2021.
- 3 金丸眞一 鼓膜再生療法 耳鼻咽喉科診療の新しいテクノロジー ENTONI（池園哲郎編） 25 - 33
頁、 全日本病院出版会、東京 2020.
- 4 金丸眞一 外傷性鼓膜穿孔新鮮例に対する処置 連載 外来診療における私の処置 JOHNS Vol.36
No.11 2020. 東京

神経精神科

- 1 高木賢一：身体症状症. In：宮地良樹（総編集）：各科スペシャリストが伝授-内科医が知っておくべ
き疾患 102, p.130.-131. 中山書店、東京、2020年

薬剤部

- 1 尾上雅英 編集後記 大阪府薬剤師会雑誌 69(6) : 92, 2020.
- 2 尾上雅英 Mohs ペーストの作り方 J Visual Dermatology 19(10) : 1006-1997, 2020.
- 3 高橋有 day3：風邪に対する抗菌薬投与は肺炎をどのくらい予防するか day4：「うがい」の習慣
は風邪の予防にどのくらい役に立つか 「1日1論文、30日で、薬剤師としてレベルアップ! 医学
論文の活かし方」 P19, P28 編著：児島悠史、上田昌宏 金芳堂

栄養部

- 1 巽 絢子、黒川典子、本庶祥子 患者にそのまますすめられる! タイプ別 おすすめコンビニ食&中
食 6 高齢だが一人で食事の用意ができる独居の F さん 糖尿病ケア 18(1): 39-43 メディカ出版
2021年
- 2 京面ももこ、黒川典子、本庶祥子 患者にそのまますすめられる! タイプ別 おすすめコンビニ食&
中食 7 高齢で家族や介護者の支援が必要な独居の G さん 糖尿病ケア 18(1): 44-48 メディカ出
版 2021年
- 3 京面ももこ、巽 絢子、他 栄養剤の選択 栄養療法ドリル 評価・指示の出し方から病態考え方
までまるっとわかる 100問（泉野浩生/編） P92-103 羊土社 2021年

看護部

- 1 高橋美稀 みんなの呼吸器 Respica レスピカ誌 メディカ出版 2021/3/3

